



第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会



神奈川大会

感じる
つくる
生きる

～今をみつめ 明日を育む造形活動～

日時 平成28年11月17日(木)・18日(金)
《全体会場》
関内ホール

会場 《公開保育・公開授業・分科会会場》
幼稚園：鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園
小学校：横浜市立西寺尾小学校
中学校：横浜市立仲尾台中学校
高等学校：神奈川県立上矢部高等学校



第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会

神奈川大会

大会テーマ

「感じる つくる 生きる」

～今を見つめ 明日を育む造形活動～



各会場に駐車スペースはありません。公共交通機関をご利用ください。

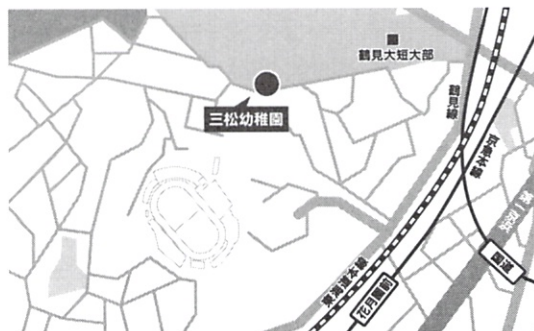


〒231-0013 神奈川県横浜市中区住吉町4-42-1 TEL:045-662-1221

- 新横浜駅からJR菊名駅で乗換え 東横線利用 約21分
(みなとみらい線直通)「馬車道駅」5番出口より徒歩5分

〒231-0023 横浜市中区山下町16 TEL:045-662-2221

- みなとみらい線 元町・中華街駅 4番出口より徒歩1分
- 新幹線ご利用の場合
- 新横浜駅から市営地下鉄横浜で乗換え
みなとみらい線利用 約30分「元町・中華街駅」4番出口より徒歩1分
- 新横浜駅から JR 菊名駅で乗換え
東横線利用 約25分(みなとみらい線直通)「元町・中華街駅」4番出口より徒歩1分



〒230-0063 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3 TEL:045-573-8819

- 京浜急行本線 花月園前駅 徒歩約9分
新幹線ご利用の場合
 ●新横浜駅からJR東神奈川駅で乗換え
 徒歩5分で京浜急行本線仲木戸駅利用 花月園前駅下車 徒歩約9分
 ●品川駅から京浜急行乗車 花月園前駅下車 徒歩約9分
 (花月園前駅は普通電車のみの停車となりますので快特乗車の場合は京急川崎駅で乗換が必要)



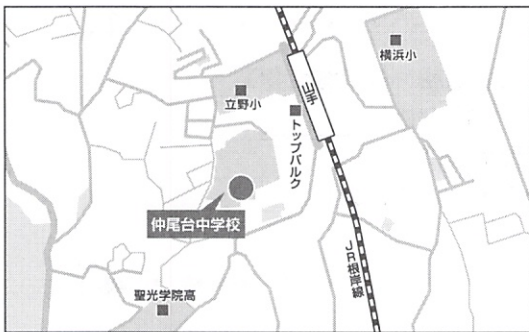
■ 小学校会場 …… 横浜市立西寺尾小学校

〒221-0001 横浜市神奈川区西寺尾 2-5-1 TEL:045-431-1279

- JR横浜線 大口駅下車 徒歩8分

新幹線ご利用の場合

- 新横浜駅からJR横浜線で乗換6分 大口駅下車8分



■ 中学校会場 …… 横浜市立仲尾台中学校

〒231-0839 横浜市中区仲尾台23 TEL:045-621-9600

- JR根岸線 山手駅下車 徒歩約6分

新幹線ご利用の場合

- 新横浜駅からJR横浜線で乗換
東神奈川駅でJR京浜東北線乗換約24分
山手駅下車 徒歩約6分
- 新横浜駅から横浜市営地下鉄ブルーライン乗換
横浜駅でJR京浜東北線乗換約27分、山手駅下車 徒歩約6分



■ 高等学校会場 …… 神奈川県立上矢部高等学校

〒245-0053 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町3230 TEL:045-861-3500

- JR 戸塚駅・地下鉄戸塚駅より

バス利用の場合

- 1.駅からバス停までは約5分程度。
- 2.西口第二バス停上矢部循環バス(上矢部高校バス停下車)
所要時間バス約8分(但し6時から14時発までのバス)
※14時以降のバスは遠回りになり14分から19分かかります。
- 3.上矢部高校バス停下車で徒歩3分
(所要時間はバスと徒歩で20分程度、14時以降は30分程度かかります。)

徒歩の場合

- 横浜市営地下鉄踊場駅から徒歩で20分程度です。
出入口 No.4を利用してください
 - 相模鉄道いずみ野線弥生台駅よりバスと徒歩になります。
(徒歩のみは不可能です。)
- 1.バス利用 戸塚バスセンタ行き戸79系統バス乗車時間10分～15分程度
 - 2.領家(りょうけ)中学校前 バス停で下車後、徒歩13分
(バスと徒歩で所要時間は23分～28分程度です。)

新幹線ご利用の場合

- 新横浜駅から横浜市営地下鉄ブルーライン乗換32分 戸塚駅下車バス
横浜市営地下鉄ブルーライン乗換横浜駅でJR東海道本線乗換約28分 戸塚駅下車バス
新横浜駅から横浜市営地下鉄ブルーライン乗換35分 踊場下車 徒歩約20分

目 次

◇会場アクセス	2
◇目次	4
◇あいさつ・謝辞	5
◇大会日程	8
◇全体会次第・講師紹介	9
◇基調提案	10
◇公開保育・公開授業	13
○ 幼稚園公開保育・指導案（鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園・3 保育公開）	
○ 小学校公開授業・指導案（横浜市立西寺尾小学校・14 授業公開）	
○ 中学校公開授業・指導案（横浜市立仲尾台中学校・6 授業公開）	
○ 高等学校公開授業・指導案（神奈川県立上矢部高等学校・1 授業公開）	
◇校種別分科会	47
「みてみて！」感じるままに	51
○ 幼稚園分科会提案（ワークショップ）	
「やりたい！やってみたい！」思いのままに	53
○ 小学校分科会提案	
A 表現（1）造形遊び（分科会 No.2a・2b・3a・3b・4a・4b）	
A 表現（2）絵や立体・工作に表す（分科会 No.5a・5b・6a・6b・7a・7b・8a・8b・9a・9b）	
B 鑑賞（1）（分科会 No.10a・10b・11a・11b）	
特別支援学級（分科会 No.12a・12b）	
「…きめた。」わたしがわたしをつくるとき	77
○ 中学校分科会提案	
A 表現（1）（3）（分科会 No.13a・13b・14a・14b）	
A 表現（2）（3）（分科会 No.15a・15b・16a・16b）	
B 鑑賞（1）（分科会 No.17a・17b・18a・18b）	
「こうしてみよう！」つながる学び	91
○ 高等学校分科会提案	
中高美術工芸の今…（分科会 No.19a）	
◇参考資料	93



あいさつ

関東甲信越静地区造形教育連合
理事長
本間 基史

第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会が造形教育に関わる先生方や多くの皆様をお迎えして催すことができますことに感謝申し上げます。

学習指導要領の改訂に向けて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」という資質・能力の3つの柱を育成するための学習過程の質的改善が求められています。

今回、神奈川大会では大会テーマを「感じる つくる 生きる」～今をみつめ 明日を育む造形活動～とし研究をすすめて参りました。教科の特質に応じた図工・美術における「主体的・対話的で深い学び」が問われています。思考・判断・表現し、深い理解や資質・能力の育成、学習への動機づけにつなげる「深い学び」が実現できているか。

また、表現活動、鑑賞において児童、生徒同士の協働や教師や地域の方、美術館の方やアーティストとの対話から、自らの考えを広め深める「対話的学び」が実現できているか。

学ぶことや表現することに興味や関心をもち、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

このような3つの視点から大会をご参観いただければと思います。今回、関東甲信越静地区造形教育連合では、「アクティブラーニング」の3つの視点からまとめた実践資料集を作成いたしました。ホームページから実践資料をダウンロードできるようにいたしましたので、各都県でご活用いただければ幸いです。最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、文部科学省、神奈川県教育委員会をはじめ、各教育関係諸団体より多くのご指導と厚いご支援をいただき、ここに開催できましたことを心より感謝申し上げます。また、本研究大会にご参集の皆様に、厚く御礼申し上げます。



神奈川大会開催にあたり

関東甲信越静地区造形教育研究大会
神奈川大会運営委員長
瀧澤 優子

「第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会」が、ここ神奈川・横浜の地で開催できますことを大変嬉しく思っております。また、造形教育に関わる多くの皆様に、神奈川の子どもたちの「感性豊かに生きる姿」をご覧いただけます機会に恵まれましたことに感謝申し上げます。

大会テーマを「感じる つくる 生きる」とし、今をみつめ、明日を育む造形活動について、校種をこえて研究して参りました。

子どもが瞳を輝かせ、材料にかかわる！えがく！つくる！みる！感じるまま、思いのままに無から新たな自分だけの何かをつくりだす！造形的な創造活動を真に楽しむ子どもの姿や表情は、かけがえがないと改めて強く思います。集中した面持ちで、時には、独り言をつぶやきながら、またある時は、周りを見つめ、友達の表現に共感しながら、子ども一人ひとりが自分の創造する何か（形あるものも、形無いものも）をつくり つくりかえ またつくることに奮闘します。つくりながら、考え、試し、発見し、自分で決め、解決し、つくりだす喜びを味わうことは、未来を生きる確かな力を培うことであると捉えます。時を刻み、生活をつくり、自分をつくる・・・まさにつくることは生きること！！造形的な創造活動において、子どもが様々な対象に関わり、感性を働かせながら、自分なりの価値や意味をつくりだし、豊かな情操を養う姿は、子どもの命輝く瞬間であると考えます。

最後になりましたが、本大会開催にあたり、文部科学省をはじめ、教育関係諸団体の皆様より絶大なるご指導ご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。ご参会の皆様に少しでも「神奈川らしさ」を感じていただけたら幸いです。神奈川大会へのご参加、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



ご挨拶

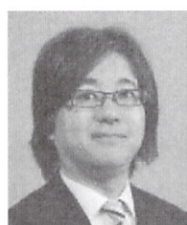
文部科学省初等中等教育局
教育課程課教科調査官
岡田 京子

大会テーマ『感じる つくる 生きる～今をみつめ明日を育む造形活動』のもと、「第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会」が開催されますことをお祝い申し上げます。

現在、次期学習指導要領の改訂に向けて様々な議論が行われています。ここでは、子供たちの現状や課題についての分析と、これから子供たちが活躍する将来についての見通し等を議論の出発点として、教育関係者だけではなく広く社会においてより分かりやすく理解できるよう整理し、教職員間、学校段階間、学校と社会との間の相互連携を促すことなどを目指しています。幼稚園、小学校、中学校、高等学校の公開授業、様々な地区からの先生方の参加による研究会の開催は、現行の学習指導要領の趣旨の実現においても、社会に開かれた教育課程を重視した次期学習指導要領の改訂においても、大きな意味があります。心より感謝申し上げます。

さて、開催地区の学校には何度も研究授業や研究協議会に参加させていただきました。どの学校でも、真摯に子供に向き合い、学校全体で研究に取り組んでいました。特に子供の姿から授業改善をするという意気込みには、頭が下がるばかりでした。これまで積み重ねてきた研究に自信を持ち公開授業に挑んでほしいと思います。そして、参加された先生方は、公開授業で子供の姿を見つめ、そして授業研究会、分科会で意見を交流し、本大会で得られた子供のよさや可能性、造形教育の意義を参加された先生方のそれぞれの地域で語ってほしいと思います。

最後になりましたが本大会を開催するにあたりまして、ご尽力いただきました関係各位の皆様には深く感謝申し上げますとともに、本大会のますますの発展とお集りの皆様方のご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。



ご挨拶

文部科学省初等中等教育局
教育課程課教科調査官
東良 雅人

このたびの熊本県熊本地方を震源とする地震により、亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

平成28年度関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会が、盛大に開催されますことに対し、関係者及び参加者の皆様のご尽力に敬意を表します。

グローバル化や情報化の進展、人工知能の進化など、子供たちを取り巻く社会や生活は急速に変化しています。学校教育においては、このようなこれからの社会を生きる子供たちに必要な資質・能力の育成はもちろんのこと、人間性や創造性を育み、子供たち一人一人が、人が人として生きることについて考えていくこともとても重要なことです。

美術や工芸における創造活動は、それぞれの子供が個性やそれぞれのよさを生かして、様々な造形要素と関わりながら自己決定を積み重ねる中で自己実現を果たすことを通して、美術や工芸に関わる様々な資質・能力を身に付け、感性や美的感覚、価値観を育み、生涯を通じて愛好する心情を育てる、子供たちの生き方と関わる真の豊かさを実感する学びです。創造的な思考力・判断力が一層重視されるこれからの社会において、主体的・協働的に造形的な見方・考え方を働かせて、自己や他者、社会を創造性という視点から捉え、生活の中での美術や工芸の働きに豊かに関わるための力を身に付けることは、これからの社会を生きていく子供たちの明日を育むためには必要不可欠です。

この神奈川大会では、『感じる つくる 生きる～今を見つめ明日を育む造形活動～』の大会テーマの下、参加者一同が、未来を見据えて子供たちのことを考え、これからの社会を生きる子供たちの価値の創造につながる、美術、工芸教育の一層の充実に資する成果が実を結びますことを心から御期待申し上げます。

最後になりましたが本研究会の一層の御発展と皆様方の御健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



祝辞

神奈川県教育委員会
教育長
桐谷 次郎

「平成28年度関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会」が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。また、本研究大会が造形教育の充実と発展に大きく貢献しておられますことに、深く敬意を表します。

各学校におきましては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、これからの社会を生き抜くために必要な「生きる力」を育む教育に御尽力いただいていることと存じます。神奈川県教育委員会では、「かながわ教育ビジョン」の基本理念である「未来を拓く・創る・生きる人間力あふれるかながわ人づくり」の実現に向けて、子どもたちが、自己肯定感を基盤とし、「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」を育むことを目指し、明日のかながわを担う人づくりのための様々な施策に取り組んでいます。

造形活動を通じて、つくりだす喜びを味わうことは、自己の存在を感じながら、新しいものや未知の世界に向かう楽しさにつながります。そして、それは友人や身近な社会とかかわることによって、一層満足できるものとなりますので、まさに人と人とかかわりの中で自己肯定感や有用感を培うことができる教育です。

こうした中で、「感じる つくる 生きる」～今を見つめ 明日を育む造形活動～を大会テーマに掲げ、幼・保、小、中、高の造形教育を推進されている先生方が一堂に会し、授業提案や研究協議が行われることは極めて意義深いものです。そして、その成果が子どもたち一人ひとりの「生きる力」を育むことの礎になることを心から期待しています。

最後に、本研究大会を開催するにあたり御尽力いただきました関係の皆様方に感謝申し上げますとともに、大会の成功と造形教育の益々の発展・充実を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



祝辞

横浜市教育委員会
教育長
岡田 優子

平成28年度関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会の開催を心よりお祝い申し上げます。造形教育の充実に向けて、多くの方に、ここ横浜へお越しいただいたことを深く感謝するとともに、大きな喜びを感じております。

近年、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、未来を支える子ども達が、豊かな体験を通して感動する心を育むことは、とても重要なことであり、造形教育はその中核の役割を担うものです。

何かを制作しているとき、子ども達は形や色などの造形的な視点で対象を捉え、感性や想像力を精一杯働かせています。このように造形教育には、子どもたちの心を育て、よりよい未来を生きようとする力を育てるうえで、大きな使命と可能性が秘められています。

皆様も御存知のように、ここ横浜は国際色にあふれ、横浜を築き上げてきた先人達の足跡とともに、文化や伝統が息づく素晴らしい都市です。外国船が行き交う、世界へとつながっている港町として、歴史上果たしてきた役割に誇りをもち、これからも文化芸術を生かした教育に取り組んでまいります。

文化芸術は、多くの人々の共感呼び起こし、人と人とを結びつける力をもっています。船が世界をつなぐように、ここ横浜での研究大会で学んだことを礎に、関東甲信越静地区の造形教育がますます発展することを心より願っております。

結びになりますが、皆様方のますますの御清栄を心からお祈り申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。

大会日程

第1日目

11月17日(木) 県代表者会議・全体会・レセプション

10:00 10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 18:00															
	代表者 受付 10:00～	都県代表者 会議 10:30～11:30	一般受付 11:40～	全体会 13:00～14:10		文部科学省教科調査官 による指導講評と講演 14:10～16:10		閉会 16:10～ 16:40	移動	レセプション 18:00～20:00					
				開会式	基調提案										
会場	関内ホール小ホール		関内ホール大ホール									メルパルク横浜			

第2日目

11月18日(金) 公開授業・校種別分科会・ワークショップ

○各会場へは上履きをご持参ください。

○各会場では、昼食場所をご用意しますが、お弁当の販売は致しません。お弁当をご持参されるか、近隣の飲食店をご利用ください。

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
幼稚園			受付 10:00～	公開保育 10:30～11:30		昼食 11:30～13:00		公開保育 研究協議会 13:00～14:00			ワークショップ 14:00～15:35		閉会 15:35～ 15:45		
会場	鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園														
小学校		受付 9:30～	公開授業 ①10:00～10:45 ②10:15～11:00	移動	公開授業 全体協議会 11:20～12:20		昼食 12:30～13:30		分科会 13:30～15:35		閉会 15:35～ 15:45				
									第1提案a 13:35～14:30	第2提案b 14:40～15:35					
会場	横浜市立西寺尾小学校														
中学校		受付 9:30～	公開授業 10:05～10:55	公開授業 研究協議会 11:05～11:55		昼食 12:05～13:30		分科会 13:30～15:35		閉会 15:35～ 15:45					
								第1提案a 13:35～14:30	第2提案b 14:40～15:35						
会場	横浜市立仲尾台中学校														
高等学校		受付 9:30～	分科会 10:00～12:00	研究発表 質疑意見交換 10:15～11:00	講演 11:00～11:50	まとめ	昼食 12:00～13:15	事前説明 公開授業 13:15～14:15	研究協議 14:20～15:00	閉会 学校紹介 (作品見学) 15:00～16:00					
会場	神奈川県立上矢部高等学校														

全体会次第

- (司会) 神奈川大会事務局次長 中澤 務
1. 開会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川大会運営副委員長 長澤 博昭
 2. 大会運営委員長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川大会運営委員長 瀧澤 優子
 3. 関東甲信越静地区造形教育連合理事長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ 理事長 本間 基文
 4. 来賓挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川県教育委員会教育長代理 教育局長 田代 良一
横浜市教育委員会教育長 岡田 優子
全国造形教育連盟委員長 大野 正人
 5. 来賓紹介・祝電披露・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川大会運営副委員長 木元 茂
 6. 基調提案・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川大会研究部長 吉田 岳雄
 7. 講師紹介・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川大会事業局長 藤城 守
 8. 指導講評と講演・・・・・・・・・・・・・・・・ 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官
岡田 京子、東良 雅人
 9. 謝辞・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川大会研究局長 菅原 恵市
 10. 大会宣言・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川大会研究部 小野 慶子
 11. 次期開催地区挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ 長野県美術教育協議会長 土屋 敏行
 12. 閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・ 神奈川大会運営副委員長 黒岩 弘明

～講師紹介～

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官

◇岡田 京子 氏

〔略歴〕 昭和61 年 4 月 東京都公立小学校 教諭
平成21 年 4 月 東京都公立小学校 主任教諭
平成23 年 4 月より現職



◇東良 雅人 氏

〔略歴〕 昭和62 年 4 月 京都市立中学校 美術科教諭
京都市立小学校 図画工作科専科教員
平成14 年 4 月 京都市教育委員会 指導部 学校指導課 指導主事
平成23 年 4 月より現職

「感じる つくる 生きる」

～今をみつめ 明日を育む造形活動～

「感じる つくる 生きる」、これからの未来を豊かな心でたくましく生き抜く子どもたちを育むために、今改めて造形教育の大切さとは何かを私たち自らに問うことを考え、本テーマを設定しました。

大きな変化に適応しながら、知識基盤社会という時代を生きる子どもたちは、「もの・こと・人」に関わりながら、自らの手で自らの生き方を切り拓くとともに、多様な価値観を受容し、共生していくことが求められます。そのために、子どもたちが十分な知識や技能を身に付けながら、思考力や判断力、表現力を高め、主体的に自分を取り巻く社会や環境に適応し、国際的な視野で人々と協働することができるような教育の在り方を考えていかなければなりません。

私たちは、子どもの資質・能力を培い、可能性を引き出すとともに、自己有用感あふれる豊かな心を育む教育を実現するための造形教育が担う役割とは何か、というところを明確にしていく必要があります。

造形活動において、子どもたちは、材料をはじめ様々な対象に関わり、感性を働かせながら、自分なりの意味や価値をつくりだすことで、豊かな情操を養っていきます。そこに、子どもの命輝く姿の実現があるのではないのでしょうか。「つくること」はすなわち「生きること」そのものである、と考えます。



その中でも、造形教育で連続して行われる「感じる」「つくる」営みを私たちがどうデザインするか、ということが大切になります。子どもたち一人ひとりが、形や色に関心を寄せながら、心ときめき、自分を見つめ、自分で決め、自分らしく新たにつくりだす造形活動そのものが、豊かに生きる自分を切り拓いていくことにつながります。出会う「もの・こと・人」すべてが自分を豊かにしてくれる。そのような出会い、経験を数多く子どもたちに、と切に願います。

サブテーマは「～今をみつめ 明日を育む造形活動～」としました。

幼児期における十分な遊びを通して培った育ちや学びが、小学校の豊かな学びにつながるというように、子どもの成長過程をとらえたその時々への育ちにあった造形活動との出会いが、子どもたちの素直な感動を生み、生き生きとした学びの原動力となっていくます。次に示すように、子どもの育ちをとらえた校種別テーマを設定しました。

●幼稚園・保育園・認定こども園では

「みてみて！」

感じるままに



●小学校では

「やりたい！ やってみたい！」

思いのままに



●中学校では

「・・・きめた。」

わたしがわたしをつくるとき



●高等学校では

「こうしてみよう！」

つながる学び



このように、子どもがつくりだした喜びを私たちが受け止め、リレーして造形活動を設定していくことは、子どもが自己有用感を高めながら、自らの生き方をつくっていくことにつながるのではないのでしょうか。

幼

「みてみて！」 感じるままに

◆「みてみて！」は子どもがやりたいことを時間を気にせず、存分に遊びこんだ後にわき出る思いの言葉です。幼い子どもは目の前に興味があるものがあると、手でさわって確かめます。この「見ただけでは不確かなものを手で触って確かめる」ということが、造形活動の基盤となります。造形の材料は、働きかけに対して柔軟かつ確実に反応し、目の前の行為を形や色として返してくれるのです。次第に「いいことおもいついた！」「ああしてみよう」「こうしてみたらどうだろう！」と自分の中に芽生えた思いを繰り返し、あれこれ試し始めます。

幼児期の表現は、素朴で原始的な意味をもち、子どもが生きている証として捉える必要があります。子どもの生活から生み出された表現は、自分を確かめる子どもの生活そのものです。したがって、まるごと受け止め、保障することで子どもは安心感を覚えます。子どもが夢中になって造形活動に取り組む行為は、豊かに生きている証であると考えています。

小

「やりたい！ やってみたい！」 思いのままに

◆「やりたい！ やってみたい！」と、子どもが意欲をもって発想を広げ主体的に取り組む創造的な造形活動が行えるよう、授業づくりを考えていく必要があります。子どもたちは、造形活動の中で、材料・表現方法・場所など、様々な対象と出会います。また、材料の形や色などから楽しい活動を思い付き、体全体を使って思いのままに表したり、自分の表したいことを進んで見付け、表し方をいろいろ試しながら絵や立体に表したりしていきます。一人ひとりが思いをもって試行錯誤を続け、自分らしい表現を求めていくところに価値があります。その過程で、子どもはかけがえのない自分を見付け、自分の表現や存在を肯定的に受け止められるようになっていきます。そして、思いを表現できたときの達成感や満足感が、次の活動への意欲へとつながっていくのです。

このように、関心・意欲の高まりに支えられ、子どもが自分の表したいことを進んで見付け、いろいろ試しながら思いのままに表し、自分らしい感じ方や見方をもつようになっていきます。その一つひとつの積み重ねが、その子らしい生き方をつくっていくととらえ、小学生の「今」をみつめた造形教育のあり方について考えていきます。

中

「・・・きめた。」 わたしがわたしをつくるとき

◆中学生は、自分という存在に対して疑問や不安を感じ、心身が大きく変化していく時期です。他者と自分を比較しながら、模索と葛藤を繰り返し自立に向かって成長します。この時期に、素材や題材との出会いをきっかけに自分と向き合い、ふと思い浮かんだ感覚を基に、普遍的な美しさも感じ取りながら形にしていく活動を通し、「・・・きめた。」という小さな自己決定を行いながら、心のあり方を少しずつ確かなものにさせ、自立のきっかけをつかませていくことが、造形教育の役割ではないでしょうか。

子どもたちが造形活動により魅力を感じ、感性が発揮されていく場を設けること。一人ひとりの心の動きを見取りながら助言し、自分のよさに気づくことができるように促していくこと。学び合いの中で互いに視野を広げ、地域や社会との関わりを理解し、「価値観」が築かれ「世界観」を広げさせること。これらの経験を通して、将来の方向性を見だしていく子どもたち一人ひとりの自立に立ち会うことが、私たちの使命であり、やりがいではないでしょうか。

生涯学習における、様々な表現活動への橋渡し役として、造形教育のあり方について研究を深めたいと考えています。

高

「こうしてみよう！」 つながる学び

◆「こうしてみよう！」と思えることはすばらしいと思います。勇気と創造性が言わせる言葉だからです。生徒が「こうしてみよう！」と思えるようになる背景には、造形活動や美術工芸への興味関心と、それまでの成功や失敗の経験があります。中学校までに積み重ねてきた様々な造形活動の経験が実を結んだものだと思います。

小学校、中学校での造形活動を通じて「感じる・つくる」を繰り返し経験してきた高校生は、人の気持ちを「感じ」たり、人間関係を「つくる」場面に直面したりします。さらに行動範囲や交友関係が広まり、創造（想像）力を使う必要性が増していきます。

社会に踏み出す一歩前にいる高校生のために美術工芸教育ができることを、中学校までの造形教育を意識しながら考えていきます。

公開保育・公開授業

公開保育・公開授業一覧

小学校の公開授業開始時刻は、公開授業①が10時、公開授業②が10時15分です。

校 種	会 場	学年	内容とキーワード	授業者
認定こども園 保育園・幼稚園	鶴見大学 短期大学部附属 三松幼稚園	年少	表現 あそぶ	萩原 由美
		年中	表現 あそぶ	甲斐 愛美菜
		年長	表現 あそぶ	平田 麻理子
小学校	横浜市立 西寺尾小学校	1年	A表現(1)造形遊び おもいつく	渡邊 めぐみ(公開授業①)
			A表現(2)絵や立体、工作に表す みつける	原 陽子 (公開授業②)
		2年	A表現(2)絵や立体、工作に表す みつける	小野 慶子 (公開授業①)
			A表現(2)絵や立体、工作に表す みつける	坂本 和俊 (公開授業②) 関根 明一
		3年	A表現(2)絵や立体、工作に表す みつける	寺島 秀典 (公開授業①)
			B鑑賞(1) みる	伊東 美樹 (公開授業②)
		4年	A表現(2)絵や立体、工作に表す みつける	宮本 英彦 (公開授業①)
			A表現(1)造形遊び おもいつく	岩本 理恵 (公開授業②)
		5年	B鑑賞(1) みる	坂口 萌 (公開授業②)
			A表現(2)絵や立体、工作に表す みつける	笠本 健太 (公開授業①)
		6年	A表現(1)造形遊び おもいつく	小見 満菜美(公開授業①)
			B鑑賞(1) みる	小池 悠 (公開授業②)
			A表現(2)絵や立体、工作に表す みつける	小林 美貴 (公開授業②)
		特別支援	A表現(2)絵や立体、工作に表す のびる	平本 真澄 (公開授業①) 相馬 仁美 小山 貴明 中村 美月
中学校	横浜市立 仲尾台中学校	2年	A表現(1)(3) 思う	森元 勇氣 (厚木市立睦合中学校)
			A表現(1)(3) 思う	長谷川 聡 (横浜市立旭中学校)
			A表現(2)(3) 働きかける	長澤 秀行 (川崎市立南加瀬中学校)
			A表現(2)(3) 働きかける	清水 めぐみ(茅ヶ崎市立鶴嶺中学校)
			B鑑賞(1) ひらく・つながる	山田 香織 (横浜市立本郷中学校)
			B鑑賞(1) ひらく・つながる	鈴野 江里 (鎌倉市立岩瀬中学校)
高等学校	神奈川県立 上矢部高等学校	3年	中高美術工芸の今・・・	授業 甲斐 秀幸 助言 古瀬 政弘(東京学芸大学) 司会 猪又 隆洋(神奈川県立横浜栄高等学校) 記録 山崎 真以(神奈川県立白山高等学校)

幼稚園 公開保育 指導案

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園



「みてみて！ 感じるままに」

～保育の中での造形活動～

鶴見大学短期大学部保育科 講師 鮫島 良一

◆幼稚園の教育

乳幼児期の子どもは、日々の生活（＝あそび）の中で環境との相互作用を通し、自ら逞しく成長していきます。そのための環境を整え、一人ひとりのチャレンジを見守り、寄り添い支えていくことが、「保育」という教育の考え方です。学校とちがって、幼稚園や保育園には決まった教科書もなければ、教科の固定的な時間割もありません。子どもがやりたいことを選択できたり、それほど時間を気にせず存分にあそび込んだり出来るのは、幼児期の教育の良さであり魅力です。一方、様々な取組が可能な分、現場には「創意工夫の精神」と「一人ひとりの子どもをしっかりと見ること」が常に求められます。

◆造形活動への取組

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園では、日々の園生活の中で「描いたり作ったりしたくなるような造形的な環境づくり」を大切にしています。

- ・園庭には山砂と川砂の砂場があり、水道も近く、いつでも使えるようになっています。子どもは砂の違いや特性を自らの体験を通して知り、次第に仲間と協力しながら工夫してあそぶようになっていきます。
- ・朝登園すると、各保育室には、おもちゃや絵本と並んで色々な紙や空き容器などの素材があり、ハサミや糊やテープやペンといった道具が自由に使えるようになっています。小さなきっかけからあそびが生まれ、お店やさんごっこになったり、お化け屋敷作りに発展したり、日々新しい何かが生まれ可能性に満ちています。保育者は、子どもたちのあそびが広がったり深まったりするよう、創造的な関わりを心がけています。子どもの「みてみて！」を、共感を持って受け止め、一緒に面白がり、時には新たなあそびの提案をします。

- ・使ったことのない素材や道具に関しては、「造形あそび」の時間を設け、無理のない楽しい出会いの機会が持てるようにしています。出会った素材や道具は、その後も繰り返しあそぶことができるよう配慮しています。特徴としては、いわゆる「製作」のように完成形が決まっているものを手順に沿ってつくるといった活動ではなく、各自のペースで素材や道具の感触や変化を感じ、思う存分に自分のやり方で試してあそべるよう配慮しています。

◆活動のねらいと流れ

- ・年少（3歳児）クラスは、素材や道具との出会いを楽しみ、触れてあそぶ活動を中心に行っています。
- ・年中（4歳児）クラスでは、素材や道具を繰り返しあそび、試したり操ったりすることをより意識し、楽しめるようにしています。
- ・年長（5歳児）クラスになると、より目的を持って描きつくすることに興味が向かうので、アイデアを出し合って創作したり、個々のこだわりを持って取り組んだりするような活動を多く取り入れています。

◆公開保育

今回の「公開保育」では、子どもたちが普段通りに自由にあそぶ姿を見てもらいたいと考え、3つのクラスでプログラムを準備します。最初に決まった活動があるのではなく、まず子どもの姿があって、そのことをベースに各担任が工夫し創造的に日々の保育を作っていく中で活動となります。それ故現時点では大まかな活動案内となりますが、次ページよりそれぞれのクラスの現在の様子と合わせてご案内いたします。

「みてみて！ 感じるままに」

～保育の中での造形活動～

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園 萩原 由美

◆クラスの様子

りす組は男児16名、女児14名の計30名の年少（3歳児）クラスです。入園当初は、保護者から離れられず泣いている子・あそびたくてもたくさんの友だちに驚き、じっと見ている子・いつの間にか園庭であそんでいる子など、様々でした。まずは、一人ひとりの気持ちに寄り添い、安心して好きなあそびが見つかるよう、身支度を少なくし、たくさんあそべる時間を作りました。保育者があそびに入りながら、電車ごっこやお買い物ごっこ、お医者さんごっこなど、ちょっとした投げかけを作ることで、子どもたちが自然と集まり、保育者とのやり取りを楽しみ始めます。あそび方やきっかけが出来ると、そばにいる友だちと繰り返しやってみる中で、「また、あしたも やりたい・あのこと あそびたい」と少しずつ幼稚園生活に慣れ、一人ひとりが楽しいことを見つけ始めていきます。隣のクラスの年長組が作ったレストランにあそびに行ったり、歌を教えてもらったりといつもあそびに行き年長組と交流を深めています。何か分からないことがあると、何でも聞きに行くといつも優しく接してくれる年長組のお兄さんお姉さんが大好きなりす組の子どもたちです。

◆1学期の造形あそび

初めての出会いが、いっぱい！粘土・絵の具・はさみ・のり・クレパス・・・。

＜小麦粉粘土＞

粉をパラパラッと落としたり、匂いを嗅いでみたり、少しずつ水を入れ混ぜ合う様子に目を輝かせていた子どもたちでした。触てみると「つめたい・プニプニ」と感じたことを言葉にしたり、足で踏んでみたり、食べ物に見立てたり、楽しむ様子が見られました。しかし、中には、ベタベタする感触を嫌がり見ている子もいました。

＜絵の具＞

黄・ピンク・青・黄緑・オレンジ色を使い、筆で好きなように描きました。丸を描いたり、筆をトントンしたり一人ひとり思い思いに活動していました。また、絵の具の瓶が倒れ、偶然色が混ざると「みて～。なんかきれい！」と筆をグルグル。それを機に皆がまねっこ！いつの間にか、見たこともない不思議な色に……。でもそれが楽しくて、筆はどんどんスピードを増し動きます。初めての絵の具は、会話や感触を楽しむ姿が見られ、終わるころには、顔も身体も保育室も絵の具だらけ！活動後床を拭いていると、「いっしょに やる！」と掃除の手伝いの筈がいつの間にかあそびに変身。気が付くと、今度は、保育室はビショビショに……。これぞ3歳の真の姿、発達のプロセス。

＜ハサミ＞

一回で切れる位の細長い色画用紙を切ってあそびました。ハサミの持ち方や切る方向も様々。まずは、思う存分切ることを楽しみました。

◆2学期の造形あそび

運動会を経験し、友だちと一緒に楽しい・真似をしたいという気持ちが強くなり、それが喜びにつながる時期です。運動会で使うものを、一人ひとりあるいは皆で作る、期待感が持てるようにしていきたいと考えています。また、いろいろな素材や道具の使い方を伝え、あそびを通して自由に使えるようになって欲しいと思っています。

◆公開保育

上記のあそびを行う中で、子どもたちの様子に応じ、さらに展開していけるよう活動を設定したいと考えています。季節を感じる自然物を使い、何か楽しいあそびはできないかな？と検討中です。

「みてみて！ 感じるままに」

～保育の中での造形活動～

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園 甲斐 愛美菜

◆クラスの様子

ゆり組は男児16名、女児18名、計34名の年中（4歳児）クラスです。3年保育が30名と2年保育が4名おり、4月当初は新入児も進級児も環境の変化に戸惑い泣く子がいたり、母親から離れられない子もいたりしました。担任は年少児からの持ち上がりということもあり、年少の頃の各クラスの好きなあそびや、手作りした遊具も引き継ぎ安心して過ごせるよう配慮してきました。

活発な子や、発想豊かな子が多く、自由あそびの中でも自由に何かを作り、ごっこあそびをしてあそんでいます。パン屋さんごっこでも絵の具を使いパンを作ったり、廃材を使ってジュースをつくったり、日々の保育の中で自由に絵の具や廃材に触れられるよう環境を整えています。

また、年少の時にに行った造形あそびをもとに、さらに発展した活動ができるよう考えています。

◆1学期の造形あそび

＜絵の具＞

少し濃く溶いた絵の具8色で四つ切りの画用紙に自由に描き楽しみました。年少の頃に比べると形を意識しながら描く子も多くなっており、慎重に筆を運ぶ姿が見られました。一方、色の混ざり具合の変化を楽しむ子は、ひたすら混ぜ、最後は紙の地が見えなくなるまで筆を滑らせる姿も見られました。

＜ホチキス＞

初めてのホチキスあそびは、長方形の細長い紙を用意し自由につなげあそびました。友だちと長くつなげる子がいるかと思うと、個々にできた形から見立て楽しむ姿も見られました。その後のあそびの中でもホチキスは人気で日常的に使っています。

＜テラコッタ粘土＞

年少の頃、小麦粉粘土を使った経験と、泥んこあそびなどで感触あそびが好きな子どもたちの様子から、今度はテラコッタ粘土を使いたいと考えました。保護者の方にも汚れてもよい服を用意していただき、活動を行いました。最初は手で感触を楽しみ、指先で穴をあけたりお団子を作ったりしていましたが、慣れてくると足を使い踏んだり跳ねたり友だちと一緒に大きな山を作りダイナミックにあそびを楽しむ様子が見られました。

＜染め紙＞

染料を使って障子紙を染めました。絵の具と違い、色が濃く出ることもあり色の混ざり具合や模様の出方を友だちと見比べて「もようがきれい」「わたしのみて！おはなみたい」と伝え合う姿も見られました。

◆2学期の造形あそび

＜テラコッタ粘土＞

9月に親子でテラコッタ粘土を使った焼きものの作りを行います。ダイナミックに楽しみ慣れ親しんだテラコッタ粘土で、今度は好きな形を作って壁掛けを作ろうと考えています。

＜絵の具＞

形を意識しあそぶことができる技法的なあそびなどを取り入れていこうと考えています。

＜廃材工作＞

空き箱や容器などを使って、組合せをあれこれ試して作る活動の継続を考えています。

◆公開保育

上記のあそびを行う中で、子どもたちの様子に応じ、さらに展開していけるよう活動を設定したいと考えています。

「みてみて！ 感じるままに」

～保育の中での造形活動～

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園 平田 麻理子

◆クラスの様子

まつ組は、男児16名、女児17名、計33名の年長（5歳児）のクラスです。どちらかというと幼い子が多く、配慮児も数人いることから、あまり落ち着いたスタートを切ったとは言い難いクラスです。特に男の子は、年長児にしてはあそびの幼さが目立ち、戦いごっこが好きで、せっかくたくさんの廃材があってもラップの芯を長く繋げた剣を作る子ばかりでそれ以上の発展があまりなく、どのように興味を広げてあそびを展開していけるかを思慮していました。全体的にあそびの継続性が乏しく、その日一日であそびが完結してしまうことが多かったため、翌日に期待をつなげることが難しく、保育者も素材選びやあそび方など試行錯誤を繰り返していました。

◆1学期の活動

男の子は6月頃になってもなかなか剣作りから脱出できないでいました。思いきってラップの芯を廃材で持ってくる子がいると芯をこっそり隠してみたりもしたけれど、トイレットペーパーの芯をつなげて代用したり、まさかのブロックでの戦いごっことなり肩を落とすこともありました。しかし試行錯誤しながらあそびを繰り返すうちに、徐々に様子が変わってきました。女の子は、難しい折り紙に挑戦したり友だちと教えあったりする姿が見られるようになりました。

また、あそびに継続性が見えはじめ、次の日に「昨日の続きをしよう！」という子が出てきました。それを見て一緒にあそびに加わる子も出てきて徐々にアイデアも増え、あそびに発展が見え始めました。そんなあそびの意欲が高まり始めたところで1学期の終わりを迎えたことは残念でした。子どもたちの作りかけの「遊園地」は、そのままにして2学期を迎えることになるのでその後の発展が楽しみです。

◆造形あそび

子どもたちにとって＜造形あそび＞の時間は楽しく自己発揮できる時間です。正解がなく自分の思いを存分に表現できる場であることから「明日は造形があるよ！」と子どもたちに伝え、「わ～！やった～！」と歓声が上がります。

＜色作り遊び＞

年長になってパレット（トレイ）で3原色と白の絵の具で色作りを自分で経験すると、目の前で色が出来上がっていく過程を楽しむ姿が印象的でした。同じ絵の具でも混ぜる割合で色が変わる。それに気づいた子どもたちは「いいこと見つけた！」と言わんばかりに目を輝かせていました。造形では、この「いいこと見つけた！」が自然とあちらこちらで湧き上がり、楽しい時間になっています。

造形の時間に経験したことを、自由あそびの時間に出してみると、自然と子どもたちが集まってきます。そして自然にあそびの場でそれぞれが楽しみつづ、友だちのあそびにも興味を示し、「自分もやってみたい。」とあそびが繋がります。この自然体こそが子どもたちにとって多くの自然な学びを得る機会になるように思います。

◆公開保育

子どもたちの、作る意欲が徐々に育ってきているので、この流れを2学期以降にもつなげていきたいと思っています。運動会などの行事の経験も、年長児としての自信につなげてほしいものです。造形面では、木工など、子どもたちにとってより手応えのある素材にも挑戦していきたいと考えています。個々が目的意識を持って積極的に臨めるような活動を模索していきたいと思っています。



ベイブリッジ

MEMO

小学校 公開授業 指導案

横浜市立西寺尾小学校



「ぽんぽん ペったん わくわくスタンプ」

～ならべて かさねて スタンプあそびを たのしもう～

横浜市立西寺尾小学校 渡邊 めぐみ

1 題材について

本題材では、子どもたちが集めた身近にある材料に絵の具をつけて型押しする「スタンピング」を行う。スタンピングの面白さは、だれでも簡単に、繰り返し同じ形を、何度でも、写すことができることだと考えている。活動を通して、型の形や色をもとに、いろいろな写し方を思い付いたり、型を組み合わせたり、並べ方や重ね方を工夫したりしながら、思いのままにスタンピングすることを楽しむことができるようにしたい。

やってみたい、やりたいことを子どもが「おもいつく」ようにするために、教師が身近にあるものを型押ししたものを子どもに見せて行う「これ、なあんだクイズ」を通して、切り口の形の面白さに気付くことができるようにする。また、型押しに使える材料を学校や家で自ら集めることで、材料に対する愛着が深まるとともに、活動へのイメージが広がり、意欲が高まるように工夫した。

この活動を通して、自分だけでなく、友達とも関わりながら、互いに認め合える力を高めてほしい。

2 題材目標

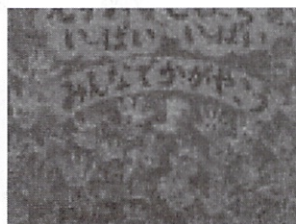
- 身の回りにあるいろいろな型を集め、その型で写すことを楽しむようにする。
- スタンプの形や色から、いろいろな写し方を思い付いたり、型の写し方や写す場所を考えたりして、工夫するようにする。
- それぞれの活動の違いに気付き、友達の表し方のよさや自分の表現との違いを互いに認め合うようにする。

3 活動の流れ(全3時間)

活動への興味をもち、材料のイメージを広げる。

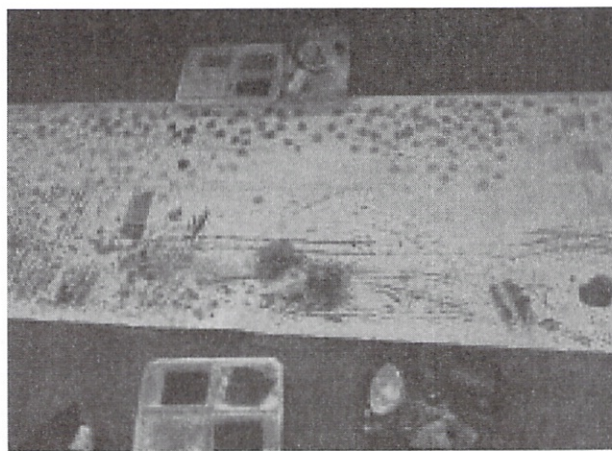
- ・学年掲示物作りの時の手形押しを想起させ、型押しをイメージできるようにする。

- ・身近な材料で型押しできるものを集める。



型を組み合わせたり、色や押す場所を工夫したりして、思いのままにスタンピングを楽しむ。

- ・集めた型からどんな形ができるかやってみる。
- ・並べ方や重ね方、色を工夫しながら、型押しを楽しむ。
- ・友達の紙とつなげて、活動を深める。



ほくわたしのきらきらポイントを伝えよう。

- ・型の並べ方や重ね方、色について、自分が工夫したことを紹介する。

「ゆめのくもで ○○のせかいへ レッツゴー☆」

～じぶんだけのすてきなせかいを パスでえがこう～

横浜市立西寺尾小学校 原 陽子

1 題材について

本題材では、国語科で学習をした「くじらぐも」の主人公であるくじらぐもさんからのお手紙をきっかけに、子どもたち一人ひとりが、自分が乗ってみたい様々な形や色の夢の雲やその雲に乗って訪れてみたい自分だけの世界を思い思いにパスで表現する。「くじらぐも」の学習で広げた「わたしも、くじらぐもにのって、どこかへ行ってみたいな。」という思いを、本題材でさらにふくらませられるように、導入でくじらぐもさんからのお手紙を読み聞かせし、想像を広げる楽しさを子どもたちが味わえるようにしたい。そして、自分の好きなものをイメージマップでたくさん書き出すことを通して、自分が行ってみたい「○○の世界」のイメージを広げられるようにする。

子どもたちは、「すきなもののいっぱい」で、好きな形や色で、好きなものを思いのままに表現する活動を経験した。そこで、本題材に入る前に、パスで色を重ねたり、ぼかしたりして、十分にパスを使った様々な表し方を経験し、本題材での表現に生かせるようにしていきたい。また、友達の表現を見合ったり、自分の表現を試したりする場を設定して、子どもたちが、思いのまま、のびのびと描くことができるように支援していきたい。

2 題材目標

- 乗りたい雲や行ってみたい世界を想像し、パスを使って絵に表す活動を楽しむようにする。
- 自分が想像した夢の雲や行ってみたい世界を絵に表すために、形や色を考え、パスを使いながら、表し方を工夫するようにする。
- 自分や友達の作品から、楽しさやよさを感じ取るようにする。

3 活動の流れ(全5時間)

くじらぐもさんからのお手紙を読み、ゆめのくもをパスでえがく。

- ・くじらぐもさんからの手紙の読み聞かせを聞き、自分が乗ってみたい夢の雲のイメージをふくらませる。
- ・自分が乗ってみたい夢の雲をパスで表現する。



ゆめのくもにのって、どんなせかいへ行ってみたいか、おもいをふくらませる。

- ・雲に乗って、訪れてみたい夢の世界について、イメージをふくらませる。
- ・じぶんだけの○○のせかいを パスでえがく。
- ・思い思いの世界をパスで表現する。



1ねん2くみのゆめのせかいをたんけんしよう。

- ・自分の夢の世界を友達に紹介する。
- ・自分や友達の作品を見合い、楽しさやよさを伝え合う。

「まどをあけたら すてきなことが…」 ～マイカッターでハッピースマイルタウンをつくろう～

横浜市立西寺尾小学校 小野 慶子

1 題材について

本題材は、紙を立てた形からイメージをふくらませ、自分のつくりたいものを形にしていこうという題材である。つくりながら、カッターナイフで画用紙を切る技能も習得していくこともねらいとしている。

カッターナイフを使うと、紙を好きな形に切り抜くことができる。また、切って開くと窓のようになる。紙を切り抜いたり、切り開いたりすることで、紙を起こして向こう側を見たり、窓の中に見えるものを想像したりすることができると思う。

そこで、切った紙を立てさせて想像したものをつくることを子どもに投げかけ、さまざまな紙の立たせ方を考えることができるようにしたい。折って立たせたり、丸めて立たせたり、いろいろな方法があることに気づくことができるようにしたい。また、紙を立てせると、より楽しい立体表現ができる。土台となる紙の上に立てるようにし、紙を立てせてできた空間や立てた紙の形から発想を広げながら、自分の世界をつくっていくようにする。そして、立てた形から家やお城、ビルなどを見立て、そこから思い付くものを思いのままに表現していくようにしたい。自分のイメージに合うようにモールや綿などほかの材料を選んで付けたし、さらに工夫して表していく。

一人ひとりが思い付いたものをみんなで持ち寄ると、素敵な「まち」ができる。それらを「ハッピースマイルタウン」とし、楽しい鑑賞活動に広げていきたい。

2 題材目標

- 紙の立て方を工夫したり、窓の形や窓の開き方を考えたりして、それをもとに自分の表したいことを思いのままに表すことを楽しむようにする。
- 紙やはさみ、カッターナイフなどを、手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すようにする。
- 自分や友達の表現のよさを参考にしながら、さまざまな表現が生まれるよさを認め合うようにする。

3 活動の流れ(全5時間)

カッターナイフをつかってみる。

- ・カッターナイフの安全な使い方を知る。
- ・いろいろな線を切って、カッターナイフの使い方に慣れる。



紙を立て、窓を開けてみる。

- ・自分のつくりたいものに合わせて、紙を立て、窓を開けて、装飾を工夫する。



台紙につけ、まわりを飾る。

- ・みんなの表したものを合わせて、ハッピースマイルタウンをつくる。



「いきものだいすき！いきものパラダイス！！」

～形や色をくふうして、かたがみはんがにちょうせん！～

横浜市立西寺尾小学校 坂本 和俊 関根 明一

1 題材について

本題材は、自分の大好きな生き物を版にして、写しながら、発想を広げ、たくさんの生き物が楽しく生活する「いきものパラダイス」を表す活動である。2年生の子どもたちは、自然や生き物に大変興味をもっている。休み時間には学校で飼っているウサギの「ニコちゃん」のお世話にいそいそと出かけ、生活科の時間には、野菜の土づくりや学級園での活動で、小さな幼虫やアリに歓声を上げている。そこで、子どもの興味や関心を生かし、版に表す活動で表したいことを見つけることができるよう、題材名を「いきものパラダイス」とした。版画の面白さは、繰り返し刷ることができることである。版をつくり、それにインクをつけて同じ形がいくつもできるという版の特性を生かして活動し、写す楽しさを十分に味わうことで、紙版画や木版画の表現にも結び付くようにしていきたい。

今回は、クリアファイルで版を作ることで、洗うことができ、色を変えて刷ったり、反転させて刷ったりして、何度も刷ることができるようにする。

また、表したものから想像を広げ、表したいことを、より表現することができるように、パスなどで描き加えていく活動にもつなげていく。

2 題材目標

- 型紙版画を刷ることや、描き加えて絵の世界を広げ、表すことを楽しむようにする。
- 思いついたことから想像を広げて、形や色の組合せやつくり方を工夫して表すようにする。
- 自分や友達の刷った版の形や色、描き加えた表現の面白さに気づき、伝え合い、楽しく見るようにする。

3 活動の流れ(全5時間)

いきものパラダイスを想像する。

クリアファイルを切り取って、版をつくる。

- ・クリアファイルを切ってシート状にしたもので簡単な版画ができることを知り、興味をもつ。
- ・透明シートを、はさみを使って切り抜き版をつくる。

版を刷る。

- ・ローラーと版を使って形を写すことを楽しみながら、さまざまな写し方を工夫して表す。

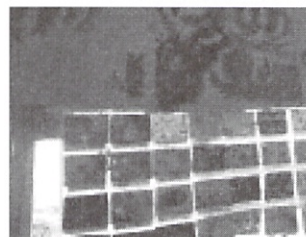


写したものから想像を広げて、描く。
クレヨンやパスなどで描き加える。



自分や友達のステキを発見する。

- ・友達と作品を見合い、お互いのステキさがしをする。



「☆いのちの妖精○○○ ほら いるよ☆」 ～いのちを守る自分だけにみえる 妖精○○○をつくりだそう～

横浜市立西寺尾小学校 寺島 秀典

1 題材について

これまでに理科をはじめとした他教科及び生活全般で、子どもたちは「いのち」について考える活動を大切にしてきた。本題材では、自分を取り巻く命あるものを大切にする目には見えない妖精○○○がいるからこそ、たくさんの命が輝いている。自分だけに見える想像上の「いのちの妖精○○○」を思いのままにつくりだすことを楽しむことをねらいとしている。みんなの周りにも見えないけれど、命を輝かせる○○○がいる。「見えないけれど、空中を飛んでるよ。」「掃除箱のそばにいるんだ。」「黒板の端っこにぶら下がってる。」「私の肩に乗ってるの。」など、見えない「いのちの妖精○○○」をイメージして目に見える形に表現していく。本学級の素直な子どもたちが想像の世界に浸りながら、自分だけの○○○をつくりだしてほしい。

子どもたちが、これまでの造形活動を通して、実感を伴って学んだ事をいかしながら、想像の妖精○○○を紙粘土や他素材の材料を使って表現する。表現過程で、この世にない形や見たこともない命を守る必須アイテムを考えることで、おのずと形や色に工夫が加わるのを期待している。材料と関わり、材料ならではのよさや可能性を感じながら、気づき、発見し、つくり、つくりかえ、つくすることを思う存分楽しんでほしい。また、友達の表現に関心をもち、同じ「いのちの妖精○○○」がみんな違う形や色で表現されていることを感じながら、更に自分の表現に工夫を加えていく力に変えていく姿を見守りたい。「どんなとくちようがあるのかな。」「命をかがやかせるひみつはどこにあるのかな。」など、一人ひとりの妖精○○○へのイメージがもてるように支援していきたい。

2 題材目標

- 身の回りにいる目には見えない「いのちの妖精○○○」を一人ひとりが表すことを楽しむようにする。
- 紙粘土などの材料の特徴を感じ、いかしながら、自分にはしか見えない「いのちの妖精○○○」を工夫して表現するようにする。
- 自分や友達の作品から、楽しさを感じ取るようにする。

3 活動の流れ（全4時間）

身の回りにいる目には見えない命を輝かせる妖精を想像し、イメージスケッチをする。

- ・自分にしか見えない「いのちの妖精○○○」の話聞き、どんな妖精か想像する。
- ・思い付いた「妖精○○○」を簡単にイメージスケッチする。どんな特徴があるのか。どんな秘密をもっているのか。などを考えることで、この世にいない架空の妖精○○○には自分だけの工夫を加える意欲をもつ。

「いのちの妖精○○○」を生み出そう。どんな形？どんな色？どんな秘密がかくれてる？

- ・紙粘土、つまようじ、モールなどを使って、自分だけしか見えない「妖精○○○」をつくりだす。
- ・「妖精○○○」が見える場所や秘密、特徴や必須アイテム等へ想像をふくらませ、工夫を加える。

「いのちの妖精○○○」が勢揃い。紹介するよ。

- ・友達に自分にだけ見える「妖精○○○」を紹介する。
- ・自分や友達の「妖精○○○」を見合い、楽しさやよさを伝え合う。

「ミロの世界をかんじよう！」

～形や色をじっくりみよう、かんじよう～

横浜市立西寺尾小学校 伊東 美樹

1 題材について

本学年の子どもたちは、見立てることが得意である。日常生活の中で、自分や友達の作品を「○○みたい。」「○○に見えてきた。」と大人には気づきにくい見方や感じ方をしている。

子どもたちは、図画工作の学習でこれまでに友達の作品を鑑賞してきたが、美術作品の鑑賞は初めてである。そのような子どもたちが、自分なりの見方や感じ方で作品を味わい、感じたことや思ったことを伝え合う活動を通して、見方や感じ方は人によって様々であることに気付いたり、よさや面白さを感じとったりできるようにしたい。

本題材ではミロの作品を鑑賞する。色が鮮やかで子どもたちが作品に興味をもちやすい。また、視点によっていろいろな見え方ができると考えたため、ミロの作品を鑑賞することとした。本時では、形や色、組合せなどに着目してじっくりと鑑賞し、いくつかの作品の中から自分の好きな作品を選び、表現のよさや面白さ、自分が見えてきたものや感じたこと、気付いたことなどについてワークシートに書く。その後、同じ作品を選んだ人とグループをつくり、自分の感じたことを発表し合う中で、友達の発言に共感したり、驚いたり、認め合ったりして、自分の感じ方に自信をもつとともに、想像を広げてみることの楽しさを味わうことができるようにしたい。

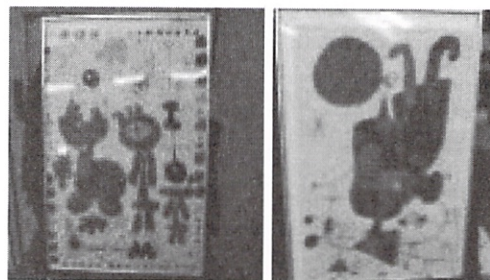
2 題材目標

- ミロの作品を鑑賞し、そのよさや面白さを感じ取ったり、友達に伝えたりしようとする。
- 感じたことや考えたことの伝え合いを通して、見方・感じ方の違いを認め合うとともに、作品それぞれのよさや面白さを味わえるようにする。

3 活動の流れ（全1時間）

ミロの作品のよさや面白さを感じ取る。

- ・何枚かの作品の中から好きなものを1枚選び、好きな部分や気になる部分などを考える。
- ・作品をじっくりと見て、見えてきたものから想像を広げ、感じたことや気付いたことをワークシートに書く。



選んだ作品ごとにグループを組み、感じたことを話し合う。



グループで話したことを発表し、クラス全体で感想を交流し合う。

「見つけた！ 本気のしゅん間！」

～木版画の特徴を知り、彫り方を工夫して刷ろう～

横浜市立西寺尾小学校 宮本 英彦

1 題材について

本題材は、版画の表現のよさを味わい、自分が達成感を味わった瞬間を工夫して表現する活動である。

本学年は学年目標の「フォースの力…本気・仲間・感じる・愉快」を合言葉に日々学習に取り組んでいる。中でも本気で取り組むことを大切にしている。表現活動と子どもの日々の生活を結び付けた題材を設定することで、子どもが表したいことを見付けることができるように考えた。そのため、本題材では、子ども達それぞれの達成感を味わった本気の瞬間を想像し、自分だけの表現を考えるようにしたい。

まず彫刻刀の使い方を理解できるような掲示を行う。線による効果の違いが分かるようにし、「自分ならこんな線で表したい。」という思いをもてるようにする。また、活動の流れを掲示したり、刷る工程で道具をどのように使うのかも示したりする。そして、本気の瞬間を表すための構図について工夫できるようにする。表したいことをスケッチし、本気の瞬間が伝わる構図なのかを考えながら取り組むことができるようにする。

友達の表現を鑑賞することで、友達のよさを知り、さらに工夫した表し方を考えられるようにしたい。

2 題材目標

- 版に表すことのよさを十分に味わい、自分の表したいことを版に表すことを楽しむようにする。
- 木版の表し方を知り、自分の表したいことを見付けて、彫る形やインクの色を考え、彫刻刀の種類や、彫りの程度、彫りの色による表現の違いを感じながら、表したいことに合わせて、工夫して表すようにする。
- 表しているものの形や色、表し方などから表現の違いをとらえたり、よさや面白さを感じ取ったりするようにする。

3 活動の流れ（全6時間）

本気の瞬間をイメージする。

- ・題材名を見て、表したいことを見付ける。
- ・版画の特徴を理解する。

自分の表したいことのイメージにあわせて、インクの色を考えて、刷りを楽しむ。

- ・自分のイメージにあわせて、インクの色を考えて刷る。



本気の様子が伝わる構図を考えて下絵を描く。

- ・本気の様子が伝わる構図を工夫し、油性ペンを使って下絵を描く。

どこをどのように彫るとよいか考えて彫る。

- ・彫刻刀の種類や、彫りの程度を知り、版木を彫る。

色の組合せやインクのつけ方を考えて刷る。

- ・彫りの色による表現の違いを考えて刷る。



「切って！切って！ ダンダンダーンボール!!」

～切って きって キリまくれ！ つないで 組んで・・・楽しもう～

横浜市立西寺尾小学校 岩本 理恵

1 題材について

本題材は、まず、段ボールを切る活動を楽しみ、切った段ボールをもとに思い付いた「やりたい!やってみたい!」ことに夢中になって取り組むことを大切にしたい。活動を通して、思いのままに段ボールを切ることに心地よさを感じたり、切り出した段ボールをつないだり、組んだりしながら、段ボールならではのよさに気付きながら、つなぎ方や組み合わせ方の工夫を加えたりして、つくりだす喜びを味わうことをねらいとしている。

段ボールは段ボールカッターで切ることができ、画用紙より固いので、容易に重ねたり、つなげたり、組み合わせたりすることができる。そして、切った後の形もしっかりと保つことができる。その特徴から子どもたちが組み合わせ方やつなぎ方を工夫するのに適した材料であると考えた。

3年生では、段ボール箱そのものを積んだり、並べたり、つぶしたものをひらいてつなげたりした子どもたちが、同じ段ボールの新たなよさに気付き、やってみたいことを見付け、友達とかかわり、刺激を受け合いながら、工夫してつくりだす喜びを味わってほしい。

2 題材目標

- 段ボールのよさや特徴を知り、その特徴を生かして段ボールを切ったり、組み合わせたりして、工夫してつくることを楽しむようにする。
- 段ボールのよさを生かし、段ボールを切ったり組み合わせたりすることを考え、工夫してつくるようにする。
- 活動しながら、自他の思いを表しているもののよさや面白さを感じとれるようにする。

3 活動の流れ（全3時間）

段ボールを切って、切って切りまくることを楽しむ。

- ・段ボールとであう。
- ・段ボールカッターの使い方を知り、切る。



切り出した段ボールをもとに思い付いた、やってみたいことをやる。

重ねたり、つないだり、組み合わせたりしながら工夫してつくる。

- ・切り出した段ボールをもとに工夫して組み合わせる。



自分や友達のつくったものを見て、よさやおもしろさを伝え合う。

- ・自他のつくったもののよさや面白さを感じとり、伝え合う。

「岡本太郎西寺尾館で出あった あんな顔 こんな顔 どんな顔？」

～よく見て聴いて感じて・・・友達と伝え合おう～

横浜市立西寺尾小学校 坂口 萌

1 題材について

本題材は、岡本太郎の作品を鑑賞し、表現の特徴や作者の意図などを感じ取り、友達と伝え合ったりすることを楽しむ題材である。岡本太郎は、日本で広く知られており、多作であったため国内各地の美術館や公園、街中で鑑賞することが容易である。また、芸術家でありながら多弁であり、自身の作品や表現について語った記録や文献が多く、子どもたちも岡本太郎のもつ魅力に興味や関心を抱き、活動ができると考える。

本題材では、顔が中心に表現されている作品を鑑賞するようにした。様々な顔の表情を見つめたり、読み取ったりすることは、日常の人間関係の中でも自然に行っている。作品の顔の表情から受ける印象は、作品全体の特徴や作者の意図を感じ取るヒントになると考える。

作品を「みる」ことを通して、子どもたちの表現活動に生かすようにしたい。岡本太郎になりきって作品をつくる活動を計画し、鑑賞した経験を表現に生かすことができるようにしたい。そして、人それぞれ見方や考え方が違うことに気付き、自分の感じた感覚に素直に向き合い、自信をもって表現できるようになってほしい。

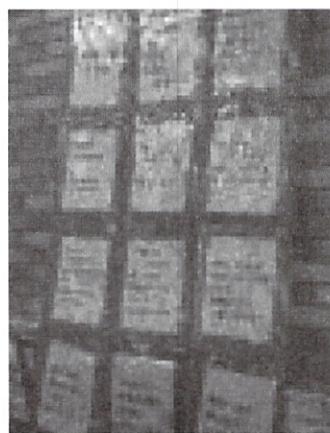
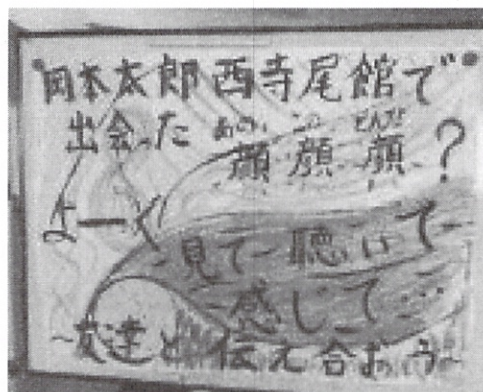
2 題材目標

- 岡本太郎の作品と出あい、その表現の特徴を感じ取ったり、友達と伝え合ったりする活動を楽しむようにする。
- 岡本太郎の作品の形や色、線や動きなどから、作品の特徴や作者の意図などを考え、よさや美しさを感じ取るようにする。

3 活動の流れ(全2時間)

岡本太郎の作品を鑑賞し、作品のよさや美しさなど、感じたことを伝え合う。

- ・岡本太郎について興味や関心をもつ。
- ・作品を鑑賞し、よさや美しさなど、感じたことや気付いたことをワークシートに書いたり、友達と伝え合ったりする。



- ・岡本太郎になりきって作品をつくる。
- ・友達のつくった作品を鑑賞し、感じたことや気付いたことを伝え合う。

「ヨコハマ ニシテラナーレ」

～様々な形や色の金属と針金を組み合わせて、ヨコハマの〇〇をつくろう～

横浜市立西寺尾小学校 笠本 健太

1 題材について

本題材では、子どもたちが集めた様々な形や色の小さな金属と針金を組み合わせ「ヨコハマの街にあったら面白いな。」と思う立体をつくる。活動を通して、小さな金属の形や色の特徴を捉える力や、それらを組み合わせてできる立体的な造形物を想像する力、そして想像したことを立体的に表現する力を高めたい。

材料は、ねじや空き瓶の蓋などの小さな金属と針金を主な物とした。子どもと一緒に、教師も材料を集めることで、子どもが活動するために十分な材料の量を保障できるようにする。

材料の接着・接合は、細い針金を使って結び付けることを主な方法とする。また仮止めのためにグルーガンを使うことができるようにし、発想や構想したことを実現しやすいようにする。

発泡スチロールでヨコハマの街並みをつくり、子どもの表現に対する関心や意欲を高めるとともに、表現したいことを見付けることができるようにする。

2 題材目標

- 様々な形や色の金属と針金の特徴を生かして組み合わせながら、ヨコハマの〇〇を表すことに取り組むようにする。
- 様々な形や色の金属の特徴を生かして組み合わせながら、ヨコハマの〇〇を考え、針金の形を変えたり組み合わせたりして表すようにする。
- 自他の作品について語ったり、友人と話し合ったりしながら、表現の意図や特徴などを捉えるようにする。

3 活動の流れ (全5時間)

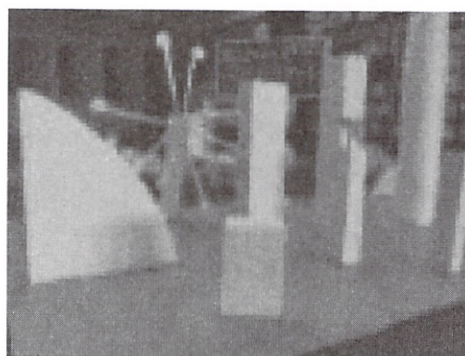
様々な形や色の金属と針金を組み合わせて、ヨコハマの〇〇を想像する。

- ・材料を組み合わせながら、想像を広げる。
- ・アイデアスケッチをする。



様々な形や色の金属と針金の特徴を生かして、ヨコハマの〇〇をつくる。

- ・材料を組み合わせる方法を知る。
- ・材料を組み合わせ、ヨコハマの〇〇をつくる。
- ・発泡スチロールでつくったヨコハマの街に、つくり途中のものを置き、イメージを広げる。



ヨコハマの〇〇の写真を撮る。

- ・お気に入りの構図で写真を撮る。

「発泡スチロールで尽・高・破！」

～スチロールカッターで切ったら・・!?つないだら・・!?組み合わせたら・・!?～

横浜市立西寺尾小学校 小見 満菜美

1 題材について

本題材は、様々な形状の発泡スチロールをスチロールカッターで切り、その切り口から想像を広げ、つなげたり、吊るしたり、組み合わせたりしながら、場所とかかわり、場所を生かしながら、思い付いた活動を楽しむ活動である。

発泡スチロール材は、子どもたちの身近にあるもので、切る、つなぐ、組み合わせるなど、形を変えることが容易で、軽く、扱いやすい材料である。

子どもたちは、わくわくしながら、スチロールカッターを思いのままに動かしていく。すると、予想していなかったような様々な切り口や形が生まれる。スチロールカッターで切って生まれる切り口の面白さ、美しさに気付くことができるようにしたい。

また、その形や切り口をもとに「やりたい、やってみたい。」と思い付いたことをやっていく。試し、考え、つないだり、吊るしたり、組み合わせたりしながら、自分なりの表現を楽しめるようにしたい。主な材料は、発泡スチロール。用具はスチロールカッターである。その他にグルーガン、ストロー、ビニールタイなども使い、発想したことや構想したことが試しやすい環境をつくる。新たな発想が生まれ、広がることを大切にしたいと考える。また、天井からテグスなどを張り、空間を活用できるようにする。

2 題材目標

- 発泡スチロール材の特徴を生かし、スチロールカッターで切り、その切り口や形をもとにつなげたり、吊るしたり、組み合わせたりして、つくることを楽しもうとしている。
- 発泡スチロールの切り口から、やってみたいことを思い付き、つなぐ・組み合わせる・吊るすなど効果的な表し方を工夫する。
- 自分や友達がつくったものを見て、面白さや美しさを感じ、思いを伝え合うようにする。

3 活動の流れ(全4時間)

スチロールカッターを使って、発泡スチロールを切る。

- ・色々な形状の発泡スチロールをスチロールカッターで切り、様々な形や切り口ができることに気付く。



発泡スチロールを切り、つなげたり、吊るしたり、組み合わせたりして、発泡スチロールを変身させる。

- ・発泡スチロールを切り、その切り口や形をもとに、つなげたり、吊るしたり、組み合わせたりしながら、多様な形ができることに気付く。
- ・補助材料や天井に張ったテグスなどを活用し、様々な表現をする。



つくったものを鑑賞しながら活動を振り返る。

- ・お気に入りの場所を撮影する。

「∞に広がる！墨の可能性」

～水墨画を鑑賞して、墨の表現の特徴や魅力を見つけよう～

横浜市立西寺尾小学校 小池 悠

1 題材について

本題材は、水墨画の作品を鑑賞し、にじみやかすれ、濃淡など、墨ならではの特徴に気付いたり、墨で表すよさや美しさを感じ取ったりすることを楽しむ題材である。

水墨画は、一色の墨で描かれているが、濃淡やぼかし、にじみやかすれをうまく使い、複数の色が表現されている。また、一色で表しているからこそ、見方によっては、赤や青、黄や緑、そして光り輝く色まで想像することができる。その想像の色は、見る人によって「無彩色」になると考える。子どもたちには、細かい表現までよく見たり、友達と話し合ったりする経験を通して、見えている色だけにこだわらず、たくさんの色を豊かに感じとってほしいと考えている。

また、それら墨の表現のよさや特徴、面白さや可能性をたくさん見つけた経験を、今後の表現活動にも生かしたい。本題材の後、墨で心の中の思いを表現する題材「∞の墨で…私だけが表現できる心模様」を計画し、鑑賞した経験を表現活動に生かすことができるようにしたいとも考えている。

- ・墨で思いつくままに模様や形を描き、何に見えるか話し合う。



水墨画を鑑賞し、墨での表現のよさを発表する。

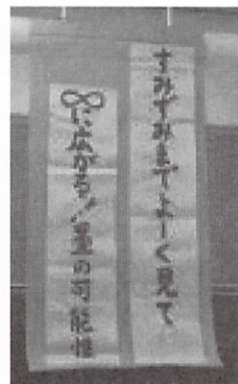
- ・墨の表現の特徴を知る。
- ・墨での表現のよさに気付く。
- ・自分の作品にも、墨のよさを生かそうという意欲をもつ。

2 題材目標

- 水墨画の作品を鑑賞して、その表現の特徴やよさを感じ取ったり、友達と伝え合ったりする活動を楽しむようにする。
- 水墨画で表現されているにじみやかすれ、濃淡の違いなどから、作品の特徴や墨で表すことの効果について考え、墨で表すよさや美しさを感じ取るようにする。

3 活動の流れ (全2時間)

墨を使って様々な模様や形を描く。



「∞の墨で…私だけが表現できる心模様」

～心が動いたあの時の気持ちを、墨の表現を工夫して表そう～

横浜市立西寺尾小学校 小林 美貴

1 題材について

本題材は、小学校生活の思い出や卒業に向けての気持ちが高まっているこの時期に、「心が動いたあの時の気持ち」を振り返り、今までに経験した技法や鑑賞活動を生かしながら、思いを墨で表現する活動である。

子どもはこれまでに、パスや水彩絵の具を使って、スパッタリングやドリッピングなどの表現方法を経験している。また、鑑賞活動では、水墨画を鑑賞し、墨の表現の特徴を捉えたり、よさを味わったりしている。墨の表現方法の豊富さに気づき、「描いてみたい。」と発言する子どももいた。「心が動いたあの時の気持ち」を振り返って自分の心模様を想像する時、「どんな形や色だと自分の気持ちに合うかな。」「この気持ちにはこの技法が使えそうかな。」など、墨のよさやこれまでの経験を十分に生かしながら、思いにあった表現ができるようにしたい。

本題材では、導入に題材名や材料、用具を掲示し、見通しをもって活動に取り組み、児童が方向性をつかむことができるようにする。表したいことがはっきりし、イメージができていれば、どんどん自分の表現をしていくと考える。また、友達の表現を鑑賞することで、表し方のよさや自分と異なる表現方法を知り、より効果的な表し方を考えられるようにしたい。

2 題材目標

- 墨で表す快さや力強さ、美しさを味わいながら表現しようとしている。
- 「心が動いたあの時の気持ち」から思い付いたことを、墨の濃淡やかすれ、にじみなどを使って発想を広げながら効果的に表そうとしている。
- 自他の発想のよさや美しさなどを感じ取り、友達と共有しようとしている。

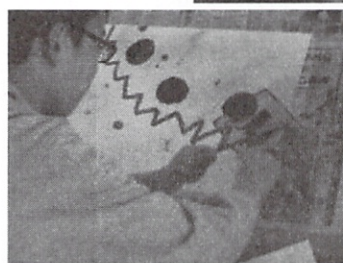
3 活動の流れ（全4時間）

墨のよさや特徴を考え伝え合う。

「心が動いたあの時の気持ち」からイメージを膨らませる。

自分の表したい気持ちを墨で表す。

- ・ストローやブラシなどを使って表す。



自他の発想や表現方法を見て、感じたことを伝え合う。



「透明シートにか～いちゃお！」

～ふででシートに 描いて むって あら?! ふしぎ! ～

横浜市立西寺尾小学校 平本 真澄・中村 美月・相馬 仁美・小山 貴明

1 題材について

本題材では、透明シートに筆と絵の具を使って自分の好きなものを描く活動を通して、色の美しさや、透かして見る楽しさを味わうことができるようにしたいと考えた。

子どもは、これまでに使ったことのある材料を使うことで、安心して活動することができる。安心して活動することで、子どもはのびのびと活動に没頭することができる。様々な力が「のびる」と考えた。子どもたちはこれまでに、透明シートに好きなものをペンで描いたり、絵の具と筆を使って自由にペットボトルに色を塗ったりする活動を経験してきている。本題材では、子どもたちのこれまでの経験を生かし、筆とアクリル絵の具を使って透明シートに描く活動にする。また、終末では、ブラックライトで照らした世界も楽しめるようにする。過去にブラックライトで光らせる経験もしているので、見通しをもちながら表現できるようにしていきたい。

また、教室の周りや床だけでなく、教室の中央にも様々な形で透明シートを張り巡らせるなど、場の設定を工夫することで、安心して自由にのびのびと表現をしながらも、透かして見る楽しさや色の重なりが味わえるようにしていきたい。

2 題材目標

- アクリル絵の具を使って自分の好きなものを表すことを楽しむようにする
- 自分の好きなものを表すために、好きな色や好きな形を考えてアクリル絵の具を使いながら表し方を工夫できるようにする。
- 感じたことを話したり、聞いたりしながら、表現のおもしろさに気づくことができるようにする。。

3 活動の流れ（全4時間）

筆と絵の具を使って机の上の透明シートに自分の好きなものを描く。

- ・筆と絵の具の使い方に慣れる。
- ・透明シートに関心をもつ

筆と絵の具を使って教室内に張り巡らされたシートに自分の好きなものを描く。



ブラックライトで描いた世界を光らせる。

- ・友達が表現したものを様々な角度から見る。





マリンタワー

MEMO

中学校 公開授業 指導案

横浜市立仲尾台中学校



「今の私、なりたい私」

～私の心を写す～

厚木市立睦合中学校 森元 勇氣

1 題材について

本題材は、「今の私」「なりたい私」といった、“私”の内面を見つめ、普段は言葉にできない悩みや喜び、苦しみや夢などの心の内面を主題とし、意図に合わせた材料や用具を選択しながら表現する活動である。

本題材の重要な部分である、「主題の生成」については、生徒が心の中に強く思い描いていることを表現するために、相応しい色や形、用具や材料等を自ら選択し、それらの効果を生かしながら、主体的に美術の創造活動に取り組めるよう、活動の流れや発問を工夫した。

扱う材料は、絵の具と画用紙を基本するが、生徒の表現意図に合わせて、生徒自身が材料やその扱い方を思考し、具体的な絵や図、文字などを使わずに形と色彩の組合せで表現することとした。生徒一人ひとりが自分の主題を明確に持ちながら、表現活動を行えるよう、個別指導を大切に、本時の学習を進めたい。

2 題材目標

感性や想像力を働かせて、夢や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、材料や用具の特性などを考え、自分の表現意図に合う新たな表現方法を見つけ出し、工夫しながら創造的に表現する。

●本題材を通して身に付けたい力

自ら生み出した主題を表現するために、材料や用具の特性を生かしながら主体的に創意工夫して表現する力。

3 活動の流れ(全3時間)

時	活動内容
1	◎題材の把握と主題の生成 ①導入 心の動きを表す言葉を、鉛筆や色ペン等の筆記用具を用いて紙に線や点、塗りで抽象的な描画で表す。文字や記号、図等を使わずとも色や形で表現できることを実感し、題材への関心を高める。 ②本題材の把握と主題の生成 自己の内面を見つめ、思いついたことや考えたこと、夢等を基に、表現の主題を考え、アイデアスケッチをする。 ③構想を練る【本時のための練習】 主題を基に、画用紙や和紙等に筆だけでなく、割り箸や木の枝、スポンジなどの用具に触れながら、何ができるか模索し、表現の構想をまとめる。(①の活動と同様、具体的な図や絵、文字等を使わずに色や形の組合せで表現する)
2 本 時	◎制作 ・前時の構想を実現するために、表現の構想を改めて確認する。 ・自らが選択した画用紙や和紙等に、絵の具の特性等を生かして、筆だけでなく割り箸や木の枝、スポンジ等の用具を用いて創意工夫して表現し、作品を完成させる。 ・作品の題名を考える。
3	◎鑑賞と学習の振り返り ・他者の作品から、作者の主題、意図、創造的な表現の工夫等を感じ取る。 ・題材の学習過程において学んだことや身に付けた力等を振り返りワークシートに記述する。

「2020年、私が運ぶ思いの形」

～炎を入りたい形を表す～

横浜市立旭中学校 長谷川 聡

1 題材について

4年後の2020年に東京オリンピックが開催される。そこで、聖火やオリンピックに込められる様々な思いなどから主題を生み出し、自分の炎を入れるトーチを考え立体作品に表現する題材を設定した。紙粘土を主な材料とし、自らの主題を表すのに適した材料や表現方法を生徒自身が選択し、工夫できるよう学習活動を設定した。

また、完成した作品を鑑賞し合い、感じ取った作者の思いや、それをどのように表現したのか、制作意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、見方や考え方を広げること、今後の表現及び鑑賞の活動に生かせるような場面を設けた。

2 題材と学習指導要領の関連

A 表現(1): 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想(ア、イ)

- ・聖火やオリンピックから感じ取ったことや考えたことを基に主題を生み出し、想像力を働かせて心豊かな表現の構想を練る。

A 表現(2): 発想や構想をしたことなどを基に表現する技能(ア、イ)

- ・紙粘土等材料の特性などから制作の順序などを総合的に考え、表現方法を工夫するなどして、見通しをもって創造的に表現する。

B 鑑賞(1): 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞(ア)

- ・他の生徒の作品を鑑賞し、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、新しい見方や考え方を広げる。

3 題材目標

心の世界に関心をもち、夢、想像や感情などを、造形的な効果を生かし、創造的に表現するとともに、他者の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

4 活動の流れ(全7時間)

学習のねらい、学習活動

1. 課題の把握と発想(2時間)

【第1時】

- 表現意図に合う材料などを想定して自分の思いを入れる形を紙粘土で表現することを理解し、題材への関心を高める。
- ・参考映像を鑑賞し、聖火やオリンピックに込められる様々な思いから、自分の炎を入れるトーチの形を考える。
- 夢、想像や感情などの世界から表現する主題を生み出す。
- ・発想を広げるために言葉で表したり、図で表したりして、表現したい主題を考える。

【第2時(本時)】

- 主題を基に構想を練る。
- ・主題を基に油粘土による立体スケッチやワークシートへの考えの記入などにより構想をまとめる。

2. 制作(4時間)

- 構想を深め、自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。
- ・構想を基に、実際に作る際に使用したい素材やそれらがもたらす感情を考えたり、ワークシートに考えたことを記入したりして、表現方法を工夫し、見通しをもちながら制作をする。

3. 鑑賞(1時間)

- 他者の作品から、作者の主題、意図、創造的な表現の工夫などを感じ取る。
- ・ワークシートに、自分の作品についての説明を記述する。
- ・互いの完成作品を鑑賞し、互いのよさを認め合うことを通して新しい見方や考え方を広げる。

「私は空間デザイナー」 ～スロープの心安らぐ空間に～

川崎市立南加瀬中学校 長澤 秀行

1 題材について

（1）本題材の学習指導要領との関連

A表現（2）ア目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。

また、「学習指導要領解説—美術編—」には、次のような記載がある。

また、生徒や学校などの実態に応じて、身近な環境に目を向け、心安らぐ生活空間を構成や装飾する視点や、～（中略）～心豊かな環境を考えて発想や構想をするなどの学習を取り入れることも大切である。

これらの内容を基にして、形や色彩のもたらす効果を生活の中に取り入れ、本題材の学習を通して生徒自身が身近な環境に目を向け、心安らぐ生活空間をつくり上げる喜びを実感できるよう、学習内容を工夫した。

（2）本題材について

本題材では、生徒にとって身近な環境である校舎内のスロープに着目した。

「学校が多くの生徒にとって心安らぐ生活空間になるように」という目的を基に、形や色彩の効果を生かした装飾を考えることで、生活を美しく豊かにする美術の働きを感じながら、身近なスロープという空間が美しく豊かに変容することを体感できるのではないかと考え、本題材を設定した。

2 題材目標

感性や想像力を働かせて、校内のスロープを心安らぐ生活空間にするという目的を基に、形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練り、創意工夫して表現している。

3 活動の流れ（全3時間）

時	活動内容
1	○題材の把握と主題の生成 - 形や色彩の効果を生かした身近な作品などを鑑賞し、多くの生徒が心安らぐ生活空間とはどのような空間かを考える。 - スロープを装飾するために必要な形や色彩の効果への理解を深める。 ○構想 実際にスロープを歩き、形や色彩の効果を生かして、色鉛筆を用いてアイデアスケッチし、表現の構想を練る。
2 本 時	○前時の振り返り 前時の学習を振り返り、題材のねらいを再確認する。 ○構想・制作 スロープを縮小した模型にアイデアスケッチを貼りつけ、形や色彩の効果を確かめながら構想を練り直し、表現する。
3	○鑑賞 アイデアスケッチを発表し合い、形や色彩などの特徴や印象などから、表現意図や工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。

4 今後の展開について

本題材で発想や構想の能力を養うことで、共同制作に発展させたり、B鑑賞（1）イの鑑賞を行い、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解を深めたりするなどの展開が考えられる。

味覚を視覚に ～オリジナル飲料のパッケージデザイン～

茅ヶ崎市立鶴嶺中学校 清水 めぐみ

1 題材について

(1) 本題材が関連する学習指導要領

(2) イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

(3) ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。

(2) 本題材において身に付けたい力

- ①色彩を使って伝えたい内容を他者に伝える力
- ②生活の中で使われているパッケージデザインの形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージを主体的に捉える力

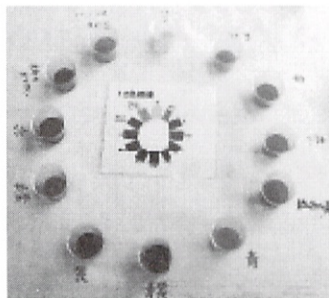
2 題材目標

飲み物の味やイメージを多くの人々に伝えるために、色彩の効果を生かしてパッケージの構想を練り、材料や用具を工夫して表現する。

題材の工夫

- ・1年時に習得した色彩学習を導入に取り入れ、色彩がもたらす感情や効果を再確認し、パッケージデザインを考える際に、より他者に伝えることを意識した色選びができるようにする。
- ・導入の色彩学習に色水を使うことで、色の変化を共有しながら、イメージに合わせた色づくりを体験できるようにする。
- ・生徒の活動グループを「架空の企業」と設定し、導入時からグループで意見を交換しながら、他者の視点を大切にすることで、相手にわかりやすいデザインになっているか随時確認できるようにする。

3 活動の流れ(8時間)

時	活動内容
1	○導入と既存の習得事項の再確認 ・色水を用いた色彩学習 
2 本 時	○本題材の把握と発想・構想① ①色のイメージが伝達の表現について重要な関わりをもっていることを理解する。 ②多くの人が共通に感じる色のイメージをつかむためにグループごとに指定されたテーマの色水を作り、他者に伝わるか確認する
3	○発想・構想② 飲み物の味やイメージ、他者の気持ちなどを考えて、ワークシートやアイデアスケッチなどを用いて発想を広げ、表現の構想を練る。
4 5 6 7	○制作 ①構想を基に自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。 ②構想に改善を加え、表現方法を工夫しながら制作する。
8	○鑑賞 完成作品を相互鑑賞し、批評し合うことにより表現の工夫などを感じ取る。

4 参観の視点(協議の柱)

本時の学習活動がA表現(2)の指導事項で重要視させる「客観的視点」を生徒に自覚させるために有効であったか。

「YOKOHAMA 時空探索！」

～横浜を想う～

横浜市立本郷中学校 山田 香織

1 題材について

本題材で取り上げる作品は20点ほどで、全て横浜を描いた作品である。これらの作品は、時代が異なっているが、生徒にとっては身近に感じられる対象を描いているものが多く、生徒は作品の世界に入り込みやすいと思われる。授業では、横浜美術館のエducーターにも入っていただき、生徒の活動を支援していただく。授業後、生徒は横浜美術館など実際に展示してある場所に行き、本物の作品を鑑賞することが可能である。

本題材では、まず示された視点に基づいて、グループで話し合いながら作品を鑑賞する。次に鑑賞した視点から、グループのテーマを決めて、意図をもって作品を展示する。これらの活動を行うことで、作品の表現主題や造形的なよさを、より深くつかみとらせる。横浜に思いをよせながら、作品に込めた作者の思いを感じ取ったり、作品の色や形など表現の特徴をつかんだりすることで、豊かな感性や見方で作品について批評できる力を、本題材で身につけさせたい。

2 題材目標

生徒が暮らしている横浜を主題とした作品を、形や色などの造形的な視点や、描かれた時代や場所と主題を関連づけた視点で作品を鑑賞したり、テーマを決めて展示したりする活動を通して、描かれた対象への作者の思いを感じ取り、作品について自分の価値意識をもって批評する力を高める。

3 活動の流れ(全2時間)

1 時間目

- ①並べられた全ての作品が、横浜を描いていることに気づく(知る)。
- ②並べられた作品から心ひかれる作品を探し、作品の何にひかれるかを学級全体で伝え合う。
- ③グループ(4、5人)になり、「グループの視点」に基づき、作品を3、4点ほど選ぶ。
- ④選んだ作品それぞれについて、「グループの視点」を軸に、グループで意見を出し合う。出された意見を付箋に書き、模造紙に貼る。
- ⑤学習したことを、ワークシートにまとめる。

2 時間目(公開授業)

- ①「グループの視点」からテーマを決めて、教室をギャラリーに見立てて、作品をどう並べたらよいかを話し合って並べてみる。
- ②各グループが、自分たちのギャラリーのプレゼンテーションをするための準備をする。
 - ・ギャラリーのテーマと作品の紹介
 - ・鑑賞する人(他のグループの人)への問い
- ③グループごとプレゼンテーションするとともに、それを聞いている生徒に問いを投げかけて、考えを引き出す。
- ④他のグループのギャラリーを見たり、プレゼンテーションから対話をしたりして、作品について新たに発見したことなど感想を伝え合う。
- ⑤学習したことを、ワークシートにまとめる。学習全体を通して、自分の学び(作品の批評や、横浜への自分の思い)について振り返る。

「文様は巡る」 ～美術文化理解への入り口～

鎌倉市立岩瀬中学校 鈴野 江里

1 題材について

（1）学習指導要領に基づいて

学習指導要領に記されている第2学年及び3学年の目標「（3）自然の造形、美術作品や文化遺産などについて理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。」に基づき、題材検討を行い、次の3点に重点を置き、本題材を設定した。

- ①自分一人で見えていたのでは気付くことができない視点やとらえ方、価値などに気付くことを大切にする。
- ②これまで学んできた知識なども活用しながら、〔共通事項〕の視点をもって鑑賞する。
- ③日本や諸外国の美術文化についての理解と関心を高める。

（2）本題材について

本題材「文様は巡る」は、世界各地の文様を鑑賞しながら、その相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさを感じとり、味わうことで美術文化に対する関心を高める題材である。文様を鑑賞対象とした理由は、第2学年の発達段階を踏まえたとき、絵画作品に比べて、文様は色や形の工夫といった項目で比較しやすい点、社会科や技術・家庭科で習得した知識と関連付けて、それぞれの文様における相違と共通性を見つけやすい点が見受けられたからである。

2 題材目標

「日本及び諸外国の美術の伝統と文化の相違と共通性に気付き、美術文化への関心を高めようとする。」

第2学年という発達段階を踏まえ、「日本及び諸外国の美術文化の相違に関心をもち」ことを到達目標とし、今後の様々な活動に生かしていくきっかけとしたい。

3 活動の流れ（全2時間）

（1）活動計画

時	活動内容
1	○「見方・考え方」を培う練習題材 【習得】 何ができるようになるか 題材の把握と学習のねらい （身に付けたい力）の把握
2 本 時	○鑑賞活動 【活用】 知っていることをどう使うか ・グループでの話し合い活動 ・発表と共有 ○学習の振り返り どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか

（2）工夫した点

練習題材の鑑賞活動から本題材がねらいとする「見方・考え方」を習得し、本時の展開で前時の既習事項を活用しながら自分の力で（視点をもって）鑑賞する活動を通して、学びの深まりを実感させる。

- ・これまで学習した他教科の知識も活用しながら、美術的な視点をもって鑑賞する「教科横断的な学び」を体験させる。
- ・資質・能力の三つの柱を意識した学習活動。

（3）参観の視点（協議の柱）

- ①第2学年において、本題材がねらいとしている学習内容は適切であったか。
- ②生徒の発達段階を踏まえた、第2学年及び第3学年における年間指導計画の設定について。



みなとみらい

MEMO

高等学校 公開授業 指導案

神奈川県立上矢部高等学校



「銀ろう付けによるリング制作」

神奈川県立上矢部高等学校 甲斐 秀幸

1 題材について

銀ろう付けなどの技法を用いてリングを制作する題材である。金属を使った作品制作は他の素材に比べて加工が難しく、危険な要素も含むが、自分がイメージしたものが、地道な作業を経て形になったときの喜びが大きい。美術Ⅲを選択する生徒は、これまでの美術の学習の中でさまざまな美的体験を重ねており、その経験を踏まえて素材特性を生かした個性的なデザインを構想し、生活を豊かにするデザインの働きについての理解を深めることなどをねらいにしている。

素材は洋白（銅と亜鉛、ニッケルから構成される合金）を用いる。銀や銅よりも硬いが、磨くと美しく銀色に光る。柔軟性、屈曲加工性、耐食性に富む。

<条件>

- ・ 次のサイズの2本の素材を用いて制作する。
幅10×長さ57×厚さ1ミリ
幅10×長さ64×厚さ1ミリ
- ・ 技法は切削、圧延、焼鈍、溶接、研磨による。
- ・ 自然物などから発想した美的で立体感のある形態を追求すること。
- ・ 指につけたときに引っ掛かりがないよう滑らかなデザインにすること。

2 題材目標

「指にアクセントを添えるリングのデザインを考え、銀ろう付けなど金工の基本的な技法を理解して制作し、相互にデザインのよさや楽しさを味わう。」ことを題材の目標として生徒に示している。

3 活動の流れ（全14時間）

（1）発想を豊かにする鑑賞

- ・ 身近な「美しいデザイン」を見つけてその要素について考える。

（2）構想

- ①デザインコンセプトを決める。
- ②アイデアスケッチ、三面図の制作
- ③切る素材の長さを計算
- ④原寸図を作成

（3）制作

次に示すのは一般的な手順であり、デザインによっては順番が前後する場合もある。

- ①切り出し（万力・糸のこぎりを使用）
- ②飾り部品の接合（バーナー、耐火作業台、銀ろう、フラックス）
- ③水洗い（真鍮ブラシ）
- ④焼鈍（バーナー、耐火作業台）
- ⑤曲げる。（ヤットコ、万力）
- ⑥接合（バーナー、耐火作業台、銀ろう、フラックス）
- ⑦丸くする。（芯金棒、木槌）
- ⑧形を整える。（棒やすり）
- ⑨磨く。（サンドペーパー、研磨剤）

（4）振り返りと鑑賞

- ①自分の制作について振り返る。
- ②他の生徒の作品を相互に鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。



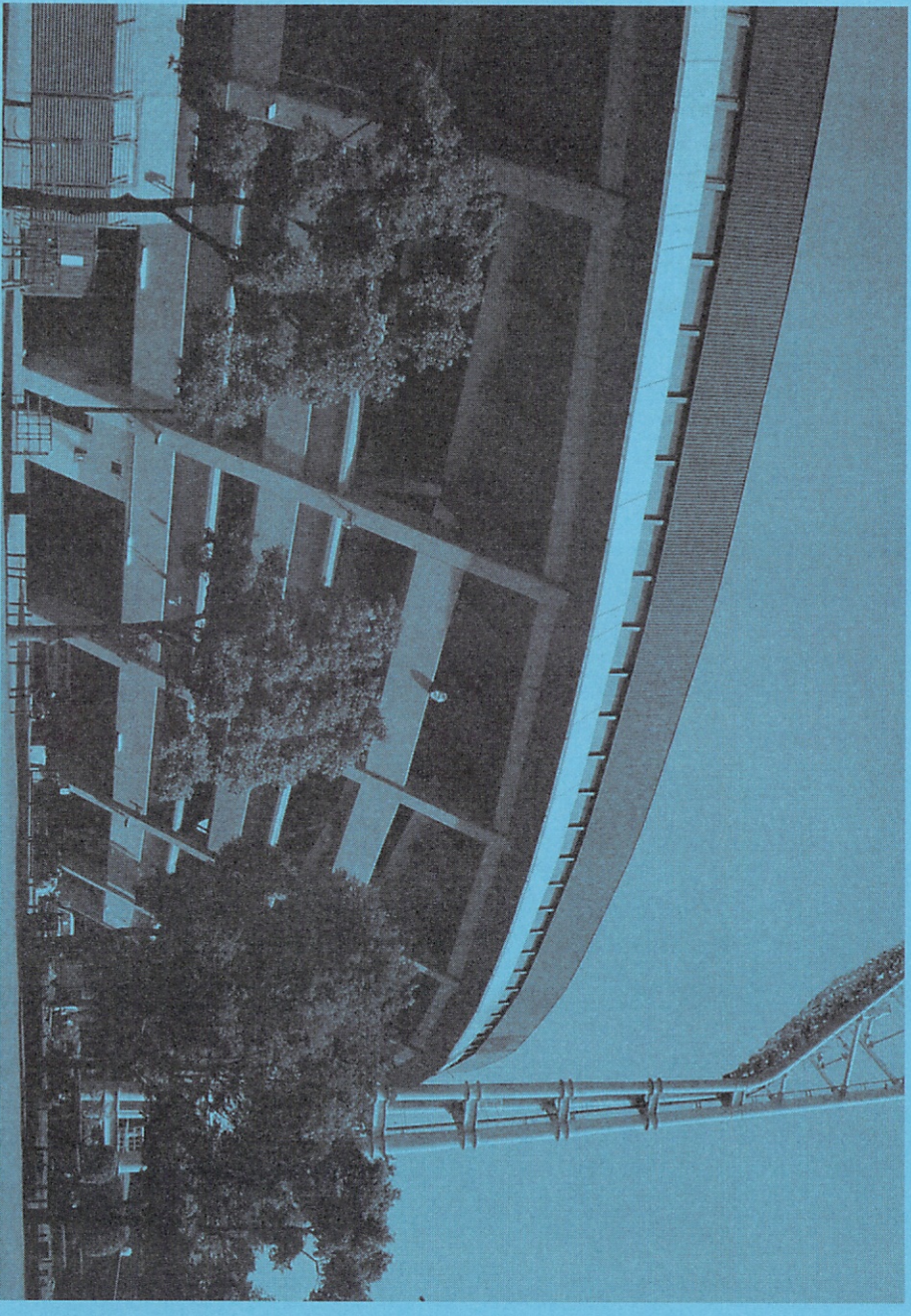
生徒作品

校種別分科会

校種別分科会

大会テーマ	校種別テーマ	校 種	内容とキーワード	提案・助言・司会担当(地区)
感じる つくる 生きる ～ 今をみつめ 明日を育む造形活動 ～	「みてみて!」 感じるままに	幼稚園 保育園 認定こども園	表現 あそぶ	1a 神奈川県(横浜・三松幼稚園)
	「やりたい!やってみたい!」 思いのままに	小学校	A表現(1)造形遊び おもいつく	2a 神奈川県(横浜)
				2b 長野県
				3a 神奈川県(川崎)
				3b 東京都
				4a 神奈川県(相模原)
				4b 茨城県
			A表現(2) 絵や立体、工作に表す みつける	5a 神奈川県(横浜)
				5b 栃木県
				6a 神奈川県(川崎)
				6b 千葉県
				7a 神奈川県(横浜)
				7b 埼玉県
			B鑑賞(1) みる	8a 神奈川県(川東)
				8b 山梨県
				9a 神奈川県(川西)
			特別支援学級 のびる	9b 新潟県
				10a 神奈川県(横浜)
				10b 静岡県
	「…きめた。」 わたしがわたしをつくるとき	中学校	A表現(1)(3) 思う	11a 神奈川県(横須賀)
				11b 群馬県
				12a 神奈川県(横浜)
			A表現(2)(3) 働きかける	12b 神奈川県(川崎)
				13a 神奈川県(湘南)
				13b 茨城県
			B鑑賞(1) ひらく・つながる	14a 神奈川県(横浜国大附属)
				14b 埼玉県
				15a 神奈川県(川崎)
	「こうしてみよう!」 つながる学び	高等学校	中高美術工芸の今…	15b 長野県
				16a 神奈川県(横須賀)
				16b 千葉県
				17a 神奈川県(相模原)
				17b 東京都
				18a 神奈川県(横浜)
				18b 新潟県
				19a 神奈川県

提 案	助 言	司 会	記 録	分科会
鮫島 良一 (鶴見大学短期大学部)	佐々木 孝 (造形教育をもちあげる会)	平野 英雄 (新蔵学園大神美里幼稚園)	木元 茂 (横浜アイリス学園幸ヶ谷幼稚園) 堤 美香 (鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園)	1
坂口 萌(横浜市立西寺尾小学校)	井田 善之(横浜市教育委員会)	桑野 麻美(横浜市立南吉田小学校)	竹内 直子(横浜市立東山田小学校)	2
小山 俊樹(佐久市立中込小学校)	大西 孝一(佐久市立岸野小学校)	高山 顕光(飯綱町立三水第一小学校)	野田 俊司(長野市立大豆島小学校)	
高野 国嘉(川崎市立西御幸小学校)	加藤 順也(川崎市立東小田小学校)	前田 愛(川崎市立東菅小学校)	澁谷 典子(川崎市立菅生小学校)	3
中島 綾子(台東区立金竜小学校)	福岡 貴彦(目黒区立上目黒小学校)	柴田 芳作(狛江市立狛江第一小学校)	後藤 真理子(荒川区立赤土小学校)	
上村 尚子(相模原市立富士見小学校)	笹嶺 由香(相模原市教育委員会)	漆原 洋(相模原市立大野台小学校)	額賀 久美子(相模原市立田名小学校)	4
樫村 香奈子(水戸市立吉田小学校)	角谷 直人(水戸市立第二中学校)	堀江 昌代(水戸市立双葉台小学校)	山田 浩司(水戸市立国田義務教育学校)	
宮本 英彦(横浜市立西寺尾小学校)	寺澤 みゆき(横浜市教育委員会)	吉田 岳雄(横浜市立二俣川小学校)	岩井 浩子(横浜市立中和田小学校)	5
川村 貴臣(宇都宮市立五代小学校)	谷仲 俊彦(栃木県総合教育センター)	高橋 浩史(宇都宮市立城山中央小学校)	仲西 伸人(大田原市立大田原小学校)	
石川 裕貴(川崎市立宿河原小学校)	中臣 信丈(川崎市立新城小学校)	佐野 美央(川崎市立麻生小学校)	佐野 加寿子(川崎市立はるひ野小学校)	6
古谷 智爾(山武市立大富小学校)	小高 玄一(千葉市立坂月小学校)	櫻田 努(東金市立豊成小学校)	鶴澤 啓行(山武市立大富小学校)	
朝野 祥子(横浜市立中丸小学校)	桃井 陽子(横浜市立原小学校)	木村 裕子(横浜市立六浦南小学校)	松浦 雅昭(横浜市立藤が丘小学校)	7
小林 玲子(美里町立東児玉小学校)	岡村 和美(本庄市立旭小学校)	長橋 寿子(小笠野町立長若小学校)	堀口 絹代(秩父市立南小学校)	
塙 亜矢子(綾瀬市立寺尾小学校)	本間 一弘(藤沢市立天神小学校)	武藤 裕子(綾瀬市立寺尾小学校)	鈴木 孝司(大和市立林間小学校)	8
古屋 ゆか(甲州市立勝沼小学校)	小俣 博昭(富士河口湖町立西浜小学校)	宮澤 宏明(苗吹市立八代小学校)	小俣 直喜(鎌崎市立鎌崎西中学校)	
徳田 美昭(秦野市立南が丘小学校)	村松 利美(小田原市立片浦小学校)	山田 美穂(秦野市立大根小学校)	二宮 ひとみ(秦野市立西小学校)	9
金澤 健志(魚沼市立堀之内小学校)	立川 厚生(長岡市立上組小学校)	宇賀田 和雄(新潟県立近代美術館)	五十嵐 由美子(長岡市立上組小学校)	
落合 陽香(横浜市立並木第一小学校)	関根 凉子(横浜市立鳥が丘小学校)	南澤 寛樹(横浜市立桂小学校)	橋本 昌尚(横浜市立新井小学校)	10
河野 祐一(伊東市立東小学校)	鈴木 健五(静東教育事務所)	吉留 一将(熱海市立熱海中学校)	飯塚 岳彦(熱海市立多賀中学校)	
岩田 裕光(横須賀市立田浦小学校)	杉戸 美和(横須賀市教育委員会)	黒澤 正道(横須賀市立公郷小学校)	渡辺 晶子(横須賀市立城北小学校)	11
中谷 愛(桐生市立天沼小学校)	中原 靖友(群馬大学教育学部附属小学校)	萩原 憲一(高崎市立標名中学校)	濱田 大作(桐生市立相生中学校)	
平本 真澄(横浜市立西寺尾小学校)	江口 和良(横浜市教育委員会)	安部 静香(横浜市立子安小学校)	柳谷 記泰(横浜市立新吉田小学校)	12
松本 潤(川崎市立殿町小学校)	鈴木 信一郎(川崎市立土橋小学校)	野口 美義(川崎市立新城小学校)	小原 みはる(川崎市立大師小学校)	
岡崎 梨里(鎌倉市立手広中学校)	小池 研二(横浜国立大学)	赤木 明子(藤沢市立滝の沢中学校)	佐久間 直美(横浜市立日野南中学校)	13
中川 知子(つくば市立豊学園豊里中学校)	中田 和彦(つくばみらい市立豊小学校)	佐藤 真紀(つくば市立手代木光輝学園手代木中学校)	小松澤 望(つくば市立高山真名学園島名小学校)	
飯田 哲昭(横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校)	大泉 義一(横浜国立大学)	渥美 廣剛(厚木市立相川中学校)	柳田 みちる(川崎市立橘中学校)	14
牛久 智美(加須市立大利根中学校)	寺井 進一郎(加須市立昭和中学校)	小島 容子(加須市立加須西中学校)	甘楽 紘子(行田市立長野中学校)	
相原 典子(川崎市立王禅寺中央中学校)	天形 健(福島大学)	石井 有彦(平塚市立山城中学校)	吉田 有貴(川崎市立平中学校)	15
末益 奈緒美(松本市立波田中学校)	田中 好文(佐久市立野沢中学校)	岡村 聡(小諸市立小諸東中学校)	久保田 充徳(長野市立犀原中学校)	
堀田 沙織(横須賀市立長井中学校)	佐藤 有功(元神奈川県公立中学校教育研究会)	清水 清美(横須賀市立神明中学校)	菊池 聡美(横須賀市立久里浜中学校)	16
宮下 泉(芝山町立芝山中学校)	平野 正春(千葉市立緑が丘中学校)	古川 智子(横芝光町立光中学校)	栗原 里佳(東金市立東金中学校)	
榎本 典子(相模原市立鶴野森中学校)	小林 正子(元相模原市立大野台中学校)	大橋 佳子(相模原市立相陽中学校)	村上 奈央(相模原市立若草中学校)	17
松尾 英治(大田区立貝塚中学校)	殿村 靖廣(葛飾区立大道中学校)	長尾 菊絵(西東京市立ひばりが丘中学校)	平岡 紀子(江戸川区立鹿骨中学校)	
吉田 浩気(横浜市立谷本中学校)	松原 雅俊(横浜市教育委員会)	斎藤 祥子(松田町立寄中学校)	正留 末ゆ(横浜市立森中学校)	18
恩田 康一(見附市立南中学校)	田村 晃夫(三条市立第二中学校)	庭野 紀元(長岡市立柿小学校)	兒玉 季恵(佐渡市立両津中学校)	
立川 公子(神奈川県立多摩高等学校)	平野 明(神奈川県立相模原中等教育学校) 栗田絵莉子(横浜美術大学・玉川学園)	宮田 一宏(神奈川県立弥栄高等学校)	岩井 紗季(神奈川県立横浜桜陽高等学校)	19



横浜スタジアム

MEMO

幼稚園分科会

「みてみて!!」
感じるままに

幼児の作り遊ぶ世界を体験しよう！

～ 道具箱の中にあるものから生まれる世界 ～

神奈川県（横浜） 鶴見大学短期大学部 鮫島 良一

◆道具箱の中身から考えよう

クレパスとハサミと糊、そして油粘土。これらは幼稚園のいわゆる道具箱（個人の道具箱）に入っている基本的な造形用具です。油粘土は土の粘土の代用品ですので一旦置いておき、ここでは＜クレパス＞＜ハサミ＞＜糊＞について、実際に体験しながら考えてみたいと思います。それらを考えることは、人が＜描くこと＞＜切ること＞＜貼ること＞の始まりとその後の展開について考えることにつながります。今回のワークショップでは、これらの道具を使って、子どものやり方を追体験していこうと考えています。

◆ワークショップの内容

大人の場合は最初に何を作るか決めてから描き、作ることがほとんどですが、子どもはそうとは限りません。むしろ幼いほど、目の前の物に触ってみたい、道具を使ってみたい、というところから始まり、その感触や行為の結果としての痕跡や変化を敏感に受け止めながら次の手を繰り返し出し、あれこれ模索していくことが多くあります。

今回のワークショップでは、あえて目的を想定せずにクレパスやハサミといった道具を使うことから始め、子どもがものを生み出す過程を追体験していきます。

◆道具との出会いと展開

子どもは、どんなふうに通形の素材や道具と出会って表現するようになっていくのでしょうか？

主に次のようなことをキーワードに、体験を交えて考えていきます。

＜クレパス＞

その手応えと魅力。子どもは何を面白がるのか。

＜ハサミ＞

子どもにとっての切ることの始まりと3つのステージ。

＜糊＞

ぬるぬるベタベタ、固定することで獲得することと失うこと。

さらに、この基本的な道具から広がる他の道具や素材の可能性や考え方についても説明していきます。

◆到達目標

- ・それぞれの素材や道具の特徴について、使う側の子どもの立場から考える視点の獲得。
- ・子どもが物であそぶことと、ものを作るものの関係を理解する。
- ・子どもの発想の仕方、手と目を使ったものの考え方や表現の特徴について理解を深める。

小学校分科会

**「やりたい! やってみたい!」
思いのままに**

「ようこそ！カラフルスティックの世界へ！」 ～豊富な材料の形や色から、やってみたいことをおもいつく授業づくり～

神奈川県(横浜) 横浜市内西寺尾小学校 坂口 萌

◆題材の概要

本題材では、割りばしをアクリル絵の具で彩色した5色のカラフルスティックを並べたり、積み重ねたり、組み合わせたりして、材料にかかわりながら形や色に着目し、材料のよさを生かして表現することを楽しむ活動である。活動を通して、身近なものを組み合わせることで生まれる美しさや面白さに気づき、場や空間が変化していく造形活動の楽しさを味わってほしいと考えた。また、カラフルスティックだけでなく、ストローや粘土、輪ゴムなどの補助材を効果的に使うことで、さらに子どもたちの新たな発想や構想を広げていくことができるようにした。

小学校テーマの「おもいつく」を大切に、題材の展開を考えた。子どもたちがやってみたいことをおもいつくように、カラフルスティックとの出あいや、図工室の椅子や机を使い、高低差を利用しながら活動できるような場を工夫した。

◆題材について

【題材名】

「ようこそ！カラフルスティックの世界へ！」

～カラフルスティックの特徴を生かして、

図工室を变身させよう～

【目標】

- カラフルスティックを並べたり、積み重ねたり、組み合わせたりして、つくることを楽しもうとする。
- カラフルスティックや図工室の特徴を生かして、並べたり、積み重ねたり、組み合わせたりして、効果的につくる。
- つくりつつあるものから、発想のよさや形や色の美しさなどを感じ取り、友達と思いを伝えあっている。

【実践】

カラフルスティックと出あい、どのようなことができるかを考える。

- ・大量のカラフルスティックにブラックライトを当て、スティックが光る面白さを味わった。
- ・カラフルスティックと図工室の特徴をそれぞれ考えた。

カラフルスティックや図工室の特徴をもとに、効果的につくる。

- ・活動したい場所を見付け、思い付いた活動を楽しんだ。
- ・活動の途中でブラックライトを当てることで、空間全体を見渡すことができ、さらに発想や構想が広がった。



◆成果と課題

○成果

低学年では、様々な形や色の色紙を並べたり重ねたりして活動を楽しんでいた。高学年では活動の中心となる材料だけでなく、補助材を組み合わせることで発想や構想が広がった。また、どの学年でも活動の途中で互いの表現を見合う時間をつくったことで、発想や構想の能力が高まり、やってみたいことをおもいつく子どもが多かった。

○課題

子どもたちの活動が図工室全体に広がるよう、教室から机や椅子の大半を廊下に出したことで、高学年の目標である場所の特性を生かすことができなかった子がいた。

「かさからはじまるものがたり」・「とう明人間がいるよ」

～場所に働きかける造形遊びの一考察～

長野県

佐久市立中込小学校 小山 俊樹

◆題材の概要

置き傘と自分の傘およそ100本の傘を使った6年生(H27)の造形遊び

◆題材について

・題材名「かさからはじまるものがたり」

・目標

傘の特徴を生かし、効果的な使い方を試しながら身近な場所に働きかけ、思いを表したり、空間の変化を楽しんだりする。

・実践

1 準備したもの

傘(児童分×3本)、スズランテープ

2 学習の流れ

○置き傘と出会う

学校の倉庫に積まれた持ち主のいない置き傘。整理のために床にきれいに並べていく傘を見て、一人の子が「たくさん広げたらおもしろそう。」とつぶやいた。その場にいた子どもたちはすぐに賛同した。

①傘の特徴とできそうなことを考える

傘の使い方に迷っている様子が感じられたので、全体で傘の特徴やできることを簡単に考えた。

②造形活動

③実際の表現を見たり、デジタルカメラの画像を見たりして活動をふりかえる

～子どもの感想より～

「傘を通した光がなんかいい。」

「映っている人も含めて芸術だ!」

「風にゆれて傘が回っておもしろい。」

◆成果と課題

○成果

子どもたちは、体全体、五感を使って造形活動をし、様々な面白さや美しさを発見し、楽しむことができた。

○課題

傘と遊具を組み合わせる表現を楽しむ姿は多く見られたが、空間の変化のおもしろさや美しさを追求し、試行錯誤する姿は予想したほどは見られなかった。



◆題材の概要

身近な場所に働きかけ、空間の変化のおもしろさや美しさを感じたり、追求したりするような子どもを育てるにはどうすればいいのだろうか。

そこで4年生(H28)で手袋や靴等を使った造形遊びを考えた。材料は形を工夫する程度なので、より身近な場所から発想することにつながると考えた。

◆題材について

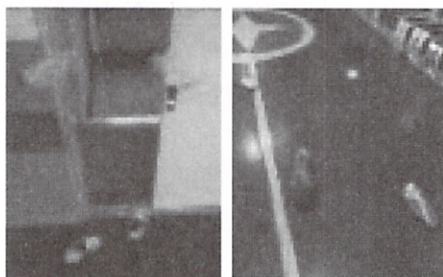
・題材名「とう明人間がいるよ」

・目標

軍手や靴などの効果的な使い方を試しながら身近な環境に働きかけ、発想を楽しんだり思いを表したりする。

・実践

本年度、4年の担任となった。子どもたちに造形遊びの経験が少し不足していると感じ、1学期はそれらを補うような活動をした。本題材「とう明人間がいるよ」は2学期に行う予定である。





「あしあとカードであそぼう！」

～「感じる・考える」ことを「見える化」するために～

神奈川県(川崎) 川崎市立西御幸小学校 高野 国嘉

◆題材の概要

子どもたちは、材料や技法に出あうといろいろなことを感じます。さらに「こうしてみよう!」「こうしてみたらどうだろう」と考えていきます。そしてまた感じ、考えていく。一人一人の頭の中で感じることを、考えることを無限に繰り返し、自己決定を繰り返しながら造形活動を繰り返していくのです。

今回は、この子どもたちの感じる・考える場面を「見える化」してみようと授業に『いいね!』方式を導入してみました。子ども一人一人が、自分のよさや相手のよさに気がつき、その子らしいよりよい表現に生かしていく支援となるよう実践してみました。

また、川崎市の図工研・造形遊び部会では、造形遊びの普及を図ろうと「お手軽×カンタン評価」をサブテーマに取り組んでいます。参観者の方にとって、気軽にできる造形遊びの一助となれば嬉しいです。

◆題材について

・題材名「あしあとカードであそぼう!」

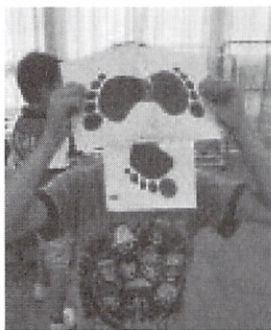
・目標

あしあとカードを使って並べ方や置き方を工夫してできる活動を楽しむ。

・実践

この題材では、反故紙に印刷した「あしあとカード」を並べたり、貼ったりして、組み合わせのおもしろさ、場所とのかかわりを楽しんでいます。

授業では、図工室や家庭科室に所狭しとカードを並べて、「透明人間のあしあとができたよ」とか「あしあとカードのお面」とかいうように自分らしい表現を楽しんでいました。



また、「いいね!」方式を導入し、友だちとの関わりの中で、思いをふくらましていく姿が顕著に見られました。一人で黙々と活動する子のアイデアを「いいね!」といって自分の表現に生かしたり、近くの友だちのひらめきを一緒に形にしたり、互いに影響を受けていることがよくわかる実践になりました。

できあがったあし

あとの道をみんなで歩いたり、友だちの表現を見て「どういう意味なの?」と興味を持ったり、自然と鑑賞のような活動

が始まっていました。活動中から片付けまで夢中になれる題材となりました。



◆成果と課題

○成果

造形遊びでは、「人とかかわり」が、大切な要素であることが分かりました。そのかわりの中で、子どもたち自身が「自分のよさ」「友だちのよさ」に気がつくことで、表現が広がっていくことを実感しました。

また、「いいね!」というキーワードを使うことで、自分や友だちのよりよい「感じ方・考え方」に気づき、認めることで、その子らしいよりよい表現活動につながっていくことと考えています。

○課題

今回の「いいね!」方式の手立ては、自分がクラス担任ではないこともあり、本題材でのみ実践しました。そのため検証が不十分な提案になってしまいました。今後、造形遊び部会で実証していきたいと考えています。

「なかよしぬ～の」

東京都 台東区立金竜小学校 中島 綾子

◆題材の概要

本授業は、昨年度の東京都図画工作研究大会で、「ここからはじまる～子どもの未来をひらく図工～」のテーマのもとに行われた授業である。

このテーマにある「ここ」とは、「今ここで子供がそれぞれの思考を働かせ、活動できる場」を示している。そして、教師が「ここ」の視点を大切にもちながら授業をつくることで、子供たちが様々なものに出会い、考えながら、新しい価値をつくり上げていく過程を経験することができるのである。

本題材は、その中でも造形活動での人との「かかわり」をテーマとして行った実践である。1年生の体の何倍もの大きさの布と出会うこと、友達と一緒に活動することなどの設定を通して、子供が自らの感じ方や考え方を生かすとともに、かかわりを通して自分の思いをさらに発展させながら活動することをねらった授業である。子供の身体感覚を存分に働かせるこの活動は、本大会の校種別テーマにもある「やりたい！やってみたい！」という気持ちにも繋がると考える。

◆題材について

・題材名「なかよしぬ～の」

・目標

○体全体を働かせながら、自分の感覚や気持ちを生かして、楽しく活動する。

○自分が感じたことや思い付いたことをもとに、友達とかかわり合うよさを知る。

・実践

①布（ぬ～の）に出会い、その感触を味わう。

〈児童の反応〉

「ぬ～のってやわらかくて気持ちいいね。」

②ベアになって布を広げる、巻く、ねじる、包むなど操作し、様々な変化できることを知る。

③布を使ってやってみたいことを考えながら活動する。

〈児童の反応〉

「たくさんぬ～のが暖かいよ。」

「友達をぐるぐる巻いてみよう。」

④友達と大きな布を運んだり、かけたり、変化させたりして思い付いたことをやってみる。

〈児童の反応〉

「テントができたよ。もぐってみよう。」

「お姫様のいすができたよ。」

⑤集まってそれぞれの活動を伝え合う。

◆成果と課題

初めは一人で活動している児童もいたが、大きな布を扱う行為に留まらず、次第に友達と思いを伝え合いながら、やってみたいことを試していく活動へと広がっていった。友達とかかわる中で、いつも大人しい子も広い場の設定や友達の活動を見ながら、やりたいことをのびのび表現していた。

子供たちは遊びながら全身で材料と戯れ、そばにいる友達と一緒に互いにその喜びを共有し合っていた。

造形活動での「かかわり」は、互いの意見を擦り合わせながらつくりあげることであり、その過程では一人では得られない様々な感情や思考をもつことになる。それは、時にもどかしさだったり、個々の力が集まってできる大きな力を感じることもだったりするであろう。造形活動での人と人のかかわりが個々にどのような変化をもたらし、どのような学びに繋がっていくのか。造形活動だからこそできるかかわりや、そこにある学びを今後も探っていきたい。

子どもたちの感性に働きかける造形遊び

～おおきなかみでわっくわく～

神奈川県(相模原) 相模原市立富士見小学校 上村 尚子

◆題材の概要

主題や内容があらかじめ決められていない造形遊びでは、活動を楽しむことはもちろんであるが、この活動を通して育みたい力をより明確に持つことが重要であると考え。題材や素材の特性から思いやひらめきを持ち、「やってみたい」と思う主体性。自分の思いを深め、「こんなふうにしてみよう!」と新たに生まれる発想や構想。また友だち相互の関わり合いの中で生まれる「こんなこともしてみたいな」などの、活動の広がり。そんな子どもたちの姿が見られる授業づくりのために、学びの見取りや指導の具体的手だての工夫などを提案する。

◆題材について

・題材名「おおきなかみでわっくわく」

・目標

関意態／全紙大の大きな薄葉紙に関心を持ち、感触を体全体で楽しみながら、造形的な活動を楽しもうとしている。

発 構／薄葉紙の触り心地や大きさ、形の変化などから、いろいろな活動を思いついている。

創 技／体全体を使って活動し、薄葉紙の使い方を工夫している。

鑑 賞／自他の活動のよさやおもしろさ、薄葉紙の感じなどに気付いたりしている。

・実践

①特性のある題材の研究

薄葉紙は多彩な表現方法が考えられる素材である。形を変えたり、組み合わせを楽しんだり、また、手で柔らかさを感じて、目で透け感を楽しみ、肌でまとった温かさを感じると、様々な感覚を使うことができる。十分な活動時間を確保し、子どもたちに心ゆくまで素材の特性を味わわせることにより、感性が働き、つくりたい意欲に繋がると考えた。

②多様な表現活動の場作り

多彩な表現方法が考えられる薄葉紙である。様々な表現方法の楽しさを味わわせたい。また体全体を大きく使った活動もできる。まずダイナミックな造形活動を楽しめるように、薄葉紙を十分に用意した。そして机などを取り払い広い空間で体全体を用いて表現活動ができるなど、場の設定を工夫した。

多彩な表現方法を試していくことで、その子なりのこだわりを持つようになる。様々な取り組みの中から、子ども自身が自信を持って表現し、価値づけられるような活動をめざした。

③自他共に認め合える支援

表現方法やテーマが多岐にわたるため、児童一人ひとりの思いやこだわりも多岐にわたる。友だち同士で互いに見合い、それぞれの良さを認め、活動を深めていけるように、自由に関わり合いながら活動ができるよう意識した。

◆成果と課題

○成果

- ・素材や場所の特性を十分に味わうことで、子どもたちの感性により働きかけることができた。
- ・導入の違いにより、様々な展開が広がった。
- ・素材の多様性を把握し様々な表現方法による活動をするにより、子どもの創作に広がりを持たせることができた。
- ・文章記述だけではなく実際にかかわり合うことで、互いの感性に働きかける鑑賞活動ができた。

○課題

- ・素材と場の相乗効果を考えた授業展開の工夫
- ・子どもたちの思いを十分に見取り振り返るための手だて

いつもの場所が大変身！ ～自己決定力を引き出す造形活動の工夫～

茨城県 水戸市立吉田小学校 櫻村 香奈子

◆題材の概要

本校は、「吉田の森」と呼ばれる学校林や芝で覆われた築山「冒険山」があり、自然豊かな学校である。児童は、校庭や遊具で遊ぶ他に、虫捕りや自然に親しむ遊びをして愛着をもっている。本題材では、身近にある材料で見慣れた場所に、自分の思いのままに働きかけたり、その様子を楽しんだりすることをねらいとした。学校の特性を生かし、活動場所を校舎の中から外へとつながる計画を立てた。

◆題材について

・題材名「いつもの場所で」3年

・目標

集めた材料で、見慣れた校内の場所に働きかけて、場所の様子を変化させたり、変化した様子を楽しんだりする。

・実践

(1) 新聞紙で空中廊下を変身させよう。

教師が場所と材料を設定した活動である。身近な扱いやすい材料として新聞紙を使用した。児童は、つなげたり、丸めたり、思いつくままに伸び伸びと造形活動を楽しんだ。身近な空中廊下が変身した様子を見て、「もっと広い所でもやりたいな」という声が児童から上がった。

(2) PEテープで〇〇を変身させよう。

児童が場所を選択し、教師が材料を設定した活動である。屋外での造形遊びに適している材料を教師が選択し、PEテープに決定した。遊具や冒険山をPEテープで結んだり、飾ったり、ダイナミックな造形活動を楽しんだ。テープが風に靡いたり音が鳴ったりして、児童は、五感を使って充実した活動ができた。

(3) 学校林を〇〇〇で変身させよう。

教師が場所を設定し、児童が材料を選択する活動である。「秘密基地を作りたい」「リボンを飾りたい」という思いを膨らませ、自ら材料を見つけて集めた。材料の特性を生かし様々な表現方法をとることで、自己決定の場となった。学校林の変身後、「材料を捨てたくない」「もったいない」という声上がり、材料の再利用をして、マスコット作りをすることになった。

(4) 学校林のマスコットを作ろう。

児童が場所と材料を選択する活動である。マスコットが完成すると、児童は、出来上がったマスコットになりきって、話し始めた。そこで、吹きだしや名札をつけ、各自が気に入った場所に飾った。完成後、他の学年の児童を招待した。

◆成果と課題

○成果

様々な活動を通して、児童は作りたいものの発想や視野が広がり、「創りたい」という意欲も、どんどん膨らんでいった。児童は、思いついたことを自由に表現し創造的な技能を働かせることができた。段階的な活動で、一人一人が様々な場所や材料を選択する活動を通して、自己決定のよさや、思いを交流する喜びを味わうことができた。風・光・音など自然の美しさを体全体で感じ、楽しむことができた。

○課題

屋外での活動は、時間内で撤去しなければならなかったり、天候に左右されたりするため、実施時期の選択が難しい。今回の成果を踏まえ、学校全体で造形遊びを位置づけ、どの学年も経験できるように計画を見直していきたい。また、図工室を使って普段から材料集めをする工夫が必要である。

〇〇を変身させよう

〇〇を変身させよう

「幻の国『テラーオ』に伝わる伝説」

～自分が表したいものを見付ける楽しさを実感できる授業をめざして～

神奈川県（横浜）

横浜市立西寺尾小学校 宮本 英彦

◆題材の概要

本題材では、子ども達はクレヨンやパスを使ってテラモスという想像の生き物を描く。さらに自分が想像したテラモスから発想を広げ、絵の具を使うとともに、スパッタリングなどの技法を使って、テラモスが住む世界であるテラーオを描く。

A表現（2）テーマの「みつける」ことを大切に題材の展開を考えた。活動の始めに子どもが豊かな発想を広げ、表したいことを見付けることができるように、教師が考えた「西寺尾をテーマにした想像の世界の物語」の読み聞かせをする。その後、イメージを伝え合う場を設定した。このような指導を通して、表現への意欲が高まったり、発想や構想が広がったりすると考えた。

テラモスの特徴から住む世界を考えることで、絵の具の色や線、これまでに学習したスパッタリングなどの技法をどのように活用していくかなど、子どもの発想や構想が広がり、自分なりに工夫して活動できると考えた。

◆題材について

・題材名

「幻の国『テラーオ』に伝わる伝説」～テラーオの伝説から、テラモスの住む世界を表そう～

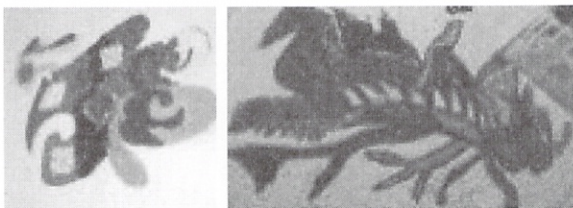
・目標

- 自分の「テラーオ」、「テラモス」を想像し、水彩絵の具や技法を使って描くことを楽しむようにする。
- 自分の「テラモス」から、「テラーオ」の世界を想像し、表し方を考え、工夫して表すようにする。
- 自分や友達の表現のよさを味わい、それぞれの表現のよさを認め合うようにする。

・実践

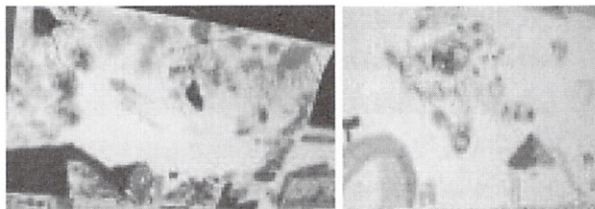
物語を聞いて、自分だけの「テラモス」を描く。

- ・物語の様子やテラモスについて話し合い、自分のイメージをもった。
- ・イメージを基に、テラモスをクレヨンやパスを使って描いた。



自分だけの「テラモス」から「テラーオ」の世界を想像し、描く。

- ・テラモスの特徴から、テラモスの住む世界を想像して描いた。



作品を鑑賞し合い、表現のよさを認め合う。

- ・作品のおもしろさや表現のよさを味わった。

◆成果と課題

○成果

物語があることで、表したいことを見付けることができた子どもが多くいた。そのため、形や色、表し方などにこだわりをもち、積極的に表現できた子がいた。

○課題

表したいことは見付けることができていたが、表し方を工夫して表現することができなかった子どもがいた。

太陽の光できらきらできたよ私たちの海の生き物 ～素材の特徴やよさに気付き、思いのままに活動できる授業をめざして～

栃木県 宇都宮市立五代小学校 川村 貴臣

◆題材の概要

本題材では、透明容器の多様な形の特徴を生かし組み合わせることで生き物をつくり、容器の中に色や形を工夫したカラーセロファン等を詰めて、色の重なりや光を当てた時の面白さに気付くことで発展していけるようにした。「光り輝く海にいる生き物」をつくる設定のもと、導入時に参考作品に太陽の光を当てて見せ、透明容器やカラーセロファン等の素材の特徴やよさに気付かせることで、子ども達が容器や材料等の特徴を生かしながら自由な発想をふくらませて思いのままに活動できるようにした。

◆題材について

・題材名

「ひかりかがやくうみのなかまたち」

・目標

- ①透明素材の光を通す特徴や、その際に光る材質の面白さを楽しみながら、海の生き物をつくろうとしている。関意態
- ②透明容器の形の特徴を生かして組み合わせ、自分がつくる海の生き物を想像したり、自分の気に入った色の組み合わせや表し方を考えたりすることができる。発構
- ③透明容器を組み合わせることで生き物の形をつくったり、自分のイメージに合わせてカラーセロファンなどの透明素材を工夫しながら付け加えたりして表現することができる。創技
- ④一人ひとりの自由な見方をもとに、互いの作品を友達と対話しながら楽しく見ることができる。

鑑賞

・実践

導入で参考作品を見合う活動を取り入れこの生き物はどんなところに住んでいるのか、どんな能力があるのかなどについて参考作品の色や形から、海の生き物のストーリーを想像しながらじっくりと見た。一人ひとりの自由な見方をもとに対話しながら楽しく見ることができるようにしたことで、同じ一つの作品でも多様な見方があることに気付かせることができた。この時点で子ども達は早く自分の生き物をつくりたくて仕方がないといった様子であった。教室の一角に『ひかりかくにんコーナー』を設置したことで、子ども達は製作中に何度も透明容器の中に入れたカラーセロファンの透過光の美しさを確認していた。確認する中で「あ、セロファンを詰めすぎるときれいに透けない。」等の作品と光の関係に気付き、その情報を子ども達の中で共有しながら互いの作品を高め合っていた。

◆成果と課題

○成果

導入時に参考作品を、一人ひとりの自由な見方をもとに対話しながら見合ったことで、これからつくろうとしている生き物への思いを高めることができた。

『ひかりかくにんコーナー』を設置したことで、そこで子どもが気付いたことを、他の子ども達も共有することができた。友達の気付きを刺激として子ども達の「つくりたい！つくってみたい！」という思いや技能を高めることができた。

○課題

海の生き物に太陽光を直接通した透過光の美しさを確認させたが、太陽の光がまぶしすぎて、見すぎると子ども達の目を傷める恐れがあると思われた。太陽光を直接ではなく、反射光を利用して確認させる等の光量調節の工夫が必要であった。

線を集めて・・・自分だけの建物をつくろう

つくり出す喜びを実感できる授業をめざして～その子らしいよりよい表現につながる手だて～

神奈川県(川崎) 川崎市立宿河原小学校 石川 裕貴

◆題材の概要

本題材では、一本の線では立体にはならないが、線の組み合わせを考えて集めていくことで立体が構成されていくことに着目した。建築物のモデルにおいても、骨組を線材で表すことで、構造がわかるようになっている。また、建築物の柱は、その建築物がバランスをとったり強度を考えたりする上で、重要な働きをしている。

授業を構想する上で、まずは様々な線材を集めた。その中から軽くて切断しやすく、ある程度の強度のあるバルサ材をメインの線材として選んだ。子どもにとってなじみのある竹ひごや麻ひも、紙ひもも線材として用意した。子どもがこれらの線材の強度や曲がりやすさなどをとらえた上で、柱やその他の部分を試行錯誤できるようにした。

まず、建築物のモデルの写真や参考作品を見て、線だけで構成された立体の美しさを感じ取る。次に十分に線材をさわる時間をとる。そこからイメージを広げ考えながら立体に表す題材である。

◆題材について

・題材名

線を集めて・・・自分だけの建物をつくろう

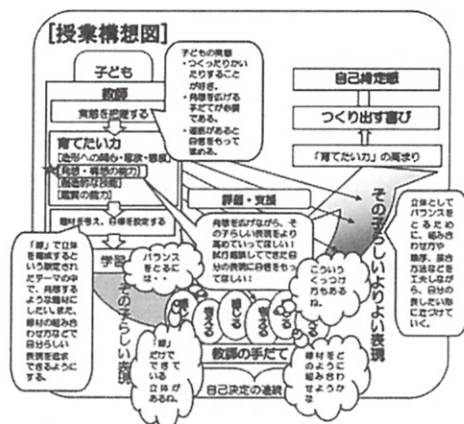
・目標

(6時間扱い)

線が集まると立体になることに気づき、線材の組み合わせ方やつなぎ方を試しながら、自分が美しいと思う立体に表す。

・実践

「つくりだす喜び」を実感できるようにするために、「やりたい! やってみたい!」と子どもが意欲をもって主体的に活動し、試行錯誤しながら自分の思いを実現できるようにすることを心がけた。そして「つくりだす喜び」を支える力であり、育てたい力(評価規準)である 造形への関心・意欲・態度 発想や構想の能力創造的な技能 鑑賞の能力 において、子どもが自己決定していくことを大切に位置づけ、それぞれの力において、主体的に活動できるようにした。また、子どもは「自分で感じ」、「自分で考える」ことを通して自己決定していくととらえ、この「感じる」「考える」ことを大切に、手だてをうった。そうすることで、子どもが主体的に活動することを通して、その子がすでにもっている力をより深く、より豊かに質を高めながら発揮し、「その子らしい表現」を「その子らしいよりよい表現」に高めていけるよう、授業を構想した。また、適切な場面育てたい力が高まっているかをみとり、「つくりだす喜び」へとつながらながら、自己肯定感を高めていけるようにし、その自己肯定感の高まりから、子どもがさらによりよい表現を求めていけるようにした。→[授業構想図]



【活動の流れ】

▼これらの立体の共通点は何だろう？(45分)

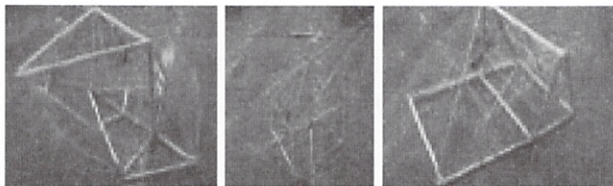
- 線で構成された建築物のモデルの写真を見て話し合い、イメージをふくらませる。
- 教師が用意した線材の感じを確かめ、それぞれの特徴について知る。
- 身近なところで線が集まって立体になっているものについて考える。

▼線を集めて、自分だけの建物をつくろう(180分)

○線材の切断の仕方、接合の方法などを知り、つくりたい建物のイメージをもつ○立体になるように、線材の組み合わせ方や接合の仕方などを工夫し、組み合わせる順序を考えながらつくる。

▼つくった建物を集めてみよう(45分)

- 自分の建物への思いをグループで語る。
- 友達作品について考えたこと、感じたことをグループで伝えあう。
- 全員の作品を集め、感じたことを話しあう。
- 鑑賞して感じたことをカードに書く。



◆成果と課題

・成果

線で立体をつくっていくというテーマの中で、子どもが発想をふくらませ、自分のイメージに合わせて技法を選びながら自分らしいよりよい表現を求めていくことができたと思う。

・課題

「感じる」ことができるような手だてについては、もう少し工夫が必要であった。

自分の思いを持って、豊かに表現できる児童の育成

～題材の開発と対話を通して～

千葉県 山武市立大富小学校 古谷 智爾

◆実践の概要

平成27年11月、山武市立大富小学校、同市立成東中学校を会場に第66回千葉県教育研究会造形教育部会研究発表大会が開催された。

大会に向け、本校では前年度から図画工作科、中でも造形教育の分野での研究を開始した。そして、児童の関心や意欲に対する実態を考慮しながら、研究テーマを「自分の思いを持って、豊かに表現できる児童の育成～題材の開発と対話を通して～」とし、理論研究と実技研修及び授業検証を平行させながら行ってきた。また、本大会が「素材」「自身の内側」「友達(仲間)」「創作物(美)」とのそれぞれの「対話」を中心とした4つの柱を基調としていたため、まず、教師サイドから題材を開発し、学習環境を視点としたアプローチから「児童の思い」を引き出す手法を検討した。続いて、自他との関わりの中から「対話」を促し、自分の思いを豊かに表現するためのプロセスを明確にした。この二つの視点をもって仮説を立てつつ、テーマに向かった授業デザインの検討と、その指導方法の工夫と改善に取り組んだ。

◆題材の内容

1. 題材名

「アートであってと言わせよう!!」(第6学年)

2. 実践

本学級の児童は、1学期にペットボトルを積んだり重ねたりして、自分の思いやイメージを表現する活動を行っている。しかし、これまでに造形遊びとして、集団で紙などの平面に表す活動については経験がない。また、絵に表す活動の様子を見てみると、自分の思い描いたものを表現できる児童もいるが、なかなか自分の思いを表現できない児童もいる。このような実態から、題材の開発においては、作品を仕上げるよりも描画技術に頼らなくても自分の思いやイメージを表現することができる「アクションペインティング」を取り入れることにした。ダイナミックな表現活動を展開するために、場所は体育館を選んだ。また、1テーマごとに、約90㎡の模造紙と7色の大量の絵の具を用意した。用具としては、児童が普段使っている筆に加え、刷毛、霧吹きやほうきなどを準備した。さらに手や足などにも絵の具をつけて描いてよいことを知らせることにより、絵の具の感触や色を楽しみながら、児童の自由な表現を引き出せるようにした。

本題材は、まず「アクションペインティング」という描画方法についてDVDを活用し、「表現の仕方」「使うも

の」「失敗はない」ということを伝えた。活動場所や用紙の大きさについても知らせ、表現したい「イメージ」については、みんなで話し合い、4つに絞っていった。つぎに、そのイメージをどのような方法・色・道具で表現するかを話し合わせた。刷毛を使った「ドローイング」や霧吹きを使った「スプラッターリング」などの技法、さらに、手や足など全身を使って描くことによってできる形などにも気づかせ、児童のより自由でダイナミックな表現を引き出すことにした。実際の活動では、自由に道具や体を使い、いろいろな表現方法を試しながら楽しむ様子が見られた。さらに豊かな発想を広げるために、途中で子どもたちを集めて、振り返る時間を設けた。その際、設定したテーマに、あと、どのような色や表現が必要かを考え出させた。このことにより、テーマに迫るイメージの共有化が図れた。自分の思いを表現できなかった児童も安心して表現することができた。まとめの段階では、2階ギャラリーに上がり、作品全体を見渡せるようにした。イメージに合った表現方法や色の重なりやすさや美しさなどに気付くことができ、自然に子ども達同士の対話が生まれた。

◆成果と課題

○成果

広い場所で、大きな紙、様々な用具でアクションペインティングを行ったことで、児童の自由な発想が生まれ、ダイナミックな表現活動ができた。

全体でテーマに対するイメージを話し合わせたことで、「何色を」「どのように」表現するののかをつかむことができ、活動にスムーズに入ることができた。

展開時の途中で、全員でイメージの共有化を図ったことで、よりよい表現につなげることができた。

まとめの段階で、全員で鑑賞する時間を設けたことで、子ども同士の対話が生まれ、自分の活動を振り返り、テーマごとの表現の違いに気付くことができた。

○課題

今回は集団での活動であったため、個のイメージや思いが十分に生かされなかった。個のイメージを全体にどのように生かしていくか検討する必要がある。本題材では、ダイナミックな活動を展開することができたが、規模を縮小して、より取り組みやすくしていく方法を考えていきたい。

「おって おって おって ちょき ちょき ちょき ぱ！」

～形や色に関心をもち、つくり続ける意欲が高まる授業をめざして～

神奈川県(横浜) 横浜市中丸小学校 朝野 様子

◆題材の概要

本題材は、1年生での初めてはさみをつかった学習である。身近な折り紙を使って、2～3回折ったものを切り、開くともいらない形になっていることを楽しむ題材である。はさみやのりといった基本的な用具の扱いをしっかりと指導し、さらには友達のつくりつつあるものに関心をもち、見たり聞いたりしながら、形や色に対する感覚を育てていきたい。

小学校のテーマ「みつける」ことを大切にし、活動しながら視点を与えることによって、形や色に対する自分の好きな感じを「みつける」ことができるようにした。

◆題材の概要

・題材名

「おって おって ちょき ちょき ぱっ！」
～おって きって ひらいて つなげて
たのしいかざりをつくらう～

・目標

関意態／紙を折ったり、切ったり、つなげたりして楽しくつくろうとしている。

発 構／好きな色や表したいことに合わせて折り紙を選んだり、紙を折ってできた形からどんな切り方をしたらいいか考えたりしている。

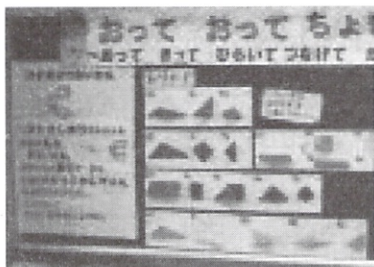
創 技／折り紙の折り方や、はさみの入れ方を考えて工夫して表している。

鑑 賞／折って切ってできた形の面白さを感じ、つなげながら形や色の組み合わせを楽しく見ている。

・実践

1/3時 おりがみをおってきってみよう

はさみの使い方を確認し実際に折って開いて見せた。折り紙の手本を掲示物で示した。



1.5/3時 きったらはってどんどんつなげてみよう

のりの使い方を確認し、つなげる活動の仕方を実際に示した。



みてみてタイム①

面白い切り方をしている子を取り上げて、見たり、教えてもらったりする時間を設けた。



みてみてタイム②

重ねている子を取り上げ、どこに置いたらきれいかみんなで考える時間を設けた。



0.5/3時 みんなでみてみよう

できたものを教室につるして、見たり指で指し示したりできるようにした。



◆成果と課題

○成果

- ・はさみや、のりなど、基本的な用具を使う能力が身に付いた。
- ・形や色の美しさ、組み合わせたときの面白さを十分に感じる事ができた。
- ・友達の活動に目を向けて、見たり、聞いたりして、自分の活動に生かす事ができた。
- ・やり続けたことによる達成感を味わう事ができた。

○課題

- ・机を長くできる広さと机の数が必要。クラスの人数によっては難しい。
- ・切れてしまったものを失敗と思う児童がいたが、「それも大切な飾りだよ」と声掛けが必要。

「『2の1 どうぶつランド』をつくろう」

～みつけた!!ここだけにしかないどうぶつ～

埼玉県 美里町立東児玉小学校 小林 玲子

◆題材の概要

本題材では児童が、まず牛乳パックでいろいろな形をつくって楽しんだ後、「若冲」の「樹花鳥獣図屏風」の鑑賞を行った。さらに、牛乳パックでつくった形がどんな動物に見えるか光に当てて影をつくったり、様々な場所に置いて動かしてみたりして、イメージを広げた。児童は表現と鑑賞を行き来することで、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わい、「ここだけにしかないどうぶつ」をつくった。最後に、教室に設置した「どうぶつランド」に児童が自分の作品を飾り、色と形を楽しみながら表現の喜びを体験した。

◆題材について

・題材名

「2の1 どうぶつランド」をつくろう

～みつけた!!ここだけにしかないどうぶつ～

・目標

形や色をとらえる活動で、自分のイメージをもつとともに、さらに、鑑賞活動を通してイメージを広げ、自分なりのどうぶつランドに表す。

・評価規準

○いろいろな材料を切り開いたり、つなげたりして形を変えていく活動を楽しもうとしている。関意態

○自由に切り開いた牛乳パックは、どのような形に見えるのか、ちがう材料をつけたすと、どのように変身できるか考えている。発構

○牛乳パックで様々な切り方、ひねり方、つなげ方を試し、そこから自分のイメージする新しい形に工夫して表している。創技

○つくったものを見たり、動かしたり、飾ったりしながら、自分や友だちの表現のよさを味わっている。

鑑賞

・実践

【第1次、第2次】牛乳パックを切ったり、ひねったり、ホチキスでつなげたりして、形を様々なに変化させた。

児童が手や体を十分にはたらかせる活動を通して、素材からイメージを広げることができるようにした。

【第3次】感性を刺激し、創造性を高めるために「若冲」の「樹花鳥獣図屏風」の鑑賞を行った。

【第4次】第1次、第2次で様々なに変化させた形がどんな動物に見えるかをイメージさせるため、影絵に映し出したり、様々な場所に置いてみたりした。

【第5次、第6次】自分のイメージを持ちながら、新しい形にチェンジ+アップした。

【第7次】できあがった動物を思い思いの「どうぶつランド」に配置して鑑賞した。

◆成果と課題

○成果

造形遊びを作品づくりに取り入れることで、児童は、様々な切り方、折り方、つなげ方を知ることができた。鑑賞の学習を取り入れることで、自由なイメージをもつよさを感じ、自ら表現する際、「動物園にいないような鳥をつくってもいいんだよね。」という児童の声が聞かれた。また、影絵で映してみたり、実際に作品を動かしてみたりしたことで、クラス全員が、切り開いただけの牛乳パックを、動物としてイメージでき、その後の作品づくりに生かすことができた。そのため、作品の仕上げを行う際は、土台の素材と、飾り付け用の新しい素材を組み合わせ、ここだけにしかない自分だけの動物が表現できていた。

○課題

児童は、作品をチェンジ+アップする際、つい新しい箱や素材に関心が移ってしまい土台が置き去りになってしまう様子も見られた。今後は、元々のイメージを大切にしながら、表現をもっと深められるよう指導の工夫を行いたい。

自分の思いを表現できる子に ～つくりだす喜びを味わわせるための指導の工夫～

神奈川県（川東） 綾瀬市立寺尾小学校 塙 亜矢子

◆題材の概要

綾瀬市には、小学校が10校あり、そのほとんどが1年生から絵の具の指導を行なっている。

他の地域では、おそらく3年生位から、絵の具の指導を開始していると思うが、本市では、早くから絵の具という画材や絵筆という道具と出会わせ、それらを表現の方法を広げる一つのツールとして指導を進めている。

1年生という児童の発達段階で、絵の具の濃さを水で調整すること、絵筆の毛先を上手に操って、描きたいものをうまく表現することは、発達段階的に、手先の器用さや経験値に個々の児童の差が出やすいことから指導に難しさがあることは否めない。また、道具の準備・片付けも簡単にできるものではなく、児童によっては、これもまた難しさを感じる活動である。しかし、体験を重ねることで、道具の扱いに慣れてくることは、これまでの指導の様子から分かっているので、1年生では、あえて、前述の課題を克服しながら、表現を広げるツールとしての“絵の具”の指導を積極的行なっているというのが現状である。また、学年が上がってから絵の具を指導すると、出来栄えにこだわり、“絵の具で描く”のではなく、“絵の具で色を塗る”という傾向になりがちで、大胆に表したいものを絵の具で表現することが難しい様子も見受けられ、絵の表現が硬く、小さくまとまったり、面白みに欠けてしまったりということもよく見られる。

以上のことから、早くから絵の具を思いのままに使いこなす、表現のツールとして取り入れることは、児童の思いをより表現する方法を増やし、児童の表したい思いを引き出すのに有効であると考え。思いを表現するために、実物を見る、触る、味わうという感覚による体験、コラージュ、立体という表現方法、表現するための

道具（画材等）様々に取り入れることで、児童が思ったことを素直に楽しみながらどんどん表してみたいと思う意欲を持たせられるように指導の手立てや創作活動を工夫した。

◆題材について

・題材名

「どろっぶをかこう」

「おはなしのえ」

「おおきなかみで わっくわく」他

・目標

表したい思いを引き出すための工夫

・実践

体験活動、絵の具の実践、題材との出会いを魅力的なものにするために、語り聞かせ、アイディアスケッチやコラージュ、造形あそび、他

◆成果と課題

○成果

- ・表したいことが見つけられない児童が減った。
- ・試行錯誤や、発想の広がりが見られた。
- ・低学年のうちから、様々な表現の方法に触れさせる大切さがわかった。

○課題

- ・自ら題材を探す、表すための技能の習得
- ・思うように表せない児童への支援や手立て
- ・様々な創作活動での表現方法の幅を広げる指

「目を開けると…私の心から広がる世界」

～一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくるか～

山梨県 甲州市立勝沼小学校 古屋 ゆか

◆題材の概要

小学校生活も後1年となった6年生。最上級生として頑張っているが、まだまだ幼さも残る。想像の世界に遊んだり、将来を夢見たり、友だちや家族との関わりに悩んだり…と、児童の心の中にある様々な気持ちから出発して想像を広げ、絵に表した。〈一人ひとりの力を引き出す授業のために〉

①題材について

- ・「やってみよう」という興味を持ち、その興味を持続できる題材や題材名であること。
- ・自分らしさを発揮できるような題材であること。
- ・試行錯誤し、工夫しながら表現できる題材であること。

②授業について

- ・図工の授業が楽しみになるような、児童と題材の出会いになること。
- ・自分なりの表現を楽しめるような材料や用具についての提案があること。
- ・作品を通して友だちとの関わりをもてるような鑑賞の時間を行うこと。

◆題材について

・題材名

目を開けると…私の心から広がる世界

・目標

心の中で思い浮かべたことから想像を広げ、表し方を工夫して絵に表す。

関意態／心の中から広がる世界を想像し、絵に表すことに取り組もうとしている。

発 構／形や色を意識し、表し方を考えている。

創 技／自分が表したい世界に合わせて、画面の構成や表し方を工夫している。

鑑 賞／作品について話しながら、友だちや自分の想像した世界のよさや美しさについて感じ取っている。

・実践

〈活動の流れ〉

- ①目を閉じて、自分の心の中を見つめよう。
- ②見つけた気持ちから想像を広げよう。
- ③想像した世界を文章で説明するのではなく、動きや擬態語などで友だちに伝えよう。
- ④想像した世界を絵で表すために、表し方や必要な材料・用具を考えよう。
- ⑤実際に手を動かしながら、工夫して絵に表そう。
- ⑥作品を見ながら、友だちと話し合おう。

◆成果と課題

○成果

これまで図工で作品づくりとなると、やりたいことは決まっても、自分の考えていることを人前に出すことに自信がなく、実際に手を動かし始めるまでに、時間がかかる児童がいた。今回の実践では、“自分の心の中”から想像を広げて自由に表現するため、やってみようという気持ちが強く、すぐに活動し始めることができた。製作中は自分の世界を表現するために、これまで経験したことを生かして試行錯誤し、楽しみながら表現することができていた。鑑賞の時間では、友だち同士作品を見せ合い、自由に話し合うことで、かいた絵から友だちのよさを発見することができた。

○課題

児童にとっては自分の思いを、自分なりに楽しく表現できた題材だったが、一方で材料や技法の経験という点で課題が残った。児童が表現したかった世界を形にするために、新たな材料や技法などを教師から提案したり、準備をしたりしておくことで、もっと児童の選択の幅を広げることができたのではないかと。

「縄の変身！3組動物ランド」

～豊かに感じ取る力を育てる造形活動を目指して～

神奈川県（川西）

泰野市立南が丘小学校 徳田 美昭

◆題材の概要

本題材は、縄を主材料とする。多くの子どもたちは日常で縄に触れる機会もほとんどなく、縄の手触りやにおい、縄を組み合わせた形などにも初めて出会う。新しい材料と出会うことにより子どもたちは興味・関心を持ち、どのように作ろうか期待や思いが膨らんでいくと考える。縄だけでは立体にするのが難しいものに、針金を巻くことによって、自分の思い描いた動きに自由に行うことができる。また、自由に想像を膨らませ、立体として表現することで、縄の特性を生かした作品づくりを行うことができると考えた。また、縄は、丸くする、ねじる、むすぶなど、様々な形に変えることができるため、子どもたちの発想を広げる力を育むことになる。

◆題材について

・題材名「縄の変身！3組動物ランド」

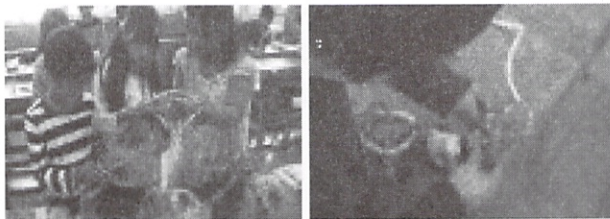
・目標

集めた材料の形を生かして組み合わせ、楽しい形になるよう立体的に表す。

縄の特長を生かし、考えたことを立体的に表す。

・実践

中学年ということで、頭で思い浮かべたことがすぐ形にできるということに重点を置いた。縄にソフト針金を巻きつけたものは柔軟な動きができる。また、ほどこいたり組み換えたりすることが容易であるため、自由な発想を生かした活動として児童は、自分なりの作品をつくり上げた。



◆成果と課題

○成果

- ・ソフト針金で巻いた縄は、色々な形に変形でき、子どもが創造した形に変化させることができる。また、組み直すことやほどこくことが簡単なので題材として適切であった。
- ・縄を組む・立たせるということが初めてなので、組み方・立たせ方を先に確認し材料に慣れ親しむ時間をとることで活動中に発想に大いに生かすことができた。
- ・初めて出会う教材であったので、自然と子ども同士の関わり合いができた。また、発想を広げるための鑑賞（途中鑑賞）を行うことによって友だちの発想の良い所を生かし、自分の表現に取り入れようとする姿が多く見られた。

○課題

- ・組み方、特に立たせ方を悩んでいる児童がいた時には発想を広げるための鑑賞（途中鑑賞）と合わせて、書画カメラなどを使い、他の友だちの作品を確認するのも、児童にとっては見やすく有効であったのではないかな。
- ・発想を広げるための鑑賞（途中鑑賞）では、鑑賞のポイントを助言するだけではなく、よかったポイントを付箋で一言コメントするなど、意識化するなどの工夫が必要なのではないかな。
- ・縄のよさを一層生かしていくためにも、材料はより精選していく必要があるのではないかな。



「目に見えない〇〇を表す達人、モネ」

～美術館での鑑賞から生まれる児童の発想や構想～

新潟県

魚沼市立堀之内小学校

金澤 健志

◆題材の概要

「やりたい」「やってみたい」という気持ちを引き起こすきっかけの一つに「本物との出会い」がある。美術館での鑑賞活動は、児童に多くの刺激を与え、発想や構想を引き出す。「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展」（以下「モネ展」）を鑑賞し、そこで感じ、見つけたことを、思いのままに表そうとする意欲につなげるのが本実践である。

◆題材について

○題材名「目に見えない〇〇を表す達人、モネ」

第6学年「B鑑賞（1）」「A表現（2）」

○目標

独自の表現を追求したモネ。「モネ展」鑑賞を通して、表現の多様性や試行錯誤する楽しさを味わい、思いを表す自分なりの新たな方法に見通しをもつ。

○実践の概要

（1）美術館での「モネ展」鑑賞

新潟県立近代美術館で「モネ展」を鑑賞した。これまでに美術館を訪れた経験のない児童が、絵に吸い込まれるように見入っていた。霧を表す緻密さや、水面を表す大胆な筆跡に感嘆したり、年を取ったモネの画風の変化も敏感に感じ取ったりしていた。



写真1 ビオトープでのスケッチ

（2）友達との意見交流

鑑賞中にメモしたワークシートを基に、意見交流を行う。「よく見て描いていると思うもの」「想像で描いていると思うもの」等のテーマで話し合った。「モネは『一瞬』を表そうとした」等、モネが対象を鋭く観察していたことに着目した意見が多かった。

（3）ビオトープでスケッチ

鑑賞と意見交流に引き続き、自然を描くことをテーマにスケッチする。水面の反射やトンボの動き、風に揺れる草木を見付け、それらをよく観察して描いた。「自然の爽やかさ」や「命の大切さ」等の思いを表そうと、構図を工夫する姿も見られた。

◆成果と課題

○成果

児童のスケッチには、モネの緻密さや大胆さが表れていた。モネがそうしたように、自然をよく観察し、自分なりに表そうとしていた。鑑賞により、自然を見つめる視野と表現の幅が広がった。

○課題

美術館での鑑賞の楽しさを味わう経験を積ませたい。本物を鑑賞することが発想や構想に与える効果を認識し、美術館での鑑賞を推進していきたい。

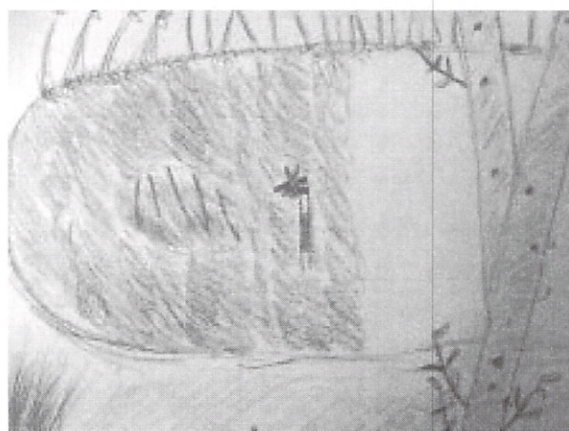


写真2 ビオトープで描いた児童作品

「おはなばたけ たんけんたい！」

～みんなでお花ばたけをつくって、お花のかたちやいろを見ることをたのしもう！～

神奈川県(横浜) 横浜国立大学第一小学校 落合 陽香

◆題材の概要

本題材は、身の回りのいろいろな花を鑑賞し、花の形や色の楽しさを感じるとともに、そこから発想して自分で考えた世界に一つだけの花の形や色を思いつき、パスで表す活動につなげていく。更に、その作品を自立するようにして、お花畑に仕立て、そこでお互いの作品を鑑賞する題材である。従って、一つの題材ではあるが、構成は三つの学習の主題によって成り立っている、鑑賞—表現—鑑賞のサンドイッチ型の題材である。

◆題材について

・題材名

おはなばたけ たんけんたい！

～みんなでお花ばたけをつくって、

お花のかたちやいろを見ることを楽しもう！～

・目標

- いろいろな花を鑑賞し、進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。
- 身の回りの花々の形や色から発想し、世界に一つだけの花を思いつくとともに、体全体の感覚や技能などを働かせてパスを用いて表すようにする。
- 身の回りの花やお互いに表した花を鑑賞しながら、面白さや楽しさを感じ取るようにする。

・実践

まず、生活科で育てた経験から愛着のあるアサガオやヒマワリの花を鑑賞する。生活科の中でも取り扱ったが、今回は特に花の形や色に注目して鑑賞する。あらかじめ写真で撮っておいた花の画像をTVの画面で見ることにより、より鮮明に色や形を見ることができる。

また、花の匂いや蜜の味などイメージを引き出す言葉を使っていく。自然の花の色や形の楽しさ、面白さを十

分に味わい、友だち同士感想を交流したあと、世界に一つだけの花を表す活動に展開する。花を鑑賞してもった自分のイメージを基に、パスを使ってのびのびと表現活動を楽しめるようにしたい。そして、完成した作品を自立させ、並べて花畑のように展示することで、その場がまるで花畑の中にいるかのように感じながら、作品と自分が一体となって鑑賞することができるようにする。その鑑賞活動の中で、子どもたちが自由に言語活動を展開できるように工夫をする。最後に簡単な記述をするカードを作成し、評価資料の一部とする。



◆成果と課題

○成果

自分が虫になって探検する鑑賞活動では、生活科の観察とは違って、花そのものの色の美しさや形の面白さを感じたり、においや味などイメージをふくらませたりしながら見ることができた。身近な花を鑑賞し、形や色の面白さを感じたりイメージを広げたりしたことから、パスで表す活動の際、のびのびと夢中になって描く姿が見られた。

○課題

一方で、表現活動の時に、思うように手が動かない児童も数名いた。具体的評価規準を設定していたことにより、それにそって声かけをすることができたが、身近な花を鑑賞する時に、「共通事項」のとらえを、言葉のカードにして示すなどの工夫をするとよかった。

感性を養い、発想・技能に生かすための鑑賞活動

静岡県 伊東市立東小学校 河野 祐一

◆研究の軸

1. 題材の中に効果的に鑑賞活動を取り入れる
2. 鑑賞活動に小集団での話し合い活動を取り入れる
3. 子どもの作品制作の過程での評価

◆題材について

①心にのこったそのことを

②ここにはきつというよ

③心のもよう

④じっと見つめてみると

⑤コロコロガール

・目標例

②身近な場所の雰囲気から、そこにいそうな「住人」を思い付き、住人が住んでいる様子を写真に撮ってお互いに見せ合い、面白さを感じ取る。

(文字数制限の関係により、鑑賞題材である②のみここでは掲載。)

・実践

①心にのこったそのことを

・導入時での鑑賞活動

(動き・色彩・表情に着目)

・ジグソー学習法を利用した話し合い活動

・心情と背景色の結びつき

②ここにはきつというよ

・一次制作後の鑑賞活動

・話し合い活動による視野の広がり

③心のもよう

・教師の模範作品による導入時鑑賞

④じっと見つめてみると

・「カードを使って」と連動した話し合い活動
(鑑賞)

⑤コロコロガール

・視点を与え、友達の作品を見合う時間の確保

・アイデアを取り入れることの奨励

◆成果と課題

○成果

・鑑賞活動を導入時や、作品制作の途中に取り入れることによって、子どもたちは鑑賞活動を自らの表現に生かそうとしていった。

・小集団での話し合い活動を鑑賞活動に取り入れることによって、多様な視点で作品を見ることができ、子どもにより多くの気づきが生まれた。

・目的をもって鑑賞活動を行うことで、作品作りの意欲へとつながり、鑑賞の経験から意図をもって制作することが、ものづくりの楽しさへつながった。

○課題

・鑑賞活動には、はっきりとした意図をもつ必要があるものの、価値観の押しつけになりがちで、バランスが難しいと感じられた。

・小集団での話し合い活動では、意見が統合されやすく、その子なりの思いが淘汰されてしまう恐れがある。

・制作の過程において、構想と共に鑑賞の評価ができると考えたが、本当にそれらを相互に評価してしまってもよいのか、線引きに課題を感じる。

「私の町の作家さん『似たところ探してい団』」

～地域にかかわりのある造形作家に焦点を当てた鑑賞学習を通して見えてきた子どもの変容～

神奈川県(横須賀) 横須賀市立田浦小学校 岩田 裕光

◆題材の概要

横須賀の美術館、教育委員会、造形教育研究会が一体となって作成した「横須賀美術館アートカード」と「アートカードトークプログラム(指導案集)」が市内全小中学校(69校)に配布されて3年目となる。このカードには、横須賀にゆかりのある作家の作品も多く含まれており朝井閑右衛門もその一人だ。朝井は、今から70年ほど前に横須賀の田浦に移り住み、その後20年間を田浦で過ごし、作品作りをおこなった。今回の実践では32枚の「朝井カード」を自作し、作品の「似ているところ探し」を通して感じたことや発見したことなどを互いに伝え合う活動をおこなった。この、自分たちの町に暮らしていた作家とその作品との出会いが子どもたちの「みる」を変え、朝井や朝井の作品がより身近なものとなり、いつか地域の美術館で『本物』と出会うときの大きな感動へとつながることを期待したい。

◆題材について

・題材名

わたしの町の作家さん『似たところ探してい団』

・目標

地元ゆかりのある作家の作品カード(アートカード)を用いた活動を通して、作品の特徴やよさ、美しさなどを感じとる。

・実践

今回、一人の作家に焦点を当てた鑑賞学習をおこなうにあたり、「横須賀美術館アートカード」とは別に「朝井の作品だけを集めたカード」を用意した。カードにする作品は、朝井の代表的な作品に加え、描画材料や描き方などの異なる作品や「田浦」に関係する作品などを入れ、32点を選んだ。また、『アートカードプログラム』を通じた鑑賞活動とするため、作品の中から「似て

いる」と思ったところを探し、友だちと伝え合う活動(『似たところ探してい団』)を考えた。さらに、作家と自分たちの町とのつながりを知ることで作家や作品に関心を持つだけでなく、自分たちの町のよさや美しさに気づき、町への愛着を持ってほしいと考え、美術館の学芸員をゲストティーチャーとして授業にむかえ、子どもたちが朝井や朝井と田浦の町とのかかわりなどについてよりくわしく話を聞くことができる場面を設けた。また、学習の最後に活動をふりかえり、自分のお気に入りの作品とそのわけ・学習の感想などをワークシートにまとめるとともに、横須賀美術館で朝井の本物の作品を見ることができることを伝えた。

◆成果と課題

○成果

1時間(45分間)の活動の中で知ったさまざまな事実や子どもたち一人ひとりが感じたことは、作家と子どもたちとの距離をあっという間に縮め、同時に、自分たちの町に対するおもしろい見方まで変えてしまうものだった。中でも、作家が自分たちの町とのかかわりがあると知ったときの子どもたちの反応はひととき大きかった。子どもたちにとって「身近である」ことは、美術作品や作家とのつながりを深める有効な手立ての一つだと考える。

○課題

横須賀の鑑賞学習に対する新しい取り組みは始まったばかりだが、これらの学習が作家や作品、地域の美術館をより身近なものとして感じ、子どもたちの「みる」力の変容を促す学習プログラムとして効果的であるか…などを検証しつつ、今後も広く実践を積み重ねることが大切であると考えている。そのために、私たちも少し、変わろう。

「表現にこめた思い」

～ピカソを知ろう～

群馬県

桐生市立天沼小学校 中谷 愛

◆題材の概要

児童らは、5月に鑑賞授業で、ピカソの「ゲルニカ」と岡本太郎の「太陽の塔」「明日の神話」について、絵の中で何が起きているかを想像したり、作品の大きさや作品名、描かれているもの、色づかいに視点を当てて、作者の思いやメッセージについて考えを交流したりする経験をしてきている。そのような中で、鑑賞を面白いと感じる児童が増えたように思われる一方、「ピカソの絵はへたくそだ」など偏ったとらえ方をしている児童が多いこともよく分かった。そこで、次々に変化していくピカソの画風やその生涯について知ることで、今までのピカソに対する先入観や固定観念を払拭し、一つの表現に満足せずに追求し続けた芸術家としての姿勢をとらえることができるようにしたいと考え、この授業を設定した。

◆題材について

・題材名

「表現にこめた思い～ピカソを知ろう～」

・目標

関意態／美術作品をよく見て、形や色、表現されている内容などを味わおうとしている。

鑑賞／美術作品に込められた、作者の表現の意図や特徴などを感じ取っている。

・実践

①ピカソについて知っていることや、どう思うか、児童の先入観を出させる。(7分)

・へんな絵 ・自分にも描けそう

②複数のアートカードから、4人グループで意見を出し合い相談しながらピカソが描いた絵を選ぶ。『クイズ・ピカソの絵を探せ!』(10分)

・アートカードは、ピカソだけでなくどこかで見たことがあるような絵やブラックなど、キュビズムの作品も混ぜ、児童の話し合いが活発になるようにした。

③ピカソの絵の変化について知る。(18分)

- ・ピカソの絵が次々に変わっていったことを知り、キュビズムを含むピカソの画風について理解する。
- ・91歳まで作品を作り続けたピカソの生き方や時代背景についても併せて確認する。

④本時で分かったことや考えたことをワークシートに記入し、発表する。(10分)

◆成果と課題

○成果



- ・グループ交流では、絵の雰囲気や色彩、構図などグループごとに基準を設けてピカソの絵を選び、主体的な話し合いができた。
- ・クイズの答え合わせの際、1枚目の写実的なピカソの作品を見ただけで、児童らの見方が変わり、「じゃあ、初期の作品なのかな」「タッチがちがうね」などさらに意見交流が活発になった。
- ・絵の変化に触れる場面では、「次はどういう絵に変わると思う?」「このときピカソに何が起こったと思う?」と問いかけることで、ピカソの思いや心の揺れによる表し方の変化や表現の意図について考えることができた。

○課題

- ・本時で分かったことや考えたことについてもグループ交流の時間をとれるとよかった。

「野島のおやつをとりもどせ！あったかハートヒーローズ！」

～日々の生活が学習につながる楽しさを実感できる授業をめざして～

神奈川県（横浜）

横浜市立西寺尾小学校 平本 真澄

◆題材の概要

本題材は、子ども達が楽しみにしている野島宿泊体験学習との関連を図ることで、表現への意欲をふくらませることにつながるようにした。自分のつくりたいロボットを想像し、身の回りの材料を用いて表現することを楽しむ題材である。

図画工作科の学習では、子ども達が興味をもつことのできる素材を使って楽しく学習していくことを大切にしたいと考えている。また、これまでの経験を生かし、学習したことが次の活動に繋がることで、子どもの資質や能力はより高まっていくと考えている。子ども達の日常からどんなことに興味をもっているのか、どんなことができるのか、また、どんな課題があるのかを捉え、子どもの今を捉えるとともに育てたい力を明確にし、子どもに合った活動を考えていきたい。子どもの学習が日々の生活に生かされることが子どもにとっての自立であり、生きる力が高まりのびていくと考える。

◆題材について

・題材名

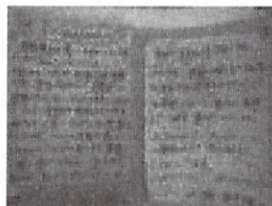
「野島のおやつをとりもどせ！あったかハートヒーローズ！」～身の回りの材料をつかって、自分のヒーローロボットをつくらう～

・目標

- 箱、空き缶、ペットボトルなどの身近な材料を使って、自由な表現を楽しむようにする。
- 身近な材料や、友達とかかわりあって感じたことから、自分の思いをふくらませ、表したいことを見付け、厚口両面テープなどを使って材料同士を接着し、ヒーローロボットを表すようにする。
- 感じたことを話したり、聞いたりしながら、表現の面白さに気付くことができるようにする。

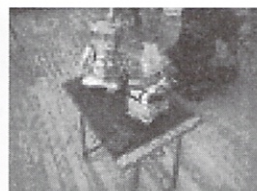
・実践

校長先生から手紙とおやつをもらう。



おやつが盗まれた。取り戻そう！

・参考となるロボットをみて、接着の仕方などのイメージを広げた。



ヒーローロボットをつくる。



◆成果と課題

○成果

- ・日々の子どもたちの様子から題材を考え設定することで子どもたちが楽しんで学習できた。
- ・同じ素材を繰り返し使うことで、子どもたちが、安心して学習することにつながった。
- ・宿泊学習と繋げたことで、子どもの日常が活き、表現の意欲が高まった。

○課題

- ・経験を関連付けて生かすことが難しいため、教師が意図的に繰り返し経験させることが大切である。日々の子どもの様子をしっかりと捉え、子どもの実態に合わせた工夫が必要である。

見て見て！ おもしろいものができたよ！

～どの子ども自信をもって表現できる授業をめざして～

神奈川県（川崎）

川崎市立殿町小学校 松本 潤

◆題材の概要

4年生が遠足で潮干狩りをしたので、それを話題に他学年にも海について聞いてみた。すると、海に行ったことのない子や水族館に行ったことのない子がいることがわかった。そこで、海の生きものをみんなで作ることで、行ったことのない子も海に親しみをもってくれたらと願い、本題材を設定した。ただ、海をイメージできない子もいるため特別教室の蛍光灯に青いビニール袋を被せて海の中を、理科の実験で使う送風機に緑のスズランテープをつけてワカメをつくることで海の世界を表現し、子ども達のやってみたい！という意欲をもたせることにした。また、スズランテープを貼る、巻く、裂くという3つの技法を使うことで自分の思った作品が表現できるようにした。

◆題材について

・題材名

ステキな海の生きものをつくろう！

A表現（2）立体に表す

・目標

材料の色や特徴を感じ、貼ったり、巻いたり、裂いたりしながら、自分なりの方法でつくりたいものを表現する。

・実践

1次では、海のイメージをもたせるために照明を工夫しただけでなく、波の音を流したりブルーシートを揺らしたりして海の中にいる雰囲気をつくった。1人では自信がなく活動が進まない子もいるため、大きな黒い魚を見せてみんなで飾りつけをするようにした。最後には、愛着がわいたのか、名前をつけたいという意見も出た。

2次では、1次で貼る活動が多かったので、「巻く」

と「裂く」技法を教え、一人ひとりが思うステキな海の生きものをつくった。出来上がった生きものを持って教室の中を歩いたり回ったりして楽しむ様子が見られた。

3次では、プールに行き、プールサイドに飾って風になびく生きものを見たり、浮かべて一緒に泳いだりして楽しんだ。最後の感想では、みんなが海のイメージをもっている様子であった。

◆成果と課題

○成果

特別教室に入ったとたん「わぁ海だ。」と声をあげ、走り回ったり寝転んだりする姿が見られた。教室の雰囲気を変えたことで、子ども達は海の世界にスムーズに入ることができたように感じる。いつもは発言をためらう子が海にすむ生きものの名前を発表したことからも意欲の高まりが感じられた。また、ビニール袋やスズランテープといった身近な素材を使うことで安心して活動に取り組むことができたと感じる。表現の幅が広がるようにと設けた「貼る」「巻く」「裂く」のヒントコーナーを見て、進んで取り入れている姿も見られた。色とりどりのスズランテープが作品についてくると、投げても回り回してみたりしてその美しさやおもしろさを味わっている子がたくさん見られたことから自分のつくったものに愛着をもっていることも感じられた。

○課題

身近なものとしてスズランテープを選んだり、はがれにくくするために両面テープを使ったりしたが、低学年の子が扱いづらそうであった。事前に素材体験をしておく必要があったと感じる。また、技法を3つ紹介したが、全て試している子は半分くらい（1年生を含む）であった。「巻く」と「裂く」以外に子ども達にあった技法であったのか課題である。



三溪園

MEMO

中学校分科会

「…きめた。」

わたしがわたしをつくるとき

自分の思いを込めるために

～自画像から自我像へ～

神奈川県（湘南）

鎌倉市立手広中学校 岡崎 梨里

◆題材の概要

（１）題材に対する教師の思い

生徒たちには、一生を共にする『自分の心』と、良い関係を築きながら生きてほしい。自分自身を理解し、他の個性を受け入れ、自己肯定感を持ってほしい。

自己の内面を深く見つめ、思いを表現していく自画像の制作活動を通して、自らの心を育むことをねらいとし7年間、第3学年で自画像を描く題材を取り入れてきた。

（２）授業改善の経緯

始めの3年間は、鏡に映る自分を見ながら、セピアカラーのパステルを使用し写實的に描く自画像を実践していた。自分に似ると作品への愛着が湧くのではと考え、似せる手順を細かく示した。その結果、多くの生徒が自分の顔に似た写實的な作品を生み出した。

当時の私は「作品の完成度＝授業の成功度」だと思い込んでいた。しかし、平成24年度の自画像制作を終えた後、教師自身の授業の成功度と生徒の意識には差異があったことがわかった。ねらいに迫る授業の組み立てができていなかったため、制作活動中の生徒たちの意識は写實的に描く技能の向上に向けられていたのだと気づき、そのことをきっかけとして、授業改善を始めた。

（３）授業改善の取り組み

年度	□工夫した点 / ▲反省点
H22 ～ H24	□鏡に映る顔の表情や角度を工夫することで、自分の思いを表現するよう示した。 □自分の顔に似せるための手順を細かく示した。 ▲学習のねらいを導入時にしか伝えていなかった。 ▲制作活動中の教師の意識が技術指導だけに向けられていて、学習のねらいに迫る発問をしていなかった。 ▲学習のねらいに迫る授業の組み立てが、出来ていなかった。
H25	□色や質感を取り入れることで自分の思いを表現できるのではと考え、キャンバスボード全面に、絵の具で自分の心を表現してから、鏡に写る自分を描き始めた。 □生徒が作品に込めたい思いを問いかけてから助言をした。 ▲絵の具が苦手な生徒への手立てが至らなかった。 ▲鏡に映る自分では、表情、角度、ポーズ等に制限があることに気付いた。

年度	□工夫した点 / ▲反省点
H26	□ポーズや表情に思いを込めて写真を撮り、写真に写った自分を描くことで、鏡を見るよりも生徒の表現の幅を広げられるのではないかと考えた。 □材料の扱いやすさを重視し、描画材料を絵の具からパステルに再度変更した。 ▲構図に込めた思いと制作活動が繋がっていくような言葉の投げかけが弱かった。 ▲描画材料の変更により、色彩や質感の選択肢が狭まったことで、生徒の思いを表現しきれなかった様子が作品から見て取れた。
H27	□前年度同様、写真を基にして描く活動だが、描画材料を色鉛筆と絵の具の併用にすることで、色彩や質感を工夫して思いを表現できるようにした。 □選択する色、描き方にどのような思いを込めているのかを問いかけ続けた。 ▲「制作活動の一つひとつが、生徒にとっての自己表現となり、ねらいに繋がる自画像にするにはどうすればよいか。」という教師の疑問は解決しなかった。

◆今年度の実践“自我像～○○な自分～”

（１）題材について

学習指導要領の第2学年及び第3学年の指導内容「A表現（１）ア、イ、（３）ア」に基づき、改めて自画像の題材について検討した結果、表現方法を自らの主題に合わせて選択し創造的に表現していく本題材を設定した。

（２）学習目標

主題を生み出す過程を通して自分の心を深く見つめ感性を豊かにし、制作活動や作品の相互観賞を通して美術の創造活動の喜びを味わい、豊かな情操を養う。

（３）工夫した点

- ・主題を生み出すまでの活動を大切にしながら授業を組み立てることで、生徒一人ひとりが自分の表現したい思いをしっかりと持てるようにした。
- ・主題を基に、生徒自身が表現方法を選択、決定していく場面を増やすことで、制作過程の一つひとつが自己表現に繋がっているという意識をもたせ、作品に思いを込められるようにした。

自己像 —自分を表そう—

～自分自身を自己と他者の視点を生かして再構築する～

茨城県 つくば市立豊里中学校 中川 知子

◆題材の概要

思春期を迎え、自我が最構築される時期にある中学3年生で多く扱われる題材の一つが「自画像」である。^{※1}

過去の偉大な芸術家が多く自画像を残したことから、自分の顔を描くことで、作者の精神性まで表せると漠然と考えがちだが、美術の専門的な学習をしていたとしても、困難な画題であろう。

単純に「人物画」として捉えたとしても、表現技能の差がそのまま作品の評価に結びつきやすく、美術が苦手な生徒にとっては最初から取り組む意欲が失われる傾向にある。

すでに持っている生徒の能力を利用した作品作りではなく、生徒が自分自身を再構築していく作品制作の中で、自分の良さや特徴を再発見したり、新しい表現に取り組んだりできるよう「自己像」^{※2}として、題材を構成した。

この題材は、自分自身が感じ考えている自分に加え、友人から自分についての印象をキーワードとして集めるという活動を最初に行う。そうして自他の視点で集まった言葉・印象から自分を再構築していく過程を体験する。つまり「わたしがわたしをつくる」のであり、今回の学年テーマにもっとも近い題材の一つであると考え、提案する。

◆活動の実際

題材について、概要を説明した後、制作の手順を「制作計画表」にそって説明する。最初の1時間を、表現主題作成のためのキーワード集めや表現主題文作成に使い、全部で8時間の制作時間を有効に使えるようにした。

▼資料1「制作計画表」裏に評価基準を掲載した。

そして、ワークシートを配布し、「自己像」制作に必要なキーワード集めを行う。

▼資料2「ワークシート」で自分を分析する。

表現主題の設定が作品作りと評価の基準になるため、穴埋め式の定型文を用意し、明確な作成を心がけた。

▼資料3「制作計画表」裏に主題文用の枠を掲載。

制作後に発表と相互鑑賞を行うが、明確な表現主題文を設定したことで、生徒は自分の作品を冷静に振り返ることができた。発表時は、自分の作品には表現主題がどう表れているか生徒自身が語り、発表自体が表現活動もなっていた。友達の作品を鑑賞する時も表現主題文を参照し解釈・批評ができた。

※1 有田洋子指導・勝部浩美「効果的な自画像の授業提案—思春期の生徒に対して—」島根大学教育学部美術教育専攻研究論文、2012年。

※2 中川知子・有田洋子・金子一夫「自己像表現における否定的自己と肯定的他者視線による表現主題の弁証法的形成」『美術教育学』第36号、2015年、pp.295-307。

深い学びの実現に向けて、生徒の実態に応じた授業の工夫

神奈川県 (横浜国大附属)

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 飯田 哲昭

◆題材の概要

今日の生徒たちを取り巻く状況を見ていると、彼らはすでに、スマートフォンやタブレットを使い、新しい勉強方法や、新しいライフスタイルを築いている。そうした背景を持つ本校生徒の、これまでの学習活動や経験の中で身に付けてきた感覚を働かせて、自らの主題に向かって自己決定を繰り返す「深い学び」につながる授業の工夫を提案する。

◆授業の工夫

(1) 実際の生活や社会との関連性を意識した授業

本校の学習環境や生徒たちのこれまでの学びの履歴を踏まえ、タブレット端末を取り入れた題材を設置する。

(2) 主体的・協働的で創造的な授業

「感じる→考える→つくる→伝え合う」という学習活動の流れを基本とした授業を展開する。

(3) スケッチの活用を重視した授業

見る力や感じとる力、考える力を引き出すためのアイデアスケッチを効果的に取り入れる。

(4) 協働的な学びを目指しつつも、個の学びを保証

し、生徒たちが自らの変容を見取れる授業

題材における思考の働きを整理し、学びを自覚させたり、次時の手立てに役立てたりするために、「思考ボード」(図1)を活用した授業を行う。「思考ボード」とは、毎時間その授業内で働いている生徒自身の思考(気付学び・共感・困り等)を付箋に書き込み、黒板前に置かれたボードに貼ることで他者との考えを共有する学び合いの場となる。

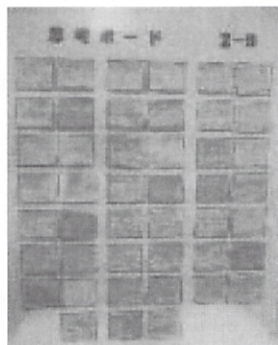


図1

◆実践例

(1) 私のデザインバーコード [A表現 (1)]

①目標

バーコードの特徴を基に、感覚や経験などを生かして、ものの見方に変化を持たせ発想を広げる。

②タブレット端末の位置付け

生徒自らの発想の幅を広げ、構想したことを具現化しやすくするために、ペイント用ソフトや著作権フリーの画像を使用する。

(2) 10本アニメ [A表現 (1) (3)]

①目標

10本の棒から発想したこと基に主題を生み出し、表現方法を工夫するなどして創造的に表現する。

②タブレット端末の位置付け

他教科で既に学んでいるプレゼンテーション用ソフトの新たな活用方法を考えたり、既習事項を活用し自分の持っている力を発揮したりするなど、試行錯誤しながら創造的に制作をする。

◆成果と課題

今回の題材を通して「タブレット端末を使い、創造的な技能を見取ることができるのか」と考えていたが、生徒たちは、主題を表現するために、既習事項を活用したり、表し方を工夫したりしながら創造的に作品をつくりあげていた。

課題としては、生徒たちが自らの学びについて語る学習活動(自己評価)について、「思考ボード」の活用も含め検討していくことである。生徒たちが、自らの学びを意味付けたり価値付けたりしながら、見方や考え方の更新していくことで、美術が社会や生活を豊かにするものであるという実感を持てるよう、授業改善を行ってきたい。

空想の世界への誘い

～伝えよう わたしの思い～

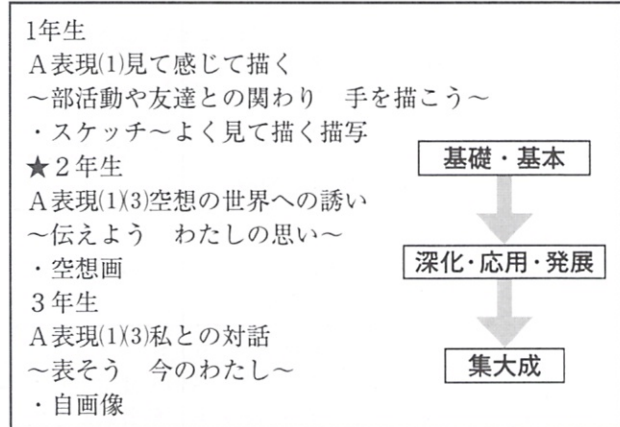
埼玉県

加須市立大利根中学校 牛久 智美

◆題材の概要

A表現(描く活動)における題材の流れ

～本校の年間指導計画による3年間の見通し～



1年生では…

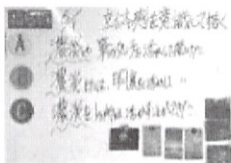
(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、自分の手の動きを意識して描く。また、3学期「生活を豊かに」(開隆堂)の形や色について、身近なものの観察から発想し、デザインすることについて学ぶ。

2年生では…

(1) 対象や自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことなど、自己との対話の充実を図った。
(3) 発想・構想したことを外へ発信する。技能では、形や色について1年生で学んだことを活用する。

3年生では…

(1) (3) 両方について、既習事項を生かして「自画像」を描くことで、A表現(描く活動)の集大成を図る。



◆題材について

- ・題材名「空想の世界への誘い」
- ・目標

発想や構想の能力

自分の体験、見る、読むなどの経験から膨らませた新しい世界をイメージし、表現の構想を練る。

鑑賞の能力

作品に表された作者の意図や工夫を自分なりに感じ取り、言葉を組み合わせて話し合おう。

・実践

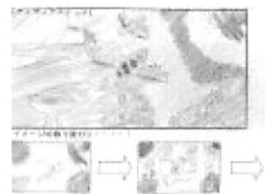
時間	内容
①着想	教科書・資料集・DVD
★②発想	アイデアスケッチ
③制作	下書き
④制作	下書き ～アイディア鑑賞～
⑤制作	着彩
⑥制作	着彩 ～参考作品の鑑賞～
⑦制作	着彩
⑧鑑賞	自分達の作品の紹介・鑑賞

計画表による確認

◆成果と課題

【成果】

- ・描きたいもの、描けるものを考えさせたことでアイディアに広がりができた。
- ・絵を描くことに不安を感じていた生徒もアイディア鑑賞を経てあるがままの自分を受け入れ、より作品に対して積極的に制作を進めることができた。完成後の鑑賞会では、自分なりの考えを持てるよう対話型にしたところ作品を深く味わうことができた。



【課題】

無形のイメージから、有形のものを生み出すことの難しさを感じた。言葉掛けや作品鑑賞のタイミングなどを工夫し、自分らしさの追求のためにも、自己との対話の時間を十分確保できるよう努めていきたい。



みられることでみえてくる「より良くしよう鑑賞会」の実践 ～校内で使えるピクトグラムづくりを通して～

神奈川県（川崎）

川崎市立王禅寺中央中学校 相原 典子

◆題材の概要

本校の生徒はより良いものを表現しようとする意欲はあっても、目的や条件を基に発想や構想を広げること課題が見られる。

ある時、生徒が作品完成後に掲示された他の生徒作品を見て「完成後ではなく制作途中で見ることができたら、表現のヒントを見つけてもっといいものができたと思う。」と話していた。この生徒の言葉から自らの思いを実現できるように、発想や構想の能力を高める工夫が必要であると考え、本題材の核となる活動「より良くしよう鑑賞会」が生まれた。

本題材では指導要領の第2・3学年、A表現（2）イに基づき、制作途中でB鑑賞（1）アを扱うこととした。客観的視点を意識した話し合い活動を取り入れることで、自分だけでは気付かなかった作品への見方や考え方が深まり、他者を意識した表現の構想を練ることにつながるのではないかと考えた。

また、今回の制作活動には、形や色彩効果の比較検討が手描きよりイメージしやすいことを考えてプレゼンテーションソフトを使用した。

＜本題材を通して、身に付けたい力＞

- ①形や色彩の効果を活用して分かりやすく美しい表現を考えられる力
- ②客観的視点を意識して機能と美の調和を感じ取り、美術の働きについて理解や見方を深める力

◆題材について

・題材名「どこにつけたらいい？」

～校内で使えるピクトグラム～

・学習目標

伝達の表現に関心をもち、客観的視点を生かして校内の情報や注意内容を基に表現の構想を練り、形や色彩の効果を考えて工夫し、創造的に表現する。

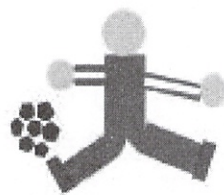
・活動の流れ（6時間）

時	活動内容
1	【本題材の理解と鑑賞】 様々なピクトグラムの鑑賞を行うことで、伝達の表現について理解し、よさを味わう。
2	【表現の構想】 校内の情報や注意を示す内容から、他者を意識したピクトグラムの構想を練る。
3	【制作】 構想を基にプレゼンテーションソフトの特性を生かし、表現方法を工夫する。
4 5	【「より良くしよう鑑賞会」の導入】 互いの作品を批評しあったり、教師や他学年の生徒の意見を聞いたりする活動から、他者意識を生かした表現の工夫を再考し、ピクトグラムを完成させる
6	【鑑賞】 完成作品から作者の意図と表現の工夫、伝える効果や調和のとれた美しさなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。

◆成果と課題

ある生徒は「部室の扉は明るい色なので、暗めの配色を使うといい」との意見から、配色の変更と学校の体操服のデザインを作品に取り入れた。他の生徒

たちも制作途中での鑑賞活動を通して、客観的な視点で自分の作品を見つめ直すことで伝達の表現を再考し、学習を深めている様子が見られた。鑑賞会を実施するにあたり、ねらいをはっきりさせた発問と活動を促すことが課題だと感じた。



「私の心模様」

長野県

松本市立波田中学校 末益 奈緒美

◆題材の概要

自ら発想力を広げ、試行錯誤を繰り返しながら自分が表現したいことへとつなげていく生徒の姿を実現化しようと研究を進めている。

発想の段階においてイメージをふくらませることが苦手で、概念的な表現に陥りがちな生徒たちに、感覚的な表現（フィンガーペインティング）から表現したい感情を見出し、色や形を通して気持ちを伝え合うという活動を設定した。最初に描くという行為自体のおもしろさに触れることで心が解放され、そこで表現された色や形をもとにさらにイメージをふくらませ、その表現で伝えたいこと＝主題に迫っていく。このような発想・構想へのアプローチと表現の関わりを図ることで、描きたい気持ちを育み、表現力を高め、豊かな創造性を育成したいと考え本題材に取り組んでいる。

◆題材について

・題材名「私の心模様」（全9時間）

・目標

感情を表す手のスケッチや喜怒哀楽をキーワードに自分の感情のイメージをフィンガーペインティングなどで表現してきた経験をもとに表現してみたい自分の心模様を発想し、友と相互鑑賞をしながら試行錯誤することを通して主題を生み出し、色や形を工夫して創造的な平面表現をすることができる。

・実践

喜怒哀楽を感情の入り口として、まずは感情を表す手をスケッチし、何の感情を描いたのかは知らせず友と作品を交換し、どの表現からどの感情が読み取れるか相互鑑賞する。次も同じように喜怒哀楽をフィンガーペインティングで表現し、色やタッチに注目して友と意見交換を行う。

自分の気持ちを一つの作品として表現することへの意欲をもち、おおよその表したい心模様を決めていく。○○な時の○○な気持ちを想起しながらクレヨンでラフスケッチを行い、表したい心模様は制作しながらはっきりさせていけばよいことを伝える。おおよその表してみたい心模様が決まった生徒はアクリル絵の具で下塗りをして、バックの雰囲気を作っていく方向を示す。

自分の表したい心模様を表現しながら明確にしていくため、毎時間、表現したことと心模様の関連性を文章に残していく。表したい心模様に合う材料や技法を検討し、表現をどんどん重ねていくことでより具体的な気持ちに迫っていく。その中で、作品の中にメインと言える箇所を作ることを提案し、主題をより明確にしながら表現を工夫していく。

◆成果と課題

○成果

- ・自分の得意な技法や相性のよい材料から入ることは、表現が苦手な生徒にとって制作へのモチベーションを上げることができる。
- ・相互鑑賞を取り入れていくことで友の表現から学び、制作過程においても友にアドバイスをもらい自分の表現を深める姿が見られる。
- ・紙粘土や段ボールなど材料を工夫したり、モダンテクニック等で表現を工夫したりしている。

○課題

- ・終盤に向けて、メインと言える箇所（表現）を作る場面でこれまでの勢いが途絶えてしまい、生徒の中に悩みや迷いが生じている。メインは具象だけではないので、表したいこととどう結びついているか、その方向性。

「使いたくなる器の制作」における授業の工夫 ～PDCAサイクルによって見えてきた授業改善の道～

神奈川県(横須賀)

横須賀市立長井中学校 堀田 沙織

◆題材の概要

(1) 本題材設定の理由

今日多くの物に囲まれて暮らす子どもたちに、日常で使用する物の使い心地や、それらが生活を豊かに彩る美しさに改めて気付いてほしいと考え、本題材を設定した。使い心地のよさや造形的な美しさなどを使い手の立場から考え表現する活動を通し、普段何気なく使われている物への関心を高め、豊かな心を持って生活していく意欲と態度を養いたい。

(2) 本題材で身につけたい力

- ① 使用する者の気持ちや機能を総合的に考える力
- ② 素材や用具の特性を生かし、創造的に表現する力

(3) 本題材について

本題材は湯飲み(又はコップ)の焼き物づくりであり、誰が・どのような時に・何を飲むのかを、使用する者の気持ちや機能を総合的に考え表現する活動である。2年間継続して本題材を実践しているが、生徒の学びをより深める為に題材を分析する必要性を感じ、PDCAサイクルを活用したいと考えた。

◆本題材「使いたくなる器の制作」の取り組み

(1) 目標

使用する者の気持ちや機能に関心をもち、使い心地や器としての美しさを、形や釉薬による色彩などの効果を生かして総合的に考えるとともに、表現方法を工夫するなどして創造的に表現する。

(2) これまでの実践(今年で3年目)

使用する者の気持ちを理解し、発想を広げるための手立てとして、様々な器にお茶を注いで実際に飲む鑑賞『味見の会』を行った。

	○成果 / ●課題
1年目 (1昨年)	○『味見の会』では、「飲み物を入れたときの形の美しさを大事にしたい」など使う際の様子を考えて発想していた。 ●『味見の会』を途中鑑賞にしたため、大幅なデザイン変更が出来ず学びが十分に生かされなかった。 ●構想からいきなり制作に入ったため、成型に苦労する様子が見られた。
2年目 (昨年)	○導入で『味見の会』を行い、使い手の心地よさを意識して発想することができた。 ○陶土の特性や用具の生かし方について学習したことを生かして表現を工夫していた。 ●機能性が重視され、手づくりの魅力でもある形の面白さやあたたかみ、美しさなどを意識した形の発想が深まらなかった。

(3) 今後の展開 ～PDCAサイクルを意識して～

課題をより明確化するため、本題材の流れをPDCAサイクルに置き換えると以下ようになった。

Plan : 味見の会で使い手の心地よさや形の工夫点に気づき、発想に生かす

Do : 陶土の特性や用具を生かしながら使い心地のよい形を追求する

Check : 完成作品でお茶を飲む→ ☆

Act : ☆☆

結果、上記(☆印)の部分のねらいが弱い、または無いということが分かった。☆に関しては鑑賞を通して本題材での学びを明確化する手立てを考えたい。

また、☆☆に関しては本題材で得た学びを今後の生活に生かし、次のP(Plan)につなげていく「もう一歩」を提示できるようにしていく。

「時代を残すはにわ」

～時を越えて～

千葉県 芝山町立芝山中学校 宮下 泉

◆題材の概要

本校の生徒が暮らす芝山町は、「埴輪」が多く出土している。(また周辺の畑では、縄文土器の破片も多く見つかるといわれる。)毎年11月には『芝山はにわ祭り(昭和57年から始まった)』が行われ、毎年2年生の40名が古代人に扮装し、祭りに参加している。通学路の「はにわ道」には埴輪像が並び、校門をくぐるとすぐに埴輪像が生徒を迎える。芝山に暮らす生徒たちになじみがあるようで、それほど詳しくは知られていない埴輪。この題材は、その埴輪の魅力を改めて知ること、制作意欲を促し、発想力が養えるのではないかと考え設定した。また、制作活動では、単に古代の埴輪を模刻するのではなく、新たな形で「自分のはにわ」を生み出すことができるよう、現在の自分と関連付けながら形や装飾を発想させることで、今の時代を生きる自分を他に発信して伝えられるよう工夫させていきたい。

◆題材について

・「時代を残すはにわ」 ～時を越えて～

・目標

関意態

- ①埴輪に興味を持つことができる。
- ②最後まで根気強く、意欲的に取り組むことができる。

発構

- ①今を生きる自分について考え、埴輪の形や模様を発想することができる。
- ②鑑賞した埴輪から発想を広げ、自分なりの形、模様を考えることができる。

創技

- ①粘土の扱い、約束事を正しく理解し、丁寧に作品を作り上げることができる。

鑑賞

- ①埴輪の魅力を味わうことができる。
- ②友人や自分の作品の良さを発見することができる。

・実践

導入時に芝山はにわ博物館、学芸員の奥住淳氏の協力を得て、埴輪の鑑賞を行った。鑑賞の授業では、奥住氏から埴輪の歴史や縄文土器との違いなどについての講義をいただいた。さらに本物の埴輪や土器破片に触れる等の体験をした。

制作には、信楽とテラッコタ2種類の粘土を使用した。それに加え、生徒たちが各自で用意した「自分と関わり合いの深い場所の土や砂」を混ぜ込み、それぞれがマイ粘土を練り上げた。作りたい形を簡単にアイデアスケッチした後、「輪積み、穴開け」などの埴輪作りの基本を踏まえつつ、成形に取り組んだ。

作品の表面の仕上げや装飾など成形の段階では、各自が表現したいと思う形や模様を作れるようビー玉や麻紐、彫刻刀なども用意した。

出来上がった埴輪は、はにわ祭りの期間から、はにわ博物館で展示し、地域の方等多くの人に見ていただいた。また、お互いのはにわを鑑賞することで工夫や思いを認め合うことができていた。

◆成果と課題

○成果

- ・本物を触ることで、見るだけではわからない形の面白さに気づき、良く鑑賞したことで、埴輪作りの意欲が高まった。
- ・自分に関わり合いのある場所の砂を入れることで、一人一人の生徒が思いを込めて制作することができていた。
- ・生徒が自分自身を考え、形や装飾を発想したことで様々な形や模様の埴輪ができあがった。

○課題

- ・実際に博物館へ足を運んでみると、さらに多くの種類の埴輪を鑑賞できたと思った。
- ・生徒たちは、発想の段階で作品の形や模様に自己を結びつけるのに苦勞をしていた。
- ・成形の前の段階でアイデアスケッチをする時間を充分にとる必要があると感じた。

新たな価値観の構築を目指して“知る・見る・共有する”

～奈良・京都校外学習－はがき新聞を活用した主体的な鑑賞活動～

神奈川県(相模原)

相模原市立鶴野森中学校 榎本 典子

◆題材の概要

本校は、日頃から「思考力・判断力・表現力の育成」を意識し言語活動のある授業・多様な学び合いの場面を設定してきた。美術科では、3年生の奈良・京都校外学習を活用して後世につなげたい文化財、特に仏像との出逢いを生かした。この機会に「はがき新聞」を活用した主体的な鑑賞活動に発展させたいと考え実践した。はがき新聞は、小さい紙面のため簡潔な短文となり、伝える相手を考え目的意識を持ちやすい。またタイトルや見出し、イラストなども自分で考えて作るため、オリジナル性が高くなると考えた。プレゼンテーションや掲示発表を実施して、感動の共有化を図り、見方や考え方を耕すことで新たな価値観などの構築を願った。

◆題材について

・題材名

「新たな価値観の構築を目指して“知る・見る・共有する”～奈良・京都校外学習－はがき新聞を活用した主体的な鑑賞活動～」

・目標

- ① 仏像の全身像としての美しさと共に、仏の超人的な能力を表した細部に宿る思いを知り、それを感じとる意欲や態度を高める。
- ② はがき新聞に自分の知識や思いを、視覚的にも相手に伝わりやすくまとめる能力を高める。
- ③ 仲間の思いをはがき新聞やプレゼンテーションで見聞することで共有し、味わいをより深めようとする意欲や態度を養う。

・実践

- ① はがき新聞の作り方を知る。
- ② 信仰の対象である仏のちからとして表現された様々な特徴を知り、心に残ったことや調べたことをはがき新聞に作成し掲示発表する。

- ③ 校外学習に行き実際に文化財の本物を見て、はがき新聞に思いなどをまとめ作成し掲示発表をする。

- ④ 学級でプレゼンテーションをして、学びの共有化を図る。



↑ 事前新聞の例



↑ 事後新聞の例

◆成果と課題

- ・ 学習前は仏像への興味関心がないという声が多かった。それが信仰の対象である仏のちからを表すために、仏像には種類があり、様々な特徴が目に見える形で表現されていることを知ることで、本物を丁寧に見て、全身像としての美しさと共に、細部の表現に込められた思いを感じ取れた生徒が多くいた。
- ・ はがき新聞は、手軽に短時間でできるためか丁寧に作成する生徒が多かった。また伝えたいことを簡潔に、思いを整理してまとめることができた。さらにカラーペンや色鉛筆などで工夫し美しく多様な表現の世界が広がった。
- ・ 掲示やプレゼンテーションで情報や思いを共有化することで、視野が広がり多様な考え方を知って文化財の深さを味わうことができた。今回初めて本物を鑑賞する事前と事後の思いの変容を追った。はがき新聞を今後も有効的に活用したい。さらに日常生活に生かせる授業展開の工夫をしていきたい。

ライブペインティングを鑑賞して、対話を通じて学ぶ。

～自分の考えを深める鑑賞のために～

東京都 大田区貝塚中学校 松尾 英治

◆題材の概要

この題材は鑑賞した際、生徒が自分で感じ取りやすく、また話し合うことで自分の考えを深めやすいように工夫しているものとなっている。鑑賞を知識の理解だけにせず、鑑賞する視点を確立するためである。今後は日本の伝統的な作品や西洋の作品などを鑑賞していく計画である。この題材によって、作品のよさや美しさを感じ取る力を身に付け、次の学びにつなげていく。

教員がライブペインティングをした作品を鑑賞するので、間近で素材の質感や筆のタッチなどを鑑賞できる。また4人班にすることで主体的に討論でき、より自分の考えを深めることができる。こうした活動を通じて、研究テーマである「わたしがわたしをつくる」ことを体験していく。

◆題材について

・題材名

ライブペインティングを鑑賞して、対話を通じて学ぶ。

～自分の考えを深める鑑賞のために～

・目標

作品を鑑賞して感じ取ったことをもとに、自分の考えを深める。

関意態／美術の創造活動の喜びを味わい、身の回りの造形や美術作品、美術文化などに関心をもち、主体的によさや美しさを感じ取ろうとしている。

鑑賞／感性や想像力を働かせライブペインティングで表現されたものの造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取ろうとしている。

・実践

<導入15分>

- ①本時の目標を把握する。
- ②ワークシートを配布し、本時の活動内容・スケジュールについての話を聞く。
- ③教員がライブペインティングをして、その様子と作品を鑑賞する。
- ④作品の第一印象をワークシートに書く。

<展開25分>

- ⑤4名ずつの班を作り、ワールドカフェ方式の討論を開始する。この討論は5分とする。意見は模造紙に記入する。
- ⑥各班に1名を残し、他の生徒は別の班に席を移動する。席替えは1回とする。

<まとめ10分>

- ⑦はじめの班に戻り、討論の展開を確認し合う。
- ⑧各班での討論の様子を発表して共有化する。
- ⑨作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、対話を通じてより深まったことをワークシートに記入する。

◆成果と課題

○成果

目の前にある作品を鑑賞するという、美術館などと同じような鑑賞体験を通じて、素直に感じたことを話し合うことができた。また、対話によって、自らの考えを深めることができた。

○課題

鑑賞する視点を確立するきっかけとなり、次の学びにつながったので、今後は日本の伝統的な作品など、実態に応じた鑑賞の題材に取り組んでいく。

「ロゴマークの意匠に迫れ！」 ～身近なデザインを“美術の目”で味わおう～

神奈川県(横浜) 横浜市立谷本中学校 吉田 浩気

◆題材の概要

○本題材のねらい

本題材は、繁華街に程近い環境で暮らす本校生徒にとって身近な、店舗や商品の「ロゴマーク」を鑑賞対象とし、イメージを効果的に美しく伝えるためのデザインの工夫や、そこに込められた作者の意図などを感じ取る活動を通して、生活を豊かにする美術の働きに関心をもつとともに、身の回りのデザインのよさを幅広い見方、感じ方で味わおうとする態度を養うことをねらいとしている。

◆題材について

・題材名

「ロゴマークの意匠に迫れ！」

～身近なデザインを美術の目で味わおう～

・指導事項

B鑑賞(1)ア、A表現(2)ア(3)ア

○題材目標

身近なデザインの鑑賞や表現活動の実践を通して、造形的なよさや美しさ、作者の意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、身の回りのデザインを幅広い見方、感じ方で味わおうとする。

○実践にあたって

鑑賞対象とするロゴマークは、すべて学区内で見られる店舗や商品のもの、生徒自身が集めてきたものを使用し、生徒が関心をもって鑑賞活動に取り組めるようにした。また、区役所と連携し、本校所在区のシンボルマークを表現題材として取り上げた。授業で制作したデザイン画は区役所内に展示していただき、地域の方の目に触れる機会をつくることで、社会的な視点に立って表現することの意義を生徒が実感できるようにする。

◆活動の流れ(全4時間)

○活動計画

時	活動内容
1	学習のねらいを把握するための鑑賞 ○ロゴマーククイズ 鑑賞対象への関心を高める ○ロゴマークの鑑賞① 既習事項の確認、活用 ○発表・共有
2・3	思考力、表現力を育むための表現 ○青葉区シンボルマークの鑑賞 形や色から作者の意図を感じ取る ○シンボルマークのデザイン 目的や用途に応じた表現の工夫
4	対象の見方や感じ方を広げるための鑑賞 ○デザイン案のグループ発表 → 全体鑑賞会 意図に応じた表現の工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって幅広く味わう ○ロゴマークの鑑賞② 造形的な視点で作者の表現意図や工夫などをより豊かに感じ取る ○学習の振り返り 生活や社会を豊かにする美術の働きについて実感的な理解を深める

○学習内容の工夫

- (1) 既存の知識を活用しながら鑑賞活動を行うことで、生徒自身が学びの深まりや、対象の見方や感じ方の広がりを実感できるようにする。
- (2) 導入と終末の鑑賞活動の間に表現活動を取り入れ、作者の立場から思考・表現させることで、次時の鑑賞活動がより深まるようにする。
- (3) 他者との協働や地域題材の活用を通して、自らの考えを広げたり深めたりしながら価値意識をもって批評し合うことができるようにする。

共通の体験や比較をもとにした鑑賞授業について

～納得のいくコミュニケーションのある授業をめざして～

新潟県 見附市立南中学校 恩田 康一

鑑賞の授業をするにあたり、指導要領では「作品などに対する思いや考えを説明し合う」「作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなど」言語活動の充実を図ることが強調されている。しかし、私の実践では、授業の交流の場面で自分の鑑賞が相手に伝えにくいことがしばしば見られた。

そこで、生徒間の交流が円滑に行われ、納得のいくコミュニケーションとなるように手立てを講じた。

以下、鑑賞授業の2実践を紹介する。

◆題材1の概要

この題材は印象派モネの作品群を鑑賞し、モネが何を表現したかったのかを推測する学習である。複数の作品を比較しながら鑑賞することで、自分が感じ取ったことを他の生徒に伝えやすくし、相互交流が図られるようにする。

◆題材について

・題材名「印象派：モネは何を表したかったのか」

・目標

(1) モネの作品群と印象派が現れる以前の作品群を比較し、モネや印象派の特徴を見つけ出す。

(2) モネの作品群の特徴や歴史的背景の資料をもとに、モネが表現したかったことを推理する。

・実践

比較して読み取ったものは相手に伝えやすい。ここではモネの作品群と印象派以前の作品群とを比較し、モネの作品の特徴を探せるようにした。

また、当時の絵の具チューブの発明やカメラの発明など歴史的背景を提示し、モネが表現したかったことを推理する学習活動を行った。

◆題材2の概要

この題材は作品の情景に迫るために、実際に作品制作をすることを通して、生徒に共通の体験をさせて鑑賞を深める学習である。

◆題材について

・題材名「ルノワールはどのような情景を表現したかったのか（『ムーラン・ド・ラ・ギャレット』の鑑賞）」

・目標

(1) 木漏れ日の表現を手掛かりに作品中の登場人物の気持ちやルノワールの気持ちを推測する。

(2) 木漏れ日をスケッチし、意見交流を通して、自己の鑑賞を更に深める。

・実践

1次鑑賞では作中の登場人物が屋外ダンスホールに集まる理由を考えさせた。また、なぜ屋外にダンスホールがあるのかを考えさせると、生徒から「木陰」「日陰」などの言葉が出てきた。そこで更に、木漏れ日に着目するために、校舎外で木漏れ日をスケッチする活動を取り入れた。その後2次鑑賞を行い、鑑賞を実感の伴うものとした。

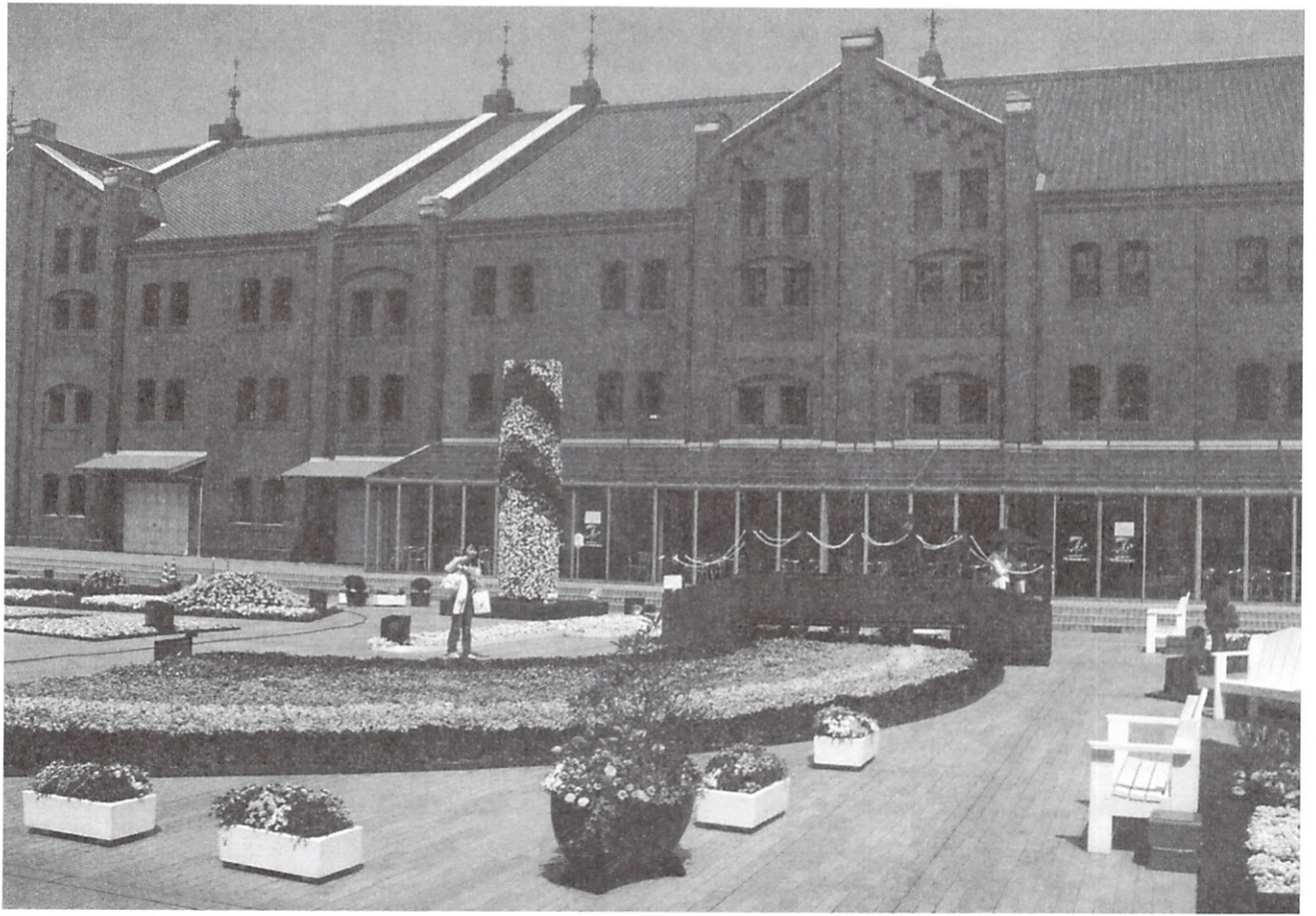
◆題材1、2の成果と課題

○成果

比較や推論をもとにして根拠を示せるようにすることで、自分の推論に意味付けができて満足感をもち、他者の鑑賞を取り入れようとする姿が見られた。また、類似した情景を実際に表現させることも鑑賞において効果的であった。

○課題

作品群の比較・分析をする鑑賞活動は、自分が作品の何に着目しているか明らかにすることができ、自分の鑑賞の客観的な立場からの見直しや、他者と意見交流の際の足掛かりとなる。しかし、素直な鑑賞や直観レベルの鑑賞が見過ごされる可能性もある。授業の中で丁寧に拾い上げていきたい。



赤レンガ倉庫

MEMO

高等学校分科会

「こうしてみよう！」

つながる学び

「こうしてみよう！」つながる学び ～高等学校での実践紹介～

神奈川県 神奈川県立多摩高等学校 立川 公子

◆概要

「こうしてみよう！」と思えることはすばらしいと思います。勇気と創造性が言わせる言葉だからです。生徒が「こうしてみよう！」と思えるようになる背景には、造形活動や美術工芸への興味関心と、それまでの成功や失敗の経験があります。中学校までに積み重ねてきた様々な造形活動の経験が実を結んだものだと思います。

高等学校に進むと、造形活動を通じて作品や素材などを「感じる・つくる」経験をした児童生徒たちは、人の気持ちを「感じ」たり、人間関係を「つくる」場面に直面します。さらに行動範囲や交友関係が広まり、創造（想像）力を使う必要性が増していきます。

社会に踏み出す一歩前にいる高校生のために美術工芸教育ができることを、中学校までの造形教育を意識しながら考えていきます。

◆実践事例について

①「こうしてみよう！」を引き出す授業

・「バランストイのデザイン（木彫）」

左右非対称ながらバランスのとれるオブジェという条件で桂材を素材として制作する。デザインとバランスの条件をクリアするため、グループワークでの試作による導入をおこない、紙による試作を重ね、完成へとむかっていく。

②高校生らしく「深く学ぶ」授業

・「MY吉祥文様シルクスクリーンによる手ぬぐい制作」

「自分にとって大切なもの」を連続文様のデザインのテーマとして、シルクスクリーン（カットティング法）で手ぬぐいに仕立てていく。

・「対話による鑑賞—プリマヴェーラ—」

ボッティチェリの「プリマヴェーラ」を題材にした対話型の鑑賞。お互いの気づきが積み重なったり、異なる意見に出会ったり、議論が深まるにしたがって作品への理解が深まっていく。

③つながりが広がる部活動や有志による活動

・「〇〇甲子園～チームによる美術・デザインコンクール」「多摩川エコミュージアム サインデザイン」などへの参加

全国高等学校デザイン選手権（デザセン）や、まんが甲子園、はなが甲子園など校外へ積極的に出て活動領域を拡げていく。これらの活動は、取材・考察・プレゼン（表現）をととした生徒の成長、教科横断的内容を含み、総合的な学びの貴重な機会となっている。

◆課題

目標は学びの深化

生徒の15年間の人生、幼・小・中学校での造形活動をとおして、ときには高校で同じ題材を扱うこともありえるため「なぜこの題材なのか」「高校ならではの教材・切り口、目標をどのように設定するかを考えていく必要がある。アンケートによるリサーチや、研究会での情報収集、授業では題材の設定理由を伝えるとともに、生徒の興味関心・実態に即した題材選びや展開・構成を常に更新していく必要があると感じている。

昨今よく耳にするアクティブラーニングの実践はあくまでも手段として用い、「深い学び」に到達することを目標にすることが大切である。

参考資料

関東甲信越静地区造形教育研究大会のあゆみ

	年 月	開 催 地	大 会 主 題 〈全〉…全国大会併催
1	昭和 36.11	東京都中央区	図画工作の実践研究発表大会
2	37.11	山梨県甲府市	たくましい心を育てる造形教育
3	38. 8	新潟県高田市	造形教育の現状をたしかめ、これからの志向を見いだそう
4	39.11	栃木県宇都宮市	造形教育の実践を通し豊かな個性を育てる〈全〉
5	40. 8	東京都台東区	科学と美術教育
6	41. 6	千葉県千葉市	子どもの調和的な育成をめざす造形教育
7	42.10	新潟県新潟市	人間形成をめざす造形教育の現実的課題と解決策〈全〉
8	43.11	茨城県水戸市	主体的活動をめざす造形教育の推進
9	44.10	群馬県高崎市	個性豊かな表現活動をねらう造形教育
10	45. 7	埼玉県浦和市	今後の造形教育の基本的内容とその指導の研究
11	46.10	静岡県静岡市	たくましい創造力を育てる造形教育〈全〉
12	47. 6	山梨県甲府市	造形教育のたしかな授業をめざして
13	48. 6	神奈川県横浜市	情報化時代における造形教育
14	49. 8	長野県松本市	人間回復の美術教育
15	50. 6	栃木県宇都宮市	造形教育における子どもと教師
16	51.11	千葉県千葉市	造形教育における今日的課題の解明 (人間としての表現の喜びと自信を持たせる造形教育をめざして)
17	52. 6	茨城県水戸市	明日をきりひらく子どもの造形教育(子どもの表現力を探りながら)
18	53.10	埼玉県浦和市	造形教育の本質にせまる実践はどうあるべきか〈全〉
19	54.11	群馬県前橋市	豊かな人間性を育てる造形教育 (表現の喜びと自信を持たせる造形教育を求めて)
20	55.11	静岡県沼津市	創る喜びを確かめる造形教育 (授業を通してつくる喜びにひたらせよう)
21	56. 6	新潟県長岡市	生きているあかしの表現(創る喜びのもてる造形学習)〈全〉
22	57.10	山形県甲府市	創る喜びを味わう造形教育
23	58.10	神奈川県横浜市	明日をになう子どもの造形教育
24	59.10	長野県上田市	心おどらせてとりくむ造形〈全〉
25	60. 6	東京都豊島区	素材と創造者たち(教育における造形教育の重大性を問う)
26	61.10	群馬県桐生市	未来をになう子どもの造形(次代に生きる創造の高まりを求めて)
27	62.10	千葉県千葉市	子どもの心を掘り起こす造形教育
28	63.10	新潟県上越市	つくる意欲・感性…今、子どもたちと(創造の喜びを育む造形教育)
29	平成 元年.10	静岡県浜松市	子どもの感性を研ぐ造形教育(自らに素直な表現を求めて)
30	2.10	茨城県水戸市	豊かに、人らしく たくましく

	年 月	開 催 地	大 会 主 題 〈全〉…全国大会併催
31	平成 3.11	埼玉県浦和市・ 川口市	感性を高め創造する力を育む造形教育
32	4.10	山梨県甲府市	豊かな感性 つくる喜び、生きる力
33	5.10	栃木県宇都宮市	豊かな心 伸びる個性 ひらく明日
34	6.11	神奈川県横浜市	いま、さらに、豊かな感性・創造のよろこびを
35	7.11	長野県飯田市	いのちにふれる造形教育(つくるよろこび 自分らしさの表現を求めて)
36	8.10	東京都中野区	「人間・表現・環境」〈全〉
37	9.10	群馬県前橋市	自分らしい造形活動を保証する教師の役割
38	10.11	千葉県千葉市	自分らしい発見 思いっきり造形
39	11. 8	埼玉県大宮市・ 浦和市	自分“彩”発見 (「自分さがしの旅」をしつづける子どもの造形活動)〈全〉
40	12. 8	静岡県富士市	開く造形教育に 生き生き交流〈全〉
41	13.11	茨城県水戸市	つくりだす力 かがやき いきる感性
42	14.11	新潟県新潟市	生きる力を培う造形教育 大地と大河と日本海からのメッセージ (かかわり 発信 還元 そして 自信へ)
43	15.10	山梨県甲府市	「自立への道すじ」-豊かに感じ、自分をみつめ、造形に挑む-
44	16.11	栃木県宇都宮市・ 鹿沼市	ハート・ART ～風かよう夢広場～
45	17.11	神奈川県横浜市・ 川崎市	つくり続けるよろこび、それは生きるよろこび ～色と形のメッセージ I からWEから～〈全〉
46	18.11	長野県長野市	私っていいな!! “いろ・かたち” 生きあい 学びあい〈全〉
47	19.11	東京都文京区	人間形成としての造形美術教育
48	20.11	群馬県高崎市	自分らしさ つくりだす力 いきいき造形
49	21.11	千葉県千葉市	きらめく感性 ときめく思い うみだせアート〈全〉
50	22. 8	静岡県静岡市	つくりだす喜びを培う造形美術教育 ～「みる」ことの再考を通して～
51	23. 8	新潟県長岡市	「つくる喜び みる楽しみ かかわる・つながる造形教育 ～『よさ』が広がる造形活動を求めて～」
52	24.11	埼玉県所沢市	見つめよう 子どもの心 育てよう 確かな力
53	25.11	茨城県水戸市	人づくり しあわせづくり ゆめづくり
54	26.10	山梨県甲府市・ 南アルプス市・ 韮崎市	造形100年教育 ～わたしを俯瞰して見えるもの～〈全〉
55	27.11	栃木県宇都宮市・ さくら市	つなげよう 自分らしく生きる未来へ ～あふれる思い うみだす楽しさ つたえあう喜び～
56	28.11	神奈川県横浜市	「感じる つくる 生きる」 ～今をみつめ 明日を育む造形活動～

関東甲信越静地区造形教育連合規約

1. 本連合は、関東甲信越静地区造形教育連合といい、事務局を理事長所属の所に置く。
2. 本連合は、関東甲信越静地区の造形教育の振興を図り、各都県の親睦連絡を図ることを目的とする。
3. 本連合は、東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、栃木県、埼玉県、群馬県、山梨県、長野県、新潟県、静岡県下の各学校種別の造形教育研究団体をもって組織する。
4. 本連合は、その目的を達成するために、次の事業を行う。
 - (1) 本連合としての研究協議
 - (2) 各都県間の研究活動の協力助成
 - (3) 造形教育振興を目的とする他の団体への協力
 - (4) その他本連合が必要と認めた事業
5. 本連合に次の役員を置く。
 - (1) 理事長 1 名 (2) 副理事長 2 名
 - (3) 理事若干名 (4) 評議員若干名
 - (5) 監事 3 名 (6) 事業局長 1 名
 - (7) 顧問〔前年度大会委員長または運営委員長〕
6. 役員の任務は次のとおりとする。
 - (1) 理事長は、本連合を代表し、業務を処理する。
 - (2) 副理事長は理事長を補佐し、業務の処理にあたる。
 - (3) 理事は、本連合の運営にあたる。
 - (4) 評議員は理事を補佐し、各都県の研究団体との連絡運営にあたる。
 - (5) 監事は本連合の会計並びに事業を監査する。
7. 役員の選出は次のとおりとする。
 - (1) 評議員は各都県下の参加団体ごとに 4 名以内を選出する。
 - (2) 理事は各都県下の参加団体の代表者をもってあてる。
 - (3) 理事長・副理事長は理事の互選によって決める。
 - (4) 監事は理事会において、評議員の中から選出する。
8. 役員の任期は 1 ヶ年とし再任を妨げない。
9. 会議は次の二つとする。いずれも出席者の合議によって成立し、理事長がこれを招集する。
 - (1) 評議員会年 1 回以上。
 - (2) 理事会必要に応じて開く。
10. 本連合の経費は、各都県の会費及び分担金、その他の収入をもってあてる。
 - (1) 会費各都県ごとに年額 3,000 円・研究大会分担金 10,000 円
11. 本規約の改正は評議員の決議による。
12. 本規約についての細則は評議員の議を経て定める。

本規約は昭和43年 4 月20日より施行する。

本規約は昭和58年10月27日に改正し同日を以て施行する。

昭和62年 6 月13日、会費 2,000 円に改正し同日を以て施行する。

平成 1 年 7 月 3 日、監事を 3 名に改正し同日を以て施行する。

平成 2 年10月25日、会費を 3,000 円に改正し平成 3 年度を以て施行する。

第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会 運営組織一覧

関東甲信越静地区造形教育連合	理事長	本間 基史
運営委員長	瀧澤 優子	横浜市立西寺尾小学校

運営副委員長	木元 茂	横浜アイリス学園・幸ヶ谷幼稚園	幼稚園代表
	黒岩 弘明	横須賀市立大楠小学校	小学校代表
	長澤 博昭	横浜市立芹が谷中学校	中学校代表
	竹田 裕治	神奈川県立上矢部高等学校	高等学校代表
	清水 隆宏	横浜市立盲特別支援学校	特別支援学校代表

事務局

事務局長	長澤 博昭	横浜市立芹が谷中学校		
事務局次長	関根 凉子	横浜市立鳥が丘小学校		
	宮川友二郎	川崎市立小田小学校	栗木 雄剛	平塚市立大洋中学校
	木元 茂	横浜アイリス学園・幸ヶ谷幼稚園	中澤 務	横浜市立上の宮中学校
	佐藤 利行	川崎市立南大師中学校	日比野卓也	横浜市立本町小学校
総務	館松 斉	海老名市立海西中学校	吉田ゆかり	川崎市立宮内小学校
	小林 重之	横浜市立東山田中学校	五島 永幸	横須賀市立武山小学校
	古谷 尚	横須賀市立田浦中学校	中園 順子	川崎市立塚越中学校
	落合 陽香	横浜市立並木第一小学校	竹内 美穂	相模原市立上溝南中学校
	猪又 隆洋	県立横浜栄高等学校	東浦 進	横浜市立中田中学校
	福地 賢一	神奈川県私立幼稚園連合会		
庶務	山崎佐和子	川崎市立虹ヶ丘小学校	渡辺 晶子	横須賀市立城北小学校
	大貫 章光	川崎市立小田小学校	久保 孝之	相模原市立広田小学校
	安達 陽子	横浜市立勝田小学校	万木 麻里	横浜市立寛政中学校
	北村 佳子	横浜市立川和中学校	古屋 君江	川崎市立御幸中学校
	川本 佳織	横浜市立つつじが丘小学校	小田部羽純	藤沢市立御所見中学校
	川島 直樹	葉山町立葉山中学校	宮本 知保	県立麻溝台高等学校
	澁谷 典子	川崎市立菅生小学校		
経理	村田加奈子	横浜市立茅ヶ崎台小学校	小原 みはる	川崎市立大師小学校
	益子 藍	藤沢市立高倉中学校	川井 純子	横浜市立岩崎中学校
	渡邊 良未	横浜市立港南台第一小学校	河村 佳行	平塚市立大洋中学校
顧問	前原 秀司	神奈川県教育委員会こども教育支援課		

研究局

研究局長		菅原 恵市	横浜市立東山田小学校		
研究局次長		松下 友子	川崎市立川中島小学校	根津 憲一	開成町立文命中学校
		桃井 陽子	横浜市立原小学校	島津 泉	横浜市立芹が谷中学校
		登尾日出男	川崎市立京町中学校	太田 勇	横浜市立岡村小学校
		清水 隆宏	横浜市立盲特別支援学校		
基調研究		吉田 岳雄	横浜市立二俣川小学校	大高 修	川崎市立菅生小学校
		小野 慶子	横浜市立西寺尾小学校	永縄 啓太	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校
		長谷川順司	横浜市立荏田小学校	平野 英雄	大神美里幼稚園
		渡邊 重之	秦野市立秦野北中学校	成澤 朱美	川崎市立有馬中学校
		宮田 一宏	県立弥栄高等学校		
分科会	分科会	宮田 一宏	県立弥栄高等学校	江津 秀子	八幡橋幼稚園
		島津 泉	横浜市立芹が谷中学校	相原 典子	川崎市立王禅寺中央中学校
		笠本 健太	横浜市立西寺尾小学校	山崎 和子	鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園
		岡崎 陽子	横浜市立六浦南小学校		
	小学校 責任者世話人	吉田 岳雄	横浜市立二俣川小学校	高木 恵子	横須賀市立野比小学校
		竹下 護	横浜市立中和田南小学校	柴沼 敦子	相模原市立並木小学校
		日比野卓也	横浜市立本町小学校	福田 裕子	海老名市立海老名小学校
		加藤 順也	川崎市立東小田小学校	木下 優子	海老名市立大谷小学校
		佐野加寿子	川崎市立はるひ野小学校	古賀やよい	横浜市立茅ヶ崎東小学校
		大坪 恭子	横須賀市立桜小学校	中田小也香	平塚市立港小学校
	小学校 助言者等接待	田島 尚子	横浜市立鴨志田緑小学校	新川 麗子	横浜市立東本郷小学校
	中学校 責任者世話人	藤本 豊	横浜市立西中学校	細谷 由起	横浜市立汲沢中学校
		山本 芳子	横浜市立小山台中学校	稲葉 明美	横浜市立左近山中学校
		牛島 晋司	横浜市立茅ヶ崎中学校	山崎かおり	横浜市立岡村中学校
	中学校 提案	岡崎 梨里	鎌倉市立手広中学校	堀田 沙織	横須賀市立長井中学校
		飯田 哲昭	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校	榎本 典子	相模原市立鶴野森中学校
		相原 典子	川崎市立王禅寺中央中学校	吉田 浩気	横浜市立谷本中学校
	中学校 提案補助	新庄 憲彦	横浜市立永田中学校	山田 桃子	開成町立文命中学校
		光山 桂子	川崎市立田島中学校	小林 香	大和市立つきみ野中学校
		伴野 孝輔	横須賀市立野比中学校	飛田 泰弘	横浜市立本牧中学校
		亀澤 隼人	茅ヶ崎市立萩園中学校	中野 夢子	相模原市立上鶴間中学校
		吉村 磨未	平塚市立春日野中学校	小野多衣子	茅ヶ崎市立西浜中学校
	中学校 司会	大橋 佳子	相模原市立相陽中学校	石井 有彦	平塚市立山城中学校
		清水 清美	横須賀市立神明中学校	斎藤 祥子	松田町立寄中学校
		赤木 明子	藤沢市立滝の沢中学校	渥美 廣剛	厚木市立相川中学校
	中学校 記録	正留 まゆ	横浜市立森中学校	柳田みちる	川崎市立橘中学校
		佐久間直美	横浜市立日野南中学校	村上 奈央	相模原市立若草中学校
		吉田 有貴	川崎市立平中学校	菊池 聡美	横須賀市立久里浜中学校
	中学校 助言者他発表者接待	鈴木 麻衣	横浜市立市ヶ尾中学校	伊藤真理子	横須賀市立公郷中学校
		山里 輝文	川崎市立向丘中学校	倉持有里子	秦野市立東中学校
		久保田幸見	相模原市立共和中学校	石田久美子	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校

公開授業	公開授業	山崎 和子	鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園	長澤 秀行	川崎市立南加瀬中学校
		木都老克彦	金井幼稚園	甲斐 秀幸	県立上矢部高等学校
		小見満菜美	横浜市立西寺尾小学校	金阿彌 勉	横浜市立泉が丘中学校
		石川 裕貴	川崎市立宿河原小学校	松野 幸子	横浜市立仲尾台中学校
	幼稚園責任者	山崎 和子	鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園		
		堤 美香	鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園		
	責任者小学校	小見満菜美	横浜市立西寺尾小学校		
	小学校 公開授業	渡邊めぐみ	横浜市立西寺尾小学校	笠本 健太	横浜市立西寺尾小学校
		原 陽子	横浜市立西寺尾小学校	小見満菜美	横浜市立西寺尾小学校
		小野 慶子	横浜市立西寺尾小学校	小池 悠	横浜市立西寺尾小学校
		坂本 和俊	横浜市立西寺尾小学校	関根 明一	横浜市立西寺尾小学校
		小林 美貴	横浜市立西寺尾小学校	寺島 秀典	横浜市立西寺尾小学校
		平本 真澄	横浜市立西寺尾小学校	伊東 美樹	横浜市立西寺尾小学校
		相馬 仁美	横浜市立西寺尾小学校	宮本 英彦	横浜市立西寺尾小学校
		小山 貴明	横浜市立西寺尾小学校	岩本 理恵	横浜市立西寺尾小学校
		中村 美月	横浜市立西寺尾小学校	坂口 萌	横浜市立西寺尾小学校
	小学校 授業補助	猪股 千香	横浜市立すみれが丘小学校	横山 大介	横浜市立寺尾小学校
		松井 俊介	横浜市立東台小学校	鈴木 美央	横浜市立洋光台第二小学校
		矢島 直子	横浜市立斎藤分小学校	渡邊 良未	横浜市立港南台第一小学校
		高木 圭	横浜市立阿久和小学校	村田加奈子	横浜市立茅ヶ崎台小学校
		安部 静香	横浜市立子安小学校	安達 陽子	横浜市立勝田小学校
		野田 佑樹	横浜市立獅子ヶ谷小学校	長谷川俊充	横浜市立日吉南小学校
		永渕 耕	横浜市立大口台小学校	上田 陽子	横浜市立荏田東第一小学校
	小学校 授業記録	下原 美帆	横浜市立長津田小学校	平出 悦子	横須賀市立根岸小学校
		江口 裕美	横浜市立瀬谷小学校	谷川 理枝	相模原市立桜台小学校
		森長 理沙	横浜市立並木第一小学校	北村 綾	相模原市立当麻田小学校
		横山喜利穂	横浜市立大豆戸小学校	浅沼 梨香	座間市立座間小学校
		本田 真一	川崎市立百合丘小学校	柴沼ひとみ	座間市立ひばりヶ丘小学校
		藤原由布子	川崎市立宮崎小学校	竹岡 祥子	小田原市立酒匂小学校
		池谷 紘子	横須賀市立浦賀小学校	山本 孝史	伊勢原市立桜台小学校
	中学校 公開授業	森元 勇気	厚木市立睦合中学校	清水めぐみ	茅ヶ崎市立鶴嶺中学校
		長谷川 聡	横浜市立旭中学校	山田 香織	横浜市立本郷中学校
		長澤 秀行	川崎市立南加瀬中学校	鈴野 江里	鎌倉市立岩瀬中学校
	中学校 授業補助	新庄 憲彦	横浜市立永田中学校	山田 桃子	開成町立文命中学校
		光山 桂子	川崎市立田島中学校	小林 香	大和市立つきみ野中学校
		伴野 孝輔	横須賀市立野比中学校	飛田 泰弘	横浜市立本牧中学校
		亀澤 隼人	茅ヶ崎市立萩園中学校	中野 夢子	相模原市立上鶴間中学校
		吉村 磨未	平塚市立春日野中学校	小野多衣子	茅ヶ崎市立西浜中学校
	中学校 会場案内 会場係	中島 香	川崎市立西生田中学校	安東衣美子	横浜市立鴨居中学校
		横井綾紀子	横浜市立東鴨居中学校	烏谷 紗規	伊勢原市立中沢中学校
		圓谷 唯	横浜市立潮田中学校	奥澤 司	川崎市立犬蔵中学校
	中学校 公開授業道案内	山川 美枝	大磯町立大磯中学校		
		高橋 信子	川崎市立南大師中学校		

公開 授業	中学校 記録写真	小森 岳彦	川崎市立宮前平中学校	山上 祐子	座間市立南中学校
		杉山 朋嶺	藤沢市立高浜中学校		

顧問	大泉 義一	横浜国立大学教育人間科学部准教授
	江口 和良	横浜市教育委員会指導企画課 主任指導主事
	井田 善之	横浜市教育委員会西部教育事務所 指導主事

編集局

編集局長	黒岩 弘明	横須賀市立大楠小学校		
編集局次長	尾崎 美幸	川崎市立木月小学校	田口 雅之	川崎市立富士見台小学校
	石川 代治	横浜市立南太田小学校	竹下 護	横浜市立中和田南小学校
	阿部 雅子	横浜市立六角橋中学校		
大会案内	南澤 寛樹	横浜市立桂小学校	黒澤 正道	横須賀市立公郷小学校
	井上 陽喜	横浜市立すすき野中学校	木都老克彦	金井幼稚園
	小島 久尚	県立川崎高等学校		
大会研究誌	足立 真弓	横浜市立二つ橋高等特別支援学校	加藤 淳也	秦野市立渋沢中学校
	北村 健太	川崎市立麻生中学校	三田 政明	横浜市立二つ橋高等特別支援学校
	桑野 麻美	横浜市立南吉田小学校	木都老克彦	金井幼稚園
	安部 静香	横浜市立子安小学校	福井 青士	県立厚木清南高等学校
大会記録 報告書編集	黒田 智	川崎市立久本小学校	足立 真弓	横浜市立二つ橋高等特別支援学校
	木村 光鉦	川崎市立住吉小学校	木都老克彦	金井幼稚園
	川原美奈子	川崎市立京町中学校	千田 薫	秦野市立大根中学校
	朝野 祥子	横浜市立中丸小学校	蓬田 真	県立瀬谷高等学校
	荻島 千佳	横浜市立上飯田中学校	入間川 希	横須賀市立明浜小学校

顧問	笹嶺 由香	相模原市教育委員会 指導主事
	岩崎 知美	川崎市総合教育センター 指導主事
	松原 雅俊	横浜市教育委員会教職員育成課 課長

事務局

事業局長		藤城 守	横浜市立すみれが丘小学校	井口 貴夫	県立上矢部高等学校
事業局次長		萩野谷洋一	大和市立つきみ野中学校	相原 裕	横浜市立上白根中学校
		中臣 信丈	川崎市立新城小学校	本江伊智郎	横浜市立並木中学校
会場設営・受付	会場設営	沢田 倫徳	横浜市立勝田小学校	長谷川 聡	横浜市立旭中学校
		竹下 恭介	横浜市立高田中学校		
	関内ホール	佐野 樹	横浜市立俣野小学校	竹下 恭介	横浜市立高田中学校
		高橋 朝子	横浜市立桜岡小学校	菅野 遥希	横浜市立鶴見中学校
		魚住久美子	川崎市立川中島小学校	松本 真一	横浜市立港南台第一中学校
		眞砂野 礼	川崎市立川中島小学校	古川菜穂子	横浜市立希望が丘中学校
		島津 宏子	横須賀市立桜小学校	山本 美玲	川崎市立住吉中学校
		樋川 郁子	相模原市立谷口台小学校	坂井 祐子	川崎市立西中原中学校
		海部祐喜子	横浜市立西本郷中学校		
	小学校 公開授業 分科会	吉田 岳雄	横浜市立二俣川小学校	森長 理沙	横浜市立並木第一小学校
		竹下 護	横浜市立中和田南小学校	中島由美子	横浜市立神奈川小学校
		日比野卓也	横浜市立本町小学校	河原 早希	横浜市立左近山小学校
		加藤 順也	川崎市立東小田小学校	小野田浩士	川崎市立宮崎小学校
		佐野加寿子	川崎市立はるひ野小学校	小澤 朋子	川崎市立古川小学校
		大坪 恭子	横須賀市立桜小学校	原 美由紀	川崎市立小田小学校
		高木 恵子	横須賀市立野比小学校	加藤 寛子	横須賀市立栗田小学校
		柴沼 敦子	相模原市立並木小学校	今井実紀子	横須賀市立鶴久保小学校
		福田 裕子	海老名市立海老名小学校	門間 恵子	相模原市立千木良小学校
		木下 優子	海老名市立大谷小学校	佐藤 光	相模原市立相模台小学校
		古賀やよい	横浜市立茅ヶ崎東小学校	早野 英子	大磯町立国府小学校
		中田小也香	平塚市立港小学校	押田 彰子	厚木市立依知小学校
	中学校 会場設営 受付	郡 健司	横浜市立軽井沢中学校	小森 恵	川崎市立玉川中学校
		齋藤 清	横浜市立西谷中学校	湯瀬 明意	川崎市立渡田中学校
		清水 和子	横浜市立富岡中学校	松原 綾	川崎市立富士見中学校
		神保 夏子	横浜市立万騎が原中学校	椰野 修平	川崎市立高津中学校
		鳥塚 恵美	横浜市立菅田中学校	鈴木 眞帆	川崎市立菅生中学校
		並木 浩	横浜市立南瀬谷中学校	芳賀 徹	川崎市立平間中学校
展示	企画	岩田 裕光	横須賀市立田浦小学校	渡邊 五大	県立上矢部高校
		杉山 節子	横浜市立盲特別支援学校	橋本 昌尚	横浜市立新井小学校
	関内ホール	横山喜利穂	横浜市立大豆戸小学校	沢登 英希	横浜市立岡野中学校
		荒金 庸子	川崎市立殿町小学校	三宅 正広	横浜市立上白根中学校
		曾我部亜貴	横須賀市立追浜小学校	和田 朝彦	川崎市立南生田中学校
		大森 幸子	相模原市立若松小学校		
	小学校 公開授業 分科会	嶋川 美紀	横浜市立六浦小学校	大島 晶子	川崎市立御幸小学校
		村松 美佐	横浜市立和泉小学校	後藤 さやか	横須賀市立田戸小学校

展示	小学校公開授業分科会	宮川 裕子	川崎市立西菅小学校	大森 幸子	相模原市立若松小学校
	中学校 公開授業 分科会	松本 麗子	横浜市立平楽中学校	東川美英子	川崎市立白鳥中学校
		柳田麻利江	横浜市立横浜吉田中学校	山科こずえ	藤沢市立村岡中学校
		江野 緑朗	川崎市立長沢中学校	上田 博幸	三浦市立南下浦中学校
		竹下 恭介	横浜市立高田中学校		
HP デザイン	HPデザイン 運営 企業協賛	永山 正夫	相模原市立新町中学校	長谷川俊充	横浜市立日吉南小学校
		小川 俊輔	川崎市立東大島小学校	日永 一徹	座間市立座間小学校
	関内ホール	橋川 巧	相模原市立九沢小学校		
	分科会 幼	木元 茂	横浜アイリス学園・幸ヶ谷幼稚園		
	分科会 小	佐藤 俊也	横浜市立上菅田小学校		
	分科会 中	休石 洋孝	横浜市立領家中学校		
受付・案内・接待	受付案内接待	木村 裕子	横浜市立六浦南小学校	山田 礼子	川崎市立犬蔵小学校
	関内ホール	佐野 樹	横浜市立俣野小学校	竹下 恭介	横浜市立高田中学校
		高橋 朝子	横浜市立桜岡小学校	菅野 遥希	横浜市立鶴見中学校
		魚住久美子	川崎市立川中島小学校	松本 真一	横浜市立港南台第一中学校
		眞砂野 礼	川崎市立川中島小学校	古川菜穂子	横浜市立希望が丘中学校
		島津 宏子	横須賀市立桜小学校	山本 美玲	川崎市立住吉中学校
		樋川 郁子	相模原市立谷口台小学校	坂井 祐子	川崎市立西中原中学校
		寺瀬 秀夫	川崎市立犬蔵小学校		
	小学校 公開授業 分科会	山崎 伸之	横浜市立生麦小学校	白石 裕之	川崎市立向丘小学校
		杉原 祥恵	横浜市立神橋小学校	中島麻実子	相模原市立清新小学校
		能登 啓允	川崎市立新城小学校		
	中学校 公開授業 分科会	渡辺 礼子	横浜市立錦台中学校	岡屋 守	鎌倉市立御成中学校
		茂木ありさ	横浜市立原中学校	宮本 和子	鎌倉市立第一中学校
		太田 景子	川崎市立菅中学校	宇都宮 祐	秦野市立本町中学校
		前田茉莉江	川崎市立稲田中学校	井上 敦子	湯河原町立湯河原中学校
		川井あす香	横須賀市立池上中学校	中野布美子	海老名市立大谷中学校
レセプション	レセプション	永渕 耕	横浜市立大口台小学校	柳谷 記奈	横浜市立新吉田小学校
	会場設営受付	藤澤 達	横浜市立能見台南小学校	海部祐喜子	横浜市立西本郷中学校
	受付案内接待	川谷 裕子	横浜市立末吉小学校	荒井 響子	横浜市立南が丘中学校
		高橋 陸美	横浜市立神奈川小学校	木元 茂	横浜アイリス学園・幸ヶ谷幼稚園
		本間 光弘	横浜市立六浦中学校		
	企画運営	豊田 宏輔	横浜市立上菅田小学校	木元 茂	横浜アイリス学園・幸ヶ谷幼稚園
		藤井 敬三	川崎市立向丘小学校	藤木 甲奈	横浜市立牛久保小学校
		山口 敬	横浜市立蒔田中学校		

顧問	橋井 香苗	神奈川県教育委員会
	寺澤みゆき	横浜市教育委員会南部教育事務所 主任指導主事
	谷口なおみ	横浜市教育委員会人権教育・児童生徒課主任指導主事

編集後記

第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会を開催するにあたり、文部科学省、神奈川県教育委員会をはじめ、開催地横浜市、関係諸機関、教育関係諸団体の皆様に多大なるご支援、ご協力を頂きましたことを感謝申し上げます。

今年度は「感じる つくる 生きる ～今をみつめ 明日を育む造形活動～」を大会テーマに掲げ、オール神奈川で、研究を進め、広げ、深めてまいりました。本大会に参加された皆様にとって、全体会、講演会、公開保育・授業、校種別分科会、ワークショップ等が、日々の造形活動の昨日を振り返ると共に、今日を見つめ、明日を拓く、有意義な機会となることを切に願っております。

私たちは、心豊かにたくましく生きる子どもたちの育成を目指す造形教育のバトンを、次回開催地の長野県へとつないでいきたいと思います。本大会運営にご協力頂き、ありがとうございました。

(神奈川大会編集局)

第 56 回 関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会

発行日 平成28年11月17日

発行者 関東甲信越静地区造形教育連合

理事長 本間 基史

関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川大会

運営委員長 瀧澤 優子

事務局 神奈川大会事務局次長 中澤 務

横浜市立上の宮中学校

〒230-0075 横浜市鶴見区上の宮一丁目 26 番地 33 号

TEL 045-582-8801 FAX 045-585-9914

発行 株式会社 コミュネクト

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-14 九段北 TL ビル 7F

TEL 03-3556-7037 FAX 03-3556-7038

